

- 事實裁判所ハ事情ニ依リ契約ノ真意ト其契約書ノ明文トカ相符合セサルモノト認ムルトキハ其明文ニ反シテ契約ノ旨趣ヲ解釋スルコトヲ得ヘシ
- 行政上ノ漁業取締規則ニ背反スル契約ハ縱令其規則發布以前ノ締結ニ係ルモノト雖モ當然無効ニ歸ス
- 契約ノ要素タル目的ノ錯誤ハ其承諾ヲ阻却スルモノトス
- 一旦適法ニ成立シ後日或事由ニ依リテ消滅シタル契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ其效力ヲ復活スルコトヲ得
- 契約ハ法律上書面ヲ要スル要式契約ヲ除ク外當事者相互ノ意思表示ノミニ因リ成立ス
- 貸座敷營業者ト娼妓トノ間ニ於ケル金錢貸借上ノ契約ト身體ヲ拘束スルヲ目的トスル契約トハ各自獨立ニシテ身體ノ拘束ヲ目的トスル契約ハ無効ナリ
- 當事者ニ於テ或債務履行ノ爲メ期間ヲ定メ其期間ノ經過ノミニ依リ直ニ契約ヲ解除シ得ヘキ旨ヲ特約スルコトハ當事者ノ自由ニシテ斯ノ如キ契約ハ民法實施前後ヲ問ハス有効ナリ
- 當事者ノ一方ハ其相手人ニ對シ某寺ノ住職ニ推舉スルコトヲ約シ他ノ

三	三	三	三	三	三
四	二	二	二	九	三
八	八	七	一四	一	八

- 一方ハ其相手人ニ對シ該寺ノ負債ヲ分擔スルコトヲ約シ右二箇ノ約束相互ニ約因ト爲リテ組成シタル契約ハ民法上無効ニ非ス
- 入札及ヒ契約ニ關スル條件ヲ公告シテ競争契約者ヲ召募スルトキハ政府ハ契約ノ申込人ニシテ之ニ應シ入札スル者ハ承諾者ナリ
- 入札者カ承諾ノ意思ヲ表示シタル時期ハ其入札ノ開披ヲ始メタルトキニ在ルモノトス
- 期限ニ辨濟ヲ怠ルトキハ抵當物件ヲ以テ辨濟ニ充ツヘシトノ契約ハ裁判上有效ノ契約ト認メサル慣例ナリ
- 手形ニ署名セスシテ内實手形債務ヲ負擔シタル者カ更ニ普通契約ヲ以テ手形面ノ金額ノ支拂ヲ約シタルトキハ諾約者ハ該契約ヨリ生スル債務ヲ履行スヘキ責任ヲ負フモノトス
- 宅地ノ一部ヲ賣渡シタル者カ後日分割ノ上名義書換ノ手續ヲ行フヘキ特約ヲ以テ便宜上其宅地ノ全部ニ付キ賣買登記ヲ了シタル場合ニ於テハ該契約ハ一種ノ無名契約ト云フヲ得ヘキモ敢テ法律ノ禁止セル事項ニ非ス故ニ判決ヲ以テ該契約ノ履行ヲ命セラルルトキハ其判決ハ即チ登記原因ニシテ訴狀中此他ニ登記原因ヲ表示スル必要ナシ
- 一定ノ人ノ間ニ於テ或契約ヲ爲スニ當リ其責任ノ範圍若クハ態様ヲ定

三	三	三	三	三	三
五	五	五	五	五	五
八	一七	一七	一七	一七	一七

ムル爲メ手形振出人又ハ裏書人ノ責任ヲ以テ之カ標準トスルハ違法ニ非ス

○承諾ノ期間ヲ定メスシテ對話者ニ爲シタル申込ハ直ニ承諾ヲ爲スニ非サレハ契約成立スルコトナシ

(參照)

幼者ノ能力如何ニ從テ契約ノ有效ナルト否トハ裁判所ノ事實ノ判斷ニ由テ定マル未丁年者ノ契約ニ於ケル能力ノ程度ハ本邦未タ一定ノ規定ナキヲ以テ幼者ノ年齢力普通ノ能力ヲ有スルニ至リタルヤ否ヤ又其契約力能力ヲ有セスシテ爲シタルモノト認ムヘキ事情アルヤ否ヤ等其事實ヲ審査シテ能力ノ有無ヲ判斷スルコト當然ナレ

契約書ニ錯誤アリテ其書面ノ如ク履行スルコト能ハサル場合ト雖モ當事者ニ於テ他ノ方法ニ由リ履行スルノ意思アルトキハ必スシモ其契約ヲ無効ト爲スヲ要セス能力者間ノ金錢授受ハ法律上一應正當ノ原因アリタルモノト推定ス

契約ハ法律上ノ範圍内ニ於テ自由ニ爲シ得ヘキモノナレハ小作米ノ延滞ニ依リ賣戻契約ヲ當然解除スル旨ノ契約ヲ認メタル判決ハ相當ナリ

單ニ利子ヲ付スルノ契約ハ直チニ契約上ノ利子ヲ支拂フヘキ義務ヲ生セス

物件ヲ讓渡スニ付キ其契約當事者カ所有權移轉ノ效力ヲ或條件ニ繫ラシメ其條件ノ成否未定ノ間貸借ノ效力ヲ生セシムル合意ハ有效ナリ

無効ノ事實ハ之ヲ證明シ能ハストノ原則ナシ故ニ契約ニ原因ヲ缺クコトヲ主張シ其成立ヲ爭フモノハ之ヲ證明スルノ責任アリ

幼者ニ後見人設定ナキ場合ニ於テ親戚立會モ幼者一家ノ利益ノ爲メニ爲シタル契約ハ幼者ノ

三九	二九	二九	二八	二八	二七	二六	三九	三
八	八	四	五	二	二	二	二	二
八二	一九	五七	五	三六	一	三九	二四三	一八九

爲メ有效ナルモノトス

收益ノ讓渡ハ普通未來ニ於テ收入スヘキモノヲ目的ト爲スモノナレハ契約成立以前ノ收入讓渡ニ付テハ特約アルヲ要ストノ裁判ハ相當ナリ

部分木仕付ノ權ハ管轄官廳ニ願出テ其許可ヲ得タル上ニ非サレハ他ニ讓渡スコトヲ得ス故ニ之ニ反對ノ合意ハ法律上無効ニシテ何等ノ效果ヲ生スルコトナシ

將來得ヘキ共有權ノ持分ヲ讓渡スルノ契約ハ一種ノ條件附契約ニシテ法律ノ禁スルモノニ非ス又單ニ希望ノミニ止マルモノニ非ス

第二款 契約ノ效力

○雙務契約者ノ一方カ一部ノ履行ヲ爲ササル場合ニ於テハ他ノ一方ハ之ニ應スル一部ノ履行ヲ拒ムヲ得ヘキモ他ニ特別ノ理由ナキ限りハ之ヲ以テ全部ノ履行ヲ拒ムコトヲ得ス

○雙務契約ノ履行ニ付キ相手方ノ行爲ヲ要スル場合ニ在テハ現實物件ノ提供ヲ爲ササルモ提供ノ準備ヲ爲シ之ヲ相手方ニ通知シテ辨濟ヲ受クヘキ旨ヲ催告スルトキハ提供アリタルモノト看做スヘキモノトス

○民法第五百三十四條物ノ滅失ノ事由カ債務者ノ責ニ歸スヘキトキトハ其滅失カ債務者ノ行爲又ハ過失ト事實上原因結果ノ關係ヲ有シ其行爲又ハ過失ナカリセハ滅失モ亦生セサリシト認メ得ヘキ場合ヲ云フ

○請負ニ係ル建築物カ其竣工前天災ニ罹リ破壊シタルトキハ之ニ因テ生

三九	二九	二九	二八	二八	二七	二六	三九	三
八	八	四	五	二	二	二	二	二
八二	一九	五七	五	三六	一	三九	二四三	一八九

シタル損害ハ所有者タル請負人ノ負擔ニ歸スヘキモノナルヲ以テ特別ノ事情ナキ限りハ注文者ニ對シ其工事ニ關スル費用ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

○第三者ノ爲メニスル契約モ亦自己ノ爲メニスル契約ト同シク之ニ因テ生スル債務ニ期限若クハ條件ヲ附著セシメ得ルモノトス

○他日成立スヘキ會社ノ爲メニ締結スル契約ハ其會社ノ成立ヲ條件ト爲シタル契約ニ外ナラスシテ斯ル場合ニハ其利益ヲ享受スヘキ第三者ハ其契約當時必スシモ現存スルコトヲ要セス

○民法第五百三十七條ハ當事者カ第三者ノ利益ノミノ爲メニスル場合ハ勿論第三者カ契約ヨリ生スル利益ヲ享受セント欲セハ自ラ反對給付ヲ爲ササルヘカラサルカ如キ場合ヲモ併セテ規定シタル法條ナリトス

○同時履行ノ原則ハ契約當事者ノ一方カ債務ノ履行ヲ爲ササル場合ニ於テ相手方ニ自己ノ債務履行ヲ拒絕シ得ヘキ權利ヲ付與シタルニ過キスシテ當事者雙方ノ義務カ同時ニ履行セラレタリトノ推定ヲ生セシムルモノニ非ス

○民法第五百三十七條ハ契約ニ依リ當事者ノ一方カ第三者ニ對シテ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタル場合ノ規定ニシテ其第三者ハ債務者ニ對

シ直接ニ契約ノ目的タル給付ヲ請求スル權利ヲ取得スルニ至ルモノナレハ第三者カ給付ヲ受クヘキ債權關係ハ契約當事者ノ一方ト第三者トノ間ニ於テ未タ曾テ存在セサルモノナルヲ要ス

○民法實施前ニ在リテモ契約ニ依リ當事者ノ一方カ第三者ニ對シテ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタル場合ニ第三者カ債務者ニ對シ契約ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタルトキハ其表意ノ時ヨリ直接ニ該給付ヲ請求スルノ權利ヲ取得スルモノトス

(同義句)

契約當事者ノ一方カ第三者ニ對シ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタル場合ニ於テ第三者カ其利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタルトキ債務者ニ對シテ直接ニ其請求ヲ爲シ得ルコトハ民法實施以前ニ於テモ法理トシテ認メラントス

契約當事者ノ一方カ第三者ニ對シ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタル場合ニ於テ第三者カ其契約ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタルトキ債務者ニ對シテ直接ニ給付ヲ請求シ得ルコトハ法理上當然ニシテ特ニ規定ノ存在ヲ要スルモノニ非ス故ニ民法實施前ニ在テモ第三者ヨリ債務者ニ對シ直接ニ給付ヲ請求スルコトヲ得

○雙務契約ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ其債務ヲ履行セサルニ拘ハラヌ相手方ニ對シテ債務ノ履行ヲ請求スルトキハ相手方ハ契約ヲ解除スルコトヲ他ノ一方カ其債務ノ履行ヲ提供スルマテ自己ノ債務ノ履行ヲ

三五	二〇〇
三六	一九九
三七	一九九
三八	一九九
三九	一九九
四〇	一九九

三七	六三三
三八	三六
三九	四七三
四〇	八〇九

拒絕シ得ルモノトス

○身元引受契約ニ付テハ法令ニ於テ特別ノ效力ヲ付與シ若クハ一定ノ範圍ヲ指示シタル規定ナケレハ一ニ表意者ノ意思解釋ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス

○第三者ノ所有スル地所ニ工事ヲ施スコトヲ契約シタル場合ト雖モ其履行ヲ爲サントスルニ當リ第三者之ヲ承諾スルニ於テハ履行可能ナルカ故ニ該契約ハ不能ノ事項ヲ約シタル無効ノ行爲ナリト云フヲ得ス從テ當事者ノ一方カ相手方ニ對シ其履行ヲ請求スルハ不能ノ行爲ヲ強ユルモノニ非ス

○第三者カ債務者ニ對シテ豫メ其債務ヲ辨濟スヘキ旨ヲ約スル契約ハ有效ナルヲ以テ第三者カ其約旨ニ基キ辨濟ヲ爲ササルトキハ債務者ニ對シテ不履行ノ責アルコトヲ免レス

(參照)

公示セサル契約ハ第三者ヲ羈束スル效力ナシ

公示ノ方法ハ第三者ヲシテ安全ニ其權利ヲ取得セシムルモノナルニ依リ秘密契約ヲ以テ公示ヲ經テ取得シタル第三者ノ權利ヲ失ハシムルコトヲ得ス

義務履行期限ノ契約ハ單ニ期限ノ經過ニ依テ義務ノ消滅若クハ變更ヲ來スヘキモノニ非ス契約ノ目的物カ結約ノ當時他人ヘ抵當ニ差入レアリシコト明瞭ナルニモセヨ債務者ノ處分權

内ヲ離脱セサル以上ハ其實力ヲ盡シテ之ヲ受戻シテ契約ヲ履行スルノ義務アルモノトス凡ソ適法ニ成立シタル契約ハ當事者雙方ノ承諾ニ出ツル歟又ハ契約ノ目的ヲ履行シ能ハサル正當ノ原因ヲ證明スルニ非サルヨリハ一方ノ意思ヲ以テ輒ク廢罷スルコトヲ得ス

契約ノ當事者ニ非スシテ其契約ノ履行ヲ求ムルヲ得ス
雙務契約一旦成立シテ雙方ノ者既ニ各別ノ義務ヲ負擔シタル以上ハ其義務ハ各自獨立スヘクシテ以後其運命ヲ共ニスヘキモノニ非ス是故ニ義務ノ免脱ヲ得ルニハ各自各別ニ法律上義務消滅ノ原因ニ依ラサルヘカラス乃チ一方(上告人)ノ義務ノ一部タルモノカ契約上ノ引渡期限以前ニアリテ天災ノ爲メ滅盡シ引渡ノ義務ヲ盡ササルニ非ス之ヲ盡ス能ハサルコトニ至ルトキハ法律上義務消滅ノ原因中所謂履行ノ不能ニ依リ當然其義務ノ免脱ヲ得ヘキモノトス然ルニ原院ハ目的物一部ノ滅盡ニ對シ一方(上告人)ニ所有權アルニ執拗シ他ノ一方(被上告人)ニ代金支拂ノ義務ナキモノト判決シタルハ其當ヲ得サルモノナリ

雙務契約ノ履行ヲ要求スル者ハ先ツ自己ノ義務ヲ履行スルヲ要ス
合意ハ當事者及ヒ其承繼人ノ間ニ限リ效力ヲ有スルハ普通ノ原則ナリト雖モ變例トシテ第三者ニ效力ヲ及ボスコトアリ

戶主カ家族ノ利益ノ爲メ契約ヲ爲ストキハ家族カ代表セラレタルト同一ノ效力ヲ有シ家族ニ於テ當然其契約ノ利益ヲ享受スルハ我國ノ慣例ナリ

家族ノ利益ノ爲メニ締結シタル戶主ノ契約ニ付テハ家族ニ於テ其權利ヲ訴求スルコトヲ得實家ノ戶主ト他家ニ縁組シタル家族トノ關係ニ付テモ前項ト同様ナリ

雙務契約ハ給付ノ順序ニ付キ特約ナキトキハ當事者雙方ニ於テ同時ニ之ヲ履行スヘキモノトス故ニ未タ義務ヲ履行セサル一方ハ他ノ一方ニ對シ之カ履行ヲ求メ得ヘキモノニ非ス

二九	二九	二九	二九	二九	二七	二七	二六	二五	四〇	四〇	三九	三六
六	三	三	三	三	二	二	二	一	一	一	一	一
六二	七三	七三	七三	七三	八	四九四	三三〇	二二五	二二九	一〇七四	一四六二	六九三

契約ノ效力ハ其當事者ニ限ラス第三者ニ及フコトアリ故ニ當事者ノ一方カ第三者ニ對シ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタル場合ニ於テ第三者カ其利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタルトキハ債務者ニ對シ直接ニ其請求ヲ爲スコトヲ得

汽船ノ乗客カ汽船仲次營業者ノ報知ニ依リ發航日時ヲ信用スルハ普通ノコトナレハ之カ爲メ懈怠ノ責ヲ生セス

秘密契約ハ第三者ニ對シ效力ヲ及ボササルヲ通例トス故ニ秘密契約ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三款 契約ノ解除

- 手附流ノ契約ト雖モ履行時期ノ徒過ハ契約解除ノ原因タルニ止マリ之カ爲メニ其義務ハ當然消滅スルモノニ非ス
- 契約ノ解除權ヲ有スル者カ自己ノ行爲又ハ過失ニ因テ契約ノ目的物ヲ滅失セシメ爲メニ相手方ヲ原狀ニ回復セシムルコトヲ得サルニ至ラシメタルトキハ其解除權ヲ行使スルコトヲ得サルモノトス
- 契約ノ解除權ヲ有スル者カ其權利ヲ實行セントスルニハ相手方ニ向テ之カ意思表示ヲ爲スヘキコトハ民法施行前ニ於テモ尙ホ今日ト異ナラス
- 契約ノ解除ハ意思表示ノミニテ足り訴ヲ以テスルヲ要セサルニ付キ裁判上契約解除ノ承認ヲ言渡スカ如キハ失當ナリ

二九	三〇	三〇	三〇	三三	三四
一〇	二	二	二	二	四
一三	三九	六	二四	八七	七

- 賣主ハ賣買ノ條件ヲ履行セサル買主ニ對シテ賣買ヲ解除スルモ買主ノ轉賣ニ付キ保證人タルトキハ原賣買ノ條件ヲ了知セサル轉得者ニ對シ轉賣者ノ承繼人ナリトシテ原賣買ノ解除アリタルコトヲ主張スルコトヲ得ス
- 契約ノ解除ハ反對ノ規定若クハ反對ノ意思表示アラサル場合ニ於テハ當事者間ニ未タ會テ法律關係ノ存セサリシカ如ク看做スヘキモノナレハ當事者ハ互ニ相手方ヲ原狀ニ復セシムルノ義務ヲ負フモノトス
- 契約ヲ解除シタルトキハ雙方ノ當事者ハ互ニ其相手方ヲシテ契約締結以前ノ情態ニ復セシムルヲ以テ足ル故ニ特定物ノ買主ハ其原物ヲ返還シ不特定物即チ代替物ノ買主ハ其原物若クハ之ト同種類同品位ノ物ヲ返還スルヲ以テ足ルモノトス
- 當事者ハ一旦成立シタル契約ヲ解除シ又ハ其契約ヲ變更シ得ルモ一度解除シタル契約ヲ復活シテ最初ヨリ解除セラレサリシカ如ク爲スコトヲ得ス
- 違約者ハ違約セサル相手方ニ對シテ契約解除ノ權利ヲ有スルコトナシ
- 契約ニ依リ當事者ノ一方ニ解除權ヲ付與シタル場合ニ於テ相手方カ債務ヲ履行セサルトキハ敢テ履行ノ催告ヲ爲スコトヲ要セス其相手方ニ

三五	三七	三七	三七	三七	三七
五					
一五二	七	一五三	一八三	二二九	

- 對スル意思表示ヲ以テ直ニ解除權ヲ行使スルコトヲ得ヘシ
- 契約當事者ハ苟モ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セサル以上ハ相手方ノ不履行ニ因ル解除ノ場合ト約定條件ノ到來ニ因ル解除ノ場合トヲ分クス豫メ有效ニ其解除權ヲ拋棄シ得ルモノトス
- 民法第五百四十三條ハ契約ノ履行カ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ絶對ニ不能ト爲リタル場合ヲ規定シタルモノニシテ其履行カ單ニ困難ト爲リタル場合又ハ債務者ニ於テ其債務ヲ履行セサルコトヲ明言シタル場合ヲ規定シタルモノニ非ス
- 民法施行前ヨリ契約上ノ債務ヲ負擔スル者カ其施行ノ後ニ至リテモ尙ホ之ヲ履行セサルトキハ債權者ハ民法施行法第五十三條ノ規定ニ依リ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
- 買主カ手附金ヲ交付スヘキ債務ヲ負擔セル場合ニ於テ賣主ニ對スル債權ト之ヲ相殺シタルトキハ縱令其賣買契約ハ解除セララルモ相殺ハ依然其效力ヲ存スヘキモノナレハ買主ハ手附金ノ返還ヲ求ムルコトヲ得
- 契約解除ノ意思表示ニ付テハ法律上何等ノ方式ヲ要スルモノニ非サレハ訴訟當事者ハ訴狀答辯書若クハ口頭辯論ニ於テ攻撃又ハ防禦ノ方法トシテ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

三	三	三	三	三
九四	二二五	一四五	四〇三	一七八

(同至言)

- 契約解除ノ意思ヲ表示スルニハ明示ノ方法ニテモ又ハ默示ノ方法ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘキニ因リ解除權ヲ有スル者カ契約ノ存續ト相容レサル請求ノ訴狀ヲ相手方ニ送達シタルトキハ解除ノ效力ヲ生スルモノトス
- 契約解除ノ意思表示ニハ法律上特ニ方式ノ規定ナキニ因リ買戻契約ノ當事者間ニ於テ買戻ヲ請求スル旨ノ訴狀カ相手方ヘ送達セラレタルトキハ則チ意思表示カ相手方ヘ到達シタルトキナルヲ以テ賣買契約ノ解除ハ此時ニ於テ其效力ヲ生スルモノトス
- 契約解除ノ意思表示ヲ爲ス方法ニ付テハ法律上一定ノ法式アラサルヲ以テ何等ノ方式ニ依リテモ之ヲ爲シ得ヘキモノトス故ニ訴訟提起ト共ニ訴狀ニ依リテ其意思表示ヲ爲ストキハ訴狀カ相手方ニ送達セララルト同時ニ其意思表示モ亦相手方ニ到達スルヲ以テ茲ニ解除ノ效力ヲ發生スヘシ
- 契約ノ解除ハ特別ノ規定若クハ意思表示ナケレハ當然其全部ニ及フモノトス從テ契約ニ因ル債務ヲ一時ニ辨濟スヘキ場合タルト數回ニ分チテ之ヲ辨濟スヘキ場合タルト論セス債權者ハ一部ノ不履行ニ因リテ全部ノ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘシ
- 月賦辨濟ノ契約ニ於テ債務者カ月賦辨濟ヲ怠リタルトキハ一時ニ殘金全額ノ辨濟ヲ請求シ得ヘキ旨ノ約定アル場合ニハ縱令債務者カ辨濟ヲ怠ルモ其請求權ヲ行使スルト否トハ債權者ノ自由ナレハ苟モ債權者ニ於テ取消ノ意思ヲ表示セサル限り該契約ハ依然トシテ有效ニ存在スル

三	三	三	三
一四七九	五九二	三	五

モノトス

○契約ノ不履行ニ因リテ現實ノ損害ヲ被フリタル當事者ハ相手方ニ對シテ契約ヲ解除シタルニ拘ハラズ其損害賠償ヲ請求スルノ權利アリ

(參照)

支拂期日ヲ怠リタルトキハ賣戻約定ハ當然無効タルヘシトノ賣戻約定證ヲ所謂條件附ノ契約ト認定シタル上ハ遲滞ニ付スルヲ要セス直チニ解除セラルヘキハ契約ノ性質上當然ルヘキコトナリ

義務不履行ハ損害ノ證明ナキモ契約ノ解除ヲ求ムル理由トナルモノトス

契約者ノ一方ヲ違約者タル事實確定シ契約ヲ履行スル能ハサル情況アルトキハ他ノ一方ハ契約解除ノ權アルコトハ雙務契約ニ於ケル普通ノ法理ナリトス

契約取消ノ訴訟ハ必スシモ其契約關係者ヲ同時ニ被告ト爲ササルモ成立ツヘキモノトス

雙務契約ハ一方ニ於テ義務ヲ怠リタル事實アルモ他ノ一方ニ於テ何等ノ手續ヲモ盡サス當然其契約ヲ解除シ得ヘキモノニ非ス

買賣契約ニシテ特約ナキ限りハ單ニ其豫定ノ履行期限經過シタル一事ヲ以テ契約ハ當然解除セラルヘキモノニ非ス

債權者カ債務者ニ對シ債務履行ノ猶豫ヲ與ヘタル事跡ナク反テ他ノ事實ニ依リ其反對ノ意思ヲ知り得ラルル場合ニハ必スシモ特ニ其債務者ヲ遲滞ニ付スルヲ要セス直チニ契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

雙務契約ハ當事者一方ノ義務不履行ノ爲メ當然解除セラルヘキモノニ非ス判決ヲ以テ其解除ヲ認メシムルニ依リ始メテ解除ノ效ヲ生ス

三九	四〇	二七	二六	二六	二六	二九	二九	二九
一五九八	七〇九	四八二	一五	四	五	一	二	二
二〇	三〇	二〇	六〇	七〇	二〇	三〇	二〇	二〇

義務ノ懈怠ヲ原因トスル雙務契約ノ解除ハ裁判所ノ判斷ヲ受クルニ非サレハ之ヲ行フ能ハス買賣契約ハ其債務者ニ對シ履行ノ催告ヲ爲シ之ヲ遲滞ニ付シタル上ニ非サレハ之ヲ解除スルコトヲ得ス

一旦成立シタル契約ヲ解除セラレタルモノトスルニハ其解約カ暗黙ノ合意ニ因ルトキハ其事實又一方ノ解除權ノ行使ニ因ルトキハ其者ノ意思表示又解除條件ノ到來ニ繫ルトキハ其條件到來ノ事實アルコトヲ要ス故ニ此等ノ事實又ハ意思表示ノ有無ヲ確メス單ニ當事者カ一年有餘間契約ノ履行ヲ拋擲シタリト云フ事實ト他ノ事情トヲ以テ暗黙ノ解除アリタルモノト認定シタル裁判ハ不法ナリ

義務ノ不履行ニ因リ契約ノ解除ヲ求ムルニハ相手方ヲ遲滞ニ付スルノ手續ヲ爲スヘキハ裁判上認ムル所ノ慣習ナリト雖モ相手方カ不當ノ主張ヲ爲シ以テ義務ヲ履行セサル事實明確ナル場合ニ於テハ更ニ遲滞ニ付スルノ手續ヲ爲スノ要ナシ
解除權ハ當然行ハルヘキモノニ非ス故ニ之ヲ行使セントスルモノハ相手方ニ對シテ其意思ヲ表示セサルヘカラス

第二節 贈與

○明治三年卒族解放ノ結果廢祿トナリタル者ニ對スル賦與金ノ下付ハ畢竟贈與ニ外ナラス

○贈與ハ贈與者ノ財産ヲ無償ニテ相手方ニ與フルモノニシテ其財産ハ現在既ニ存在スルモノナルト將來取得スヘキモノナルトハ問フ所ニ非ス
○當事者カ第三者所有ノ財産ヲ以テ直ニ贈與ノ目的物トスルハ法律ノ認

二九	二九	三〇	三〇	三〇	三〇	三六	三六	三六
六	六	七	七	七	七	三	三	三
五二	七七	七	七	七	七	三	三	三
二〇	三〇	二〇	六〇	七〇	二〇	三〇	二〇	二〇

容セサル所ナリ

○民法第五百五十條ハ主トシテ一方ニハ贈與者カ贈與ヲ爲スニ當リテ其意思ノ明確ナルコトヲ期シ他ノ一方ニハ輕忽ニ贈與ヲ爲スコトヲ豫防セントスルノ旨趣ニ出テタル規定ニシテ當事者雙方ノ意思表示ニ付キ書面ヲ作成スヘキコトヲ命シタルモノニ非ス

(參照)

忘恩ノ爲メ贈與ヲ廢罷スルハ民法上ノ制裁ニシテ契約上受贈者ノ不履行ニ基キ解除條件ヲ應用スルノ類ニ非ス故ニ法定ノ推定家督相續人ヲモ廢除シ得ヘキ程ノ重大ナル非行カ受贈者ノ身ニ存スルトキニ非サレハ忘恩ノ爲メ其贈與ヲ廢罷スルコトヲ得ス

茲ニ家名相續人ニ非スシテ本家ノ財産ノ分與ヲ受ケタル者ハ分家以前ニ於テ其分與ヲ受ケタル地所ニ關シ本家ノ主人カ他人ト取結ヒタル契約ニ對シテハ第三者ト云フヲ得ス既ニ第三者ニ非サル以上ハ明治八年第六號布告ニ據リ所有名義ノ附換ナキナ口實トシテ其地所ニ付テノ義務ヲ免ルルコトヲ得ス

贈與ハ其目的物ヲ引渡スニ非サレハ成立セサルモノニ非ス即チ引渡ハ其成立ノ有無ニ毫モ關係ナク唯贈與者ハ引渡前ニ在テハ其贈與ヲ隨意ニ取消シ得ルニ過キサルノミ
贈與ノ契約ハ受贈者ノ死亡ニ依リ消滅スヘキモノニ非スシテ之カ相續人ハ其契約履行ヲ要求シ得ヘキ權利ヲ有ス

第三節 賣買

第一款 總則

三六	三二	二六	二二	一八
二七〇	二一五	一七九	一三五	一〇

○或期間中契約者雙方隨意ニ解除ヲ爲シ得ヘキ約款ヲ附シタル賣買契約ヲ其儘存在セシメ其代金支拂期日ヲ該期間終了前ニ短縮スルモ當事者ノ隨意ニシテ不適法ノ契約ニ非ス

○再賣買ノ豫約ハ法律上之ヲ許スヘキモノトス從テ一旦豫約ヲ爲シタル以上ハ法律上時効ニ罹リ若クハ事實上豫約權利者カ明カニ權利ヲ拋棄セサル限りハ之ヲ無効視スルコトヲ得ス

○買戻契約ハ必スヤ賣買契約ト同時ニ爲スコトヲ要ス若シ賣買契約ノ後ニ至リテ之ヲ爲スコトキハ再賣買ノ豫約ニシテ買戻契約ニ非ス

○買戻ト再賣買ノ豫約トハ法律上其性質ヲ異ニスルヲ以テ法律上買戻ノ條件ヲ具備セサルニ於テハ當事者ノ意思ニ拘ハラヌ再賣買ノ豫約ト看做スコトヲ得

○地所建物ノ所有者カ其物件ヲ各別ニ二人ニ賣渡シタル場合ニ於テ最初ニ之ヲ登記シタル者ハ他ノ者ヨリ優等ノ權利ヲ取得ス

(刑)
○賣買ヲ以テ詐欺取財ノ手段ト爲シタルトキハ其賣買契約ノ成立ナク民法上效力ヲ生スルモノニ非ス

○所有權ヲ有セサル表見相續人ノ爲シタル不動産ノ賣買ハ特ニ法律ノ規定セル場合ノ外所有權移轉ノ效力ヲ生スルモノニ非ス

三三	二九	二三	一九	一五
二七〇	二二六	一七九	一三五	一〇

- 金錢以外ノ物件ヲ手附トシテ授受シタル場合ニハ必ス遲滯ニ付シタル後ニ非サレハ手附流ヲ認ムルヲ得ストノ規定ナシ
- 鑛業再賣買ノ契約ヲ解除シ先ニ締結セル鑛業賣買契約ニ依リ鑛業特許證ノ名義書換ヲ請求スルニハ特約ナキ限りハ其再賣買ニ付キ受領シタル代金ヲ提供セサルヘカラス
- 數筆ノ田畑ヲ併合シテ賣買シ其契約證ニ掲ケタル合反別ニ僅ノ過不足アルモ其目的物カ適合スル以上ハ該契約ヲ有效ト認ムルニ妨ナシ
- 代金ハ賣買ヲ組成スル一要素ナルカ故ニ一旦取結ヒタル賣買契約ニ於テ代金ヲ變更シタルトキハ前契約ハ更改セラレタルモノナリトス
- 名ハ土地賣買ナルモ其實犯罪ノ手段タルニ於テハ其賣買ハ絕對ニ無効ニシテ民法上何等ノ效力ヲ生スルモノニ非ス從テ此無効ノ賣買ニ基キ爲サレタル登記モ亦無効ナリトス
- 係爭山林ノ登記ヲ經サル先買者ハ均シク登記ヲ經サル他ノ買得者ニ對シ其權利ノ確認ヲ求ムルコトヲ得
- 縱令裁判所ノ競賣ニ依リ地所ヲ買受ケタル者ト雖モ實際其被競賣者ニ所有權ナク他ニ第三者ニ對抗スルヲ得ヘキ正當ノ手續ニ依テ之ヲ所有スル者アル場合ニ於テハ其真正ノ所有者ニ對抗スルヲ得ス

三四	三五	三五	三五	三四	三四
五	五	五	二	二〇	二〇
五	五	五	五	二〇	三五

- 賣買ノ一方ノ豫約ニ基キ權利者ヨリ相手方ニ對シテ賣買ノ締結ヲ請求スルコトハ所謂方式ニ屬スルモノナレハ其請求當時ノ法律ニ從フヘキモノトス
- 期間ヲ定メテ賣渡ノ豫約ヲ爲シタル場合ニ於テ相手方カ訴ニ依リ賣買完結ノ意思ヲ表示スルニハ期間内ニ訴狀ノ送達アリシコトヲ必要トス
- 賣買ニ於テハ賣主及ヒ買主ノ意思ハ通常相手方ノ誰タルヲ問ハス單ニ權利ヲ移轉シ又ハ自己ニ取得シ金錢ヲ與ヘ又ハ之ヲ得ント欲スルニ過キサレハ當事者ノ何人タルヤハ其要素ト爲スニ足ラサルモノトス

(參照)

賣買豫約ヲ爲シタル後賣渡豫約人カ買受豫約ニ對スル負債ヲ以テ代金ニ充當シ賣買ヲ結了シタル以上ハ豫約ト云フコトヲ得ス
 單純ノ賣買ヲ遂ケタル後買戻契約ヲ取結フモ再賣買ノ豫約ニ過キス
 他人ノ物ノ賣買ハ無効ナリ
 手附金ノ性質豫約賣買ノ擔保トシテ交付セシモノニ非スシテ即時ニ完成セシ賣買價額ノ一部ニ充當セシモノナルコト明カナルトキハ明約アルニ非サレハ買主ニ於テ賣買ノ履行ヲ怠ルコトアルモ直チニ過意ノ損失トシテ其責任ヲ買主ニ歸セシムルコトヲ得ス
 現金ヲ以テ授受スヘキ賣買代價ノ一部ニ對シ授受シタル約束手形ノ支拂期日カ物品授受ノ期日以前ニ係リ受取人之ヲ他ヘ流通セサル場合ニ在テハ法理上一概ニ現金ヲ授受セシト同視スルヲ得サルモノトス

三七	三六	四〇	二四	二四	二五
四五	九三	一六七	一	一	五
四五	九三	一六七	二八	二八	九〇

係争物ノ賣買ハ法律ノ禁スル所ニ非ス唯其目的物ノ係争物ナルカ故ニ裁判ノ結局ニ因リテハ其契約ヲ解除スルニ至ルヘキ條件ヲ含蓄スルモノタルニ過キサルコトハ契約普通ノ法則ナリ故ニ係争物タルコトヲ知得シマリト云フヲ以テ其損失ヲ擔當シテ買受ケタリトハ云フコトヲ得ス

地所假差押ノ登記カ抹消セラレタル後其地所ノ賣買登記ヲ受ケルモ假差押登記ノ抹消カ不法ニ出テ假差押ヲ爲サシメタル債權者之ニ關與セザルトキハ假差押ノ效力ハ依然トシテ失ハス從テ所有權ハ後ノ賣主ニ移轉スルモノニ非ス

村長カ村會ノ決議ヲ執行スルカ爲メ區有ノ地所ヲ賣却スルトキハ其行爲ハ公務上ニ出ツルト雖モ其賣買ハ私法上ノ行爲タル性質ヲ失フモノニ非ス村長カ公務ニ依リ一ノ私法上ノ行爲ヲ爲スモノトス從テ其賣買ノ取消ヲ求ムル訴ハ民事ニ屬シ裁判所構成法第二條ニ依リ司法裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノトス

最初ノ賣買ニシテ不正ナル以上ハ縱令幾回轉讓シテ其都度登記ヲ經タリトスルモ其所有權ノ移轉スヘキ道理ナシ

一旦賣渡シタル地所ニ付キ受戻金額竝ニ期日ヲ定メ新ニ成立チタル一ノ和解契約ハ地所ノ再賣買ヲ約シタルモノニシテ未必條件附ノ賣買ニ非ス故ニ其買戻人ヲ遲滞ニ付シタル上ニ非サレハ期限ノ經過ノミヲ以テ直ニ買戻權能ヲ失ヒタルモノト爲スヘカラス

凡ソ單純ナル再賣買ノ場合ニハ單ニ期限ヲ空過シタリトテ直チニ權利ヲ失却スルモノニ非スト雖モ權利ノ失却ニ關シ特約アルモノハ決シテ普通ノ場合ト同一ニ論スルヲ得ス

社寺境内ノ立木ハ神官氏子惣代ニ於テ自由ニ處分スルヲ得ス必ス相當官廳ノ許可ヲ受ケサルヘカラス若シ其許可ナクシテ之ヲ他ニ賣渡シタル時ハ其賣買ハ無効ナリ

三元	二元	一元	一元	一元	一元	一元	一元	一元	一元
一元	一元	一元	一元	一元	一元	一元	一元	一元	一元
一元	一元	一元	一元	一元	一元	一元	一元	一元	一元

賣買代金ニ代ヘ貸借證書ヲ交付シ後賣買ノ解除ニ因リ賣主カ代金ヲ返辨スヘキトキハ其貸借證書ヲ以テ返還スヘキ金圓ニ充當シ得ルモノトス

特定物ヲ目的トスル單純ナル賣買ニシテ特約ナキモノハ契約ノ成立ト同時ニ其所有權ヲ移轉シ代金ノ支拂物件ノ引渡ハ所有權移轉ニ關係ヲ有セス

未必條件附賣買ハ條件ノ成就ト同時ニ賣買契約有效ニ成立シ其物件ノ所有權ヲ移轉ス賣買代價ハ必スシモ賣買物件ノ實價ト符合スルヲ要セス故ニ其代價カ實價ニ相當セザルモ賣買代價未定ナリト云フヲ得ス

明治十五年八月内務省番外達第一條第二條ハ一丈以上ノ樹木ノ伐採ヲ禁シタルモノニシテ隨テ其樹木ノ處分ヲ禁シタルモノナレハ之ニ適合スル樹木ハ賣買ノ目的物タルヲ得ス

賣買契約ハ合意ノミヲ以テ其目的物ノ所有權ヲ移轉スルノ效力ヲ生ス賣買目的物ノ引渡ト代金ノ支拂トハ之ヲ異日ニ期スルコトヲ得ヘク而シテ其引渡ノ行爲ハ直ニ代金支拂濟ノ推定ヲ生セス

賣買代價ハ契約ノ際必スシモ之ヲ確定スルヲ要セス故ニ裁判所カ豫定價額ヲ認定シタル上其取引ヲ賣買ナリト判斷シタルハ相當ナリ

差押中ノ物件ヲ目的トシタル二箇ノ賣買存スルトキ其間權利ノ優劣ヲ判スヘキモノニ非ス二箇ノ賣買共ニ無効ト爲スヘキモノトス

普通ノ賣買契約ハ單ニ其期日經過ノミヲ以テ契約ヲ無効ニ歸セシムルコトヲ得ス賣買ニ於テ別ニ契約ナキトキハ買主ハ其目的物ノ引渡ヲ受クルト同時ニ賣主ニ對シ代金辨濟ノ義務ヲ負擔ス又代金辨濟ノ不可分のナルコトヲ主張スル權利アルモノハ賣主ニシテ買主ニ非ス

賣買代金ニ代ヘ貸借證書ヲ交付シ後賣買ノ解除ニ因リ賣主カ代金ヲ返辨スヘキトキハ其貸借證書ヲ以テ返還スヘキ金圓ニ充當シ得ルモノトス

三元	二元	一元	一元	一元	一元	一元	一元	一元	一元
一元	一元	一元	一元	一元	一元	一元	一元	一元	一元
一元	一元	一元	一元	一元	一元	一元	一元	一元	一元

(刑)

賣買契約ハ特約ナキ以上ハ單ニ代金支拂期限ノ經過ノミヲ以テ無効トナルヘキモノニ非ス
 賣買價額ハ賣買當時ノ需用供給ノ程度及ヒ物品ノ新舊等ニ依リ異ナルモノナレハ單ニ其製造
 費ノミヲ以テ標準下爲スヲ得ス
 土地賣買ニ付キ地圖及境界取調書ノ交付ハ賣主ニ於テ當然負擔スヘキ義務ニ非ス
 犯罪ニ原因スル地所建物ノ賣買ハ有效ニ成立セス從テ善意ノ買得者ト雖モ其賣買登記ヲ取消
 シ所有名義ヲ眞所有者ニ復歸スヘキモノトス
 賣買ハ當事者ノ一方カ相手方ニ物ノ權利ヲ移轉シ又ハ移轉スルコトヲ約シ相手方ハ賣買代金
 ノ支拂ヲ約シタル事實アルコトヲ要ス故ニ單ニ價額ヲ定メ物ヲ引渡シタル事實アルノミニテ
 ハ必スシモ之ヲ賣買ナリト云フヲ得ス
 明治九年第九十九號布告ハ金銀等ノ借用證書ヲ他人ヘ讓渡スルトキノ手續ヲ規定シタルモノ
 ナリ故ニ頼母子講金取立ノ權利ヲ賣買セシ如キ場合ニ適用スヘキモノニ非ス
 賣主カ一箇ノ物件ヲ時日ヲ隔テテ甲乙二者ニ賣却スルノ契約ヲ爲スモ之カ爲メニ先キニ締結
 セル賣買契約ハ當然消滅スヘキモノニ非ス
 手附金ヲ授受シ賣買ノ條件及ヒ期日ヲ約シタル場合之ヲ賣買ノ豫約ト認ムヘキ一般ノ慣習ナ
 シ故ニ斯ル場合ニ於テ當事者ノ意思何レニ存スルヤヲ認定スルハ事實審官ノ職權ニ屬ス
 賣買契約ハ代價ノ全部若クハ一部ノ支拂ヲ爲ササル間ハ完成セサルモノトスル慣習若クハ法
 理存セサルモノトス
 不動産ノ賣買ハ其登記ヲ爲ササレハ第三者ニ對抗スルヲ得スト雖モ當事者間ニ在テハ賣買契
 約ノ完結ト同時ニ其目的物ノ所有權ハ買得者ニ移轉ス
 強制競賣ニ付テハ賣主ハ裁判所ノ認ムル最高價格ヲ以テ其目的物ノ所有權ヲ移轉セシムルコ
 トニ付キ豫メ合意シタルモノト看做スヘキハ當然ナリ從テ強制競賣ニ於テモ合意カ所有權移
 轉ノ要素タルコトハ普通賣買ト異ナルコトナシ
 所有權ナキ者ノ爲シタル地所賣買ハ無効ナリ故ニ爾後幾回轉讓シ其都度登記書換ヲ爲スモ其
 所有權ハ移轉スルモノニ非ス
 解除條件ヲ付シタル賣買ト單純ノ賣買ニシテ其代金支拂ヲ確實ナラシムル爲メ特約ヲ以テ期
 限ニ代金ヲ支拂ハサレハ賣買ヲ解除スル旨ノ制裁ヲ付シタルモノトハ其性質效果共相異ナル
 ニ依リ後日其特約ノミヲ合意上取消スハ當事者ノ自由ナリ
 冒認販賣ノ如キ犯罪行為ニ因リテ他人ノ土地ヲ賣買スルモ其賣買ハ固ヨリ無効ニシテ買得者
 ノ意思ノ善意ト登記ノ有無トハ其效力ニ消長ヲ來サス

三〇	二九	二九	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
九	九	九	九	九	九	九	九

第二款 賣買ノ效力

○他人ノ物件ヲ自己ノ所有物ナリト信シ若クハ他人ノ物件ナルコトヲ知
 リテ第三者ニ賣渡シタルトキハ賣渡人ハ其物件ヲ他人ヨリ買受ケテ買
 受人ニ引渡スノ義務アリ
 ○町村カ町村會ノ議決ヲ經テ他人ノ所有物ヲ賣買ノ目的ト爲シ之ヲ賣渡
 スヘキコトヲ結約シタルトキト雖モ契約履行ノ責任ヲ免ルルコトヲ得
 ス
 ○他人ノ所有物ヲ以テ賣買ノ目的物ト爲シタル場合ニ其賣買無効ニ非サ
 ルコトハ民法施行前ト雖モ是認セラレタル法理ナリ

三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
九	九	九	九	九	九	九	九

○買主カ既ニ給付ヲ受ケタル契約ノ目的物ヲ返却シ代金ノ返還ヲ求ムルカ如キハ契約ヲ爲ササル以前ノ原状ニ復セシムルモノナルカ故ニ契約ノ解除ヲ爲サスシテ損害賠償ニ因ル代金ノ返還及ヒ目的物返却ノ爲メニ要シタル費用ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

○賣買契約締結ノ後賣主ヨリ送付シタル物件ノ一部カ契約ノ目的物トシテ不適當ナル場合ニハ買主ハ一面ニ於テ更ニ契約ニ適スル物ノ發送ヲ請求シ他ノ一面ニ於テ不適當ナル物ヲ返却シ損害賠償トシテ其返却費用ヲ請求シ得ヘキハ勿論若シ賣主カ更ニ其不足分ヲ發送セサルトキハ買主ハ契約ヲ解除スルコトヲ不完成履行トシテ該不足分ノ代金減額即チ其返還ヲ請求シ得ルモノトス

○民法第五百七十六條ハ買主カ其買受ケタル財産權ノ全部又ハ一部ヲ追奪セラルヘキ虞アルニ拘ハラヌ賣主カ相當ノ擔保ヲ供セサル場合ニ買主ヲシテ其危險ノ限度ニ應シ代金ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ拒絕スルコトヲ得セシメタル規定ナレハ買主ノ此權利ハ賣主ノ代金支拂請求ニ對スル抗辯權ニシテ其請求ヲ竣テ始メテ行使シ得ヘキモノトス

○民法第五百六十四條ハ買主カ代金減額ノ請求又ハ契約ノ解除ヲ爲シ併セテ損害賠償ヲ請求スル場合ハ勿論單獨ニ損害賠償ノ請求ヲ爲ス場合

三六

三六

三七

ヲモ包含セルモノトス

○不動産ノ賣買カ當事者一方ノ冒認罪ニ原因シタル場合ト雖モ當事者雙方ノ間ニ財産權ヲ移轉セシムルコトヲ以テ目的トスルトキハ當然其效力ヲ生セサルモノニ非ス

○不動産ノ買主カ目的物ニ抵當權ノ設定アルコトヲ了知シテ之ヲ買受ケタル事實ト追奪擔保ノ權利ヲ留保スルコトトハ互ニ相容レサルモノニ非ス

○他人ノ權利ヲ以テ賣買ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ縱令其賣買カ犯罪ノ手段ニ供セラルルモ當事者間ノ權利義務ハ一ニ賣買ナル法律行爲ノ效力ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス

(參照)

買主カ買受物ノ追奪セラレントスル訴訟アル場合ニ於テ賣主其訴訟ニ參加シ買主ノ爲メ防禦ノ方法ヲ提出シ賣買代金返還ノ請求ニ應セサルコトヲ得ルナリ廻テ其理由果シテ正當ナレハ代金返還ノ義務ナシ然ラサレハ損害賠償ノ責ニ當ラサルヘカラス抑追奪擔保ノ義務ハ賣渡シタル物カ追奪セラレタルト同時ニ生スト雖モ賣主カ買主ニ賣買代金ニ相當スル金額ヲ支拂フニ依リ賣買ハ解除スルモノニ非ス之カ損害ヲ賠償スルニ過キサルノミ
他人ノ權利ヲ目的トスル賣買ニ付テハ賣主ハ其權利ヲ取得シ之ヲ買主ニ移轉セシムルノ義務ヲ負フモノナルニ依リ他人ノ權利ヲ目的ト爲シタル賣買ハ其成立上全然無効ノ契約ナリト認

三二

三三

三三

四〇

二七

メタル判決ハ不當ナリ

第三款 買戻

○買戻約款附ノ賣買ニ於テ買主ハ解除條件附ノ所有權ヲ取得シ賣主ハ停止條件附ノ所有權ヲ保有スルモノト看做スヘキ時代ニ在テハ賣主ヨリ其權利ヲ他人ニ讓與スルニ當リ買主ニ之ヲ通知スルニ及ハス又買主カ其權利ヲ他人ニ讓與スルニモ賣主ノ承諾ヲ要セス其讓與ハ孰レモ唯權利移轉ノ登記ヲ爲スノミニテ何人ニ對シテモ有效ニ成立ス

○賣買ノ目的物カ全然消滅シタルカ又ハ其他絶對ニ賣買ノ目的物タルコト能ハサルニ至リタル場合ニハ其物件賣戻ノ約定書ヲ交付スルノ義務ヲ免ルルト雖モ其物件ヲ他人ニ賣渡シ現時之ヲ所有セサルトノ事ハ未タ以テ其義務ヲ免ルルノ理由トスルニ足ラス

○買戻ハ解除權ヲ留保シタル一種ノ賣買契約ニ外ナラス從テ買戻契約ニ因ル損害賠償ハ其賣買ノ解除セラレタルニ拘ハラヌ買主ノ行爲ニ因リ直接履行ヲ爲スコト能ハサル場合ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

○期間ヲ定メサル買戻契約ト雖モ公ノ秩序ニ反スルモノニ非ス

○現行民法ニ於テハ買戻權ハ一種ノ債權ナリ然レトモ買戻權ヲ有スル者ハ不動産ノ轉得者ニ對シ直ニ買戻權ヲ行フコトヲ得

三二	一	三五
三三	四	六四
三四	四	七六
三五	一	四三
三六	一	四三
三七	一	四三
三八	一	四三
三九	一	四三
四〇	一	四三
四一	一	四三
四二	一	四三
四三	一	四三
四四	一	四三
四五	一	四三
四六	一	四三
四七	一	四三
四八	一	四三
四九	一	四三
五〇	一	四三

○買戻契約ハ必スヤ賣買契約ト同時ニ爲スコトヲ要ス若シ賣買契約ノ後

(同三三)

買戻ハ賣買契約ノ解除條件トシテ約スルモノナレハ賣買契約ト同時ニ之ヲ爲ササルヲ得ス故ニ賣買契約後ニ於テハ其性質上買戻ノ豫約ナルモノ存スル理ナシ

○民法實施前ニ於ケル買戻ニ付テハ特種ノ事情ニ依リ特ニ契約ヲ爲シタルカ又ハ慣習アル場合ノ外賣主ハ賣買代金ヲ返還スルヲ以テ足り契約費用等ヲ返還スルノ義務ナシ

○民法實施前ニ在テハ地所買戻ノ請求ヲ爲スニ現實其買戻代金ヲ提供シ又ハ之ヲ供託セシムヘキ規定ナキヲ以テ當時ノ契約ニ依リ買戻權ヲ有スル者ハ此等ノ手續ヲ爲サスシテ買戻ノ請求ヲ爲スヲ得ヘキモノトス

(同三四)

民法施行以前ニ締結セラレタル地所建築買戻契約ニ付テハ民法施行法ニ民法ノ規定ヲ適用スヘキ法文ナキヲ以テ同法ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス而シテ民法施行以前ニ在テハ買戻ノ請求ヲ爲スニ當リ代金ノ提供ヲ要ストノ法規ナケレハ其代金ヲ提供セザリシトテ買戻權ヲ喪失スルモノニ非ス

民法施行以前ニ於テハ買戻條件附契約ニ付キ其買戻期限内ニ代金ヲ提供スルニ非サレハ買戻權ヲ喪失スル如キ規定ナキヲ以テ其當時ノ契約ニ付テハ民法第五百八十三條ノ規定ヲ適用シ得ヘカラサルモノトス

三三	九	二六
三四	二	七〇
三五	二	四五
三六	二	一一
三七	七	一
三八	一〇	六

ニ對シテハ賣買ノ登記ト同時ニ其特約ヲ登記シタル場合ニ非サレハ法律上所謂買戻ニ非ス

○買戻約款ヲ附シ土地ヲ賣買スルニ當リ該特約ヲ登記シタルトキハ爾後買主ヨリ其土地ヲ買受ケタル者ハ特定承繼人トシテ買戻義務者ト爲ルモノトス從テ民法第四百六十七條第二項ニ所謂第三者ニ該當セス

○民法第五百七十九條ニ規定セル買戻ハ不動産ノ賣主カ賣買ヲ爲スニ當リ買主ヨリ支拂ヒタル代金及ヒ契約ノ費用ヲ返還スルニ於テハ賣買ヲ解除シ不動産ヲ買戻シ得ヘキコトヲ特約スルモノニシテ此賣主ノ權利ハ債權ニ外ナラサレハ債權讓渡ノ規定ニ從ヒ之ヲ讓渡シ得ヘキハ當然ナリ

○民法第五百七十九條ニ於テ買戻ノ特約ニ基キ賣買契約ノ解除ヲ爲シ得ル者ヲ不動産ノ賣主ニ限リタルハ動産ニ關シテハ買戻ノ約款カ第三者ニ對シ占有ノ效力ニ依リテ不動産ニ關スルモノト同一ノ效果ヲ收メ難キニ由ルモノニシテ動産ノ買戻ヲ全然禁止シ當事者間ニ於テモ其契約ヲ無効ナラシムルノ旨趣ニ非ス

○買主カ買戻ノ特約ヲ登記セル不動産ヲ第三者ニ轉賣シタル場合ニ於テハ最初ノ不動産賣主カ買戻ヲ爲サント欲セハ其第三者ニ對シテ代金等

三七	四五三
三	三四
三	二

ヲ提供シ賣買解除ノ意思ヲ表示セサルヘカラス從テ既ニ權利關係ヲ離レタル最初ノ買主ニ對シテ其意思ヲ表示スルモ何等ノ效力ヲ生セス

(參照)

受戻條件附賣買ハ賣買契約ノ當時其一條件トシテ受戻ヲ約スルニ非サレハ成立セス
數筆ノ地所ニ付キ買戻契約履行ノ訴アリタルトキ單ニ一筆ノ土地ニ對スル契約ノミチ有效トシ他ノ地所ニ對スル契約ヲ無効ナリト判決シタルトキ其有效ナル買戻契約ヲ履行スル爲メ辨濟スヘキ代金額ハ當事者協議ヲ以テ定ムヘキモノニシテ該判決ニ之ヲ指定セザルハ不當ニ非ス

賣買契約ニ買戻ノ約款ヲ付スルトキ買戻權能ヲ行使スレハ舊賣買契約ハ廢滅シ賣渡物ハ曾テ賣主ヲ離レサルモノト看做スモノナレハ賣買ニ係ル物ノ價額カ買戻以前ニ減少スルモ買主ノ過失ニ原因セサレハ其損失ハ買戻權能ヲ行フ者ニ於テ之ヲ負擔セサルヘカラス
地所買戻權ヲ賣買スルモ賣戻ノ義務ヲ有スル者ハ何等利害ノ關係ナクハ買戻權ヲ賣買スルニ際シ特ニ賣戻ノ義務ヲ有スル者ノ承諾ヲ求ムルヲ要セス而シテ「合意」ノ效力ハ第三者ニ及ハスレトノ法則ハ一ノ合意ヲ以テ故ナク其合意ニ關與セサル第三者ニ義務ヲ負擔セシメ又ハ其權利ヲ侵害スルヲ得ストノ趣意ニシテ何等利害ノ關係ナキ場合ニ適用スヘキモノニ非ス
買戻契約ノ期限後ニ買戻代金ノ幾部ヲ受領シタル事實アルニ於テハ之ニ依リ買戻期間ヲ延期シタルモノナリトノ推定ヲ下スコトヲ得ヘシ
地所賣買ト同時ニ買戻ノ契約ヲ併セテ爲スモノハ未必條件附ノ賣買ナリ此種ノ契約ハ其期間ヲ過クレハ直チニ買戻ノ權能ヲ失フト雖モ一旦賣買ヲ結了シ爾後更ニ買戻契約ヲ爲スモノハ再賣買ニシテ未必條件附ノ賣買ニ非ス而シテ再賣買ニ係ルモノハ買戻人ヲシテ遲滯ニ付シタ

三	一〇六
二四	一一八
二四	二二八
二七	二八二
二七	五九
二七	八四

ル上ニ非サレハ期限ノ經過ノミヲ以テ買戻權能ヲ失ヘルモノト爲スヲ得ス
 土地買戻ノ約款ハ土地收用法ニ依リ其土地ヲ收用セラルルト同時ニ消滅シ隨テ買戻人ハ收用
 代價ノ多寡ニ付キ容喙スルノ權利ナキモノトス
 地所買戻ヲ請求スル者カ其契約ニ基キ期限内ニ和解申請ヲ爲シタルトキハ公然督促ヲ爲スノ
 地位ニ立テタルモノナレハ必スシモ代金ノ提供ヲ要セス一應ノ推測上對手者ニ違約ノ責ヲ負
 ハシムヘキモノトス

買戻契約ハ買賣契約ト同時ニ締結セサルヘカラス
 買戻契約ハ買賣證書中ニ記載スルモ又ハ別證書ヲ以テ締結スルモ當事者間ニ在テハ買賣契約
 タル效力ヲ有ス

地所買戻約款ニ解除條件ヲ附シタル以上ハ其條件成就ニ因リ賣主ハ當然買戻權ヲ喪失スヘシ
 買戻契約期限内買戻ニ付キ出訴シタルモ形式上不適法トシテ却下セラレタル者ハ買戻期限經
 過後ト雖モ更ニ出訴スルコトヲ得ヘキモノトス

買戻契約ノ附シアル地所カ他ニ賣却サレタルトキ買戻權利者ハ之ヲ知ラス其契約期間内賣渡
 人ニ對シ買戻ヲ出訴シタルトキハ地所買取人ニ對シテモ期間ノ經過ヲ中斷スルノ效アリ
 地所買戻ノ權利ヲ有スル者カ期間ニ至リ其買戻ヲ請求シ代金ノ收受ヲ拒絶セラレタルトキ即
 時之カ供託ヲ爲ササルモ失權ノ效力ヲ來スモノニ非ス

地所買戻ノ請求ヲ爲スニハ買戻權能者ニ於テ現ニ其代金ヲ支拂フヘシト陳述スル上ハ必スシ
 モ代金提供ニ付キ形式上ノ手續ヲ爲ササルモ其權能ヲ喪失スルモノニ非ス

地所買戻ノ契約アルヲ認知シ之ヲ買受ケタル者ハ其約務ニ對スル特定承繼人ナルニ依リ其契
 約ヲ履行スルノ責アリ

三〇	二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
四	一〇	九	六	五	一	五	五	四	二	二
一〇三	一四三	一二九	二六	七	六	一四	一〇〇	一四	四	三

地所ノ賣主ニ於テ其地所ニ付キ第三者ニ對シ買戻權ヲ有スルトキ買主カ其地所ヲ買戻シ自ラ
 其地所ノ所有主トランコトノ目的ヲ以テ賣主ニ代リ第三者ニ對シ買戻權ヲ主張スル者ハ買賣
 契約上ノ買主權ニ因リテ動作スルモノニシテ共同擔保權ヲ原因トスル所ノ債權者ノ地位ニ立
 ツモノニ非ス故ニ法理上代位訴訟ヲ提起スルノ資格ナシ

買物提供ヲ買戻契約ノ條件ト爲シ特約シタル場合ニ於テハ其不履行ニ因リ當然買戻權ノ喪失
 ヲ來スコトアルモ普通ノ買戻契約ニ付テハ豫定期間内ニ代金ノ提供ヲ要スル法規ナシ故ニ單
 ニ其代金提供ナキ爲メ買戻權ヲ喪失スヘキ道理ナキモノトス〔同一判例二九年一〇卷一三三
 頁、三〇年二卷六七頁〕

買戻條件附買戻ニシテ其條件ノ履行ヲ一定ノ期間ニ繫ラシメタルモノハ其期間相手方ニ對シ
 履行ヲ求メタルヤ否ニ因リ條件ノ成否ヲ決スヘキモノナリ故ニ期間内ニ履行ヲ求ムル意思ア
 リシモノト認メ得ヘキ場合ニ於テハ期限後ト雖モ相當ノ準備時間内ニ出訴スレハ條件カ成就
 スルモノノ如ク斷定セル裁判ハ不法ナリ

地所買戻約定ヲ當初期限ヲ定メテ締結シ其期限ニ至リ元ノ賣買代價ニ幾割カノ増金ヲ爲シ之
 カ延期ヲ爲スカ如キハ從來其事例アリ且ツ法律ノ制限スル所ニ非ス

受戻權ノ行使ハ約定期間内ニ賣買ノ代金ヲ買主ニ返還シ其賣買ノ地所全部受戻ノ手續ヲ爲サ
 サルヘカラス故ニ無代價讓受又ハ一部受戻ノ申込ヲ爲シタルニ過キサルトキ之ヲ以テ期間内
 適法ニ受戻權ヲ行使シタルモノナリト斷定シタル裁判ハ不法ナリ

無期間ノ地所買戻ノ特約ニ對シ後日其買戻期間ヲ定メ若クハ其代金支拂期限ヲ定ムルモ之ヲ
 以テ再買戻ト看做スヘキモノニ非ス

第五節 消費貸借

三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
二〇	五	四	二	二	一	一	一	一	一	一
五	一七	六	五	八	六	六	一〇〇	一四	四	三

○甲者カ乙者ニ若干ノ金圓ヲ貸付シ其元利金ノ辨濟ヲ受クル爲メ乙者ノ藝妓營業ヨリ生スル收入金ノ全部ヲ取得シ之ト同時ニ乙者ノ營業ニ要スル税金其他一切ノ費用ヲ負擔スヘキコトヲ約定シタルトキハ其契約ハ消費貸借ヲ包含セル一種ノ無名契約ナリトス

○當事者カ利息制限法ノ規定ニ超過セル利息ヲ授受スヘキコトヲ約定スルモ其合意ハ固ヨリ不法ニシテ之ニ基キ有效ナル債務關係ヲ發生セシムルコトヲ得ス故ニ其債務關係ヲ以テ目的ト爲シタル消費貸借ハ全然無効ナリトス

○金錢ノ貸借ハ商業ノ爲メニスルカ又ハ其貸借ヲ營業トスル爲メ他ヨリ金錢ノ借入ヲ爲スカ如キ場合ニ在ラサレハ之ヲ民法行爲ト認ムヘキハ當然ナリ

○買主カ賣主ニ支拂フヘキ代金ヲ以テ消費貸借ノ目的物ト爲シ公正證書ヲ作成シタル場合ニ於テハ縱令其貸借ノ内容ヲ記載セサルモ之カ爲メニ契約ノ成立ニ影響ヲ及ホスコトナキハ勿論該證書ノ記載事項ヲ目シテ實際ノ事實ニ符合セサルモノト云フヲ得ス

○民法第五百八十七條ハ必スシモ現實ニ金錢其他ノ物ノ授受アルコトヲ要スル旨趣ニ非ス故ニ當事者カ簡易ナル手續ニ依リテ其授受ヲ爲スモ

三〇七

二六六

一五六

三六六

借主ニ於テ經濟上現實ノ授受ト同一ノ利益ヲ受クルトキハ消費貸借成立スルモノトス

(參照)

債權者カ保證人ノ眞否債務者ノ財産如何ヲ調査セザリシトテ其人ノミテ信用シテ其財産ヲ目的トセサル異常ノ貸借ナリト云フヲ得ス
銀行頭取カ國立銀行條例第八十六條ノ規定ニ違背シ金圓ヲ借入ルルモ其貸借ハ有效ナリ
何人カ出金スルモ證書ヲ授受シ貸借ノ合意アリタル上ハ其合意上ノ債權者ニ訴權ナシト云フヲ得ス
貸借ノ目的物カ代替物ナルトキハ其所有權當然借主ニ移轉シ特定物ナルトキハ反對ノ意思カ表明セラレサル限りハ其所有權借主ニ移轉セス

第七節 貸貸借

第一款 總則

○貸貸借ノ目的タル家屋カ徵發令ニ依リ使用ノ爲メ徵發セラレタル場合ニ於テハ貸借人ノ爲メニ貸貸借契約ヲ解除スルノ權利發生スルニ止マリ當然其契約ノ消滅ヲ來スヘキモノニ非ス

○徵發令上ノ賠償金ハ徵發ノ爲メ生スル損害ヲ賠償スル目的ヲ以テ支給セララルモノナレハ貸借人モ所有者ト同シク徵發ノ爲メニ損害ヲ被ムリタルトキハ其賠償金ノ分與ヲ受クル權利アルモノトス

○借地權ノ性質ハ民法上ノ用語ヲ了解シテ契約シタルモノト認メララル

四 五六〇

二五 三 六二

二六 四 三

二九 八 五二

三三 〇 三

三三 〇 三

場合ハ格別ナレトモ單ニ借地證ニアル賃借ノ文字ノミニ依リテ之ヲ定ムルヲ得ス

○民法第六百二條ノ規定ニ違背セル契約ニ依リ抵當地所ヲ賃借スルモ其賃借權ハ無効ニシテ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得ス故ニ其抵當權ノ實行トシテ抵當地所ヲ競賣ニ付スルトキハ競落人ハ完全ナル所有權ヲ取得スルモノニシテ賃借人ハ其競落ノ通知ヲ受クルト同時ニ惡意ノ占有者ト爲ルモノトス

○賃貸借ハ當事者ノ一方カ相手方ニ物ノ使用收益ヲ爲サシムルコトヲ約シ相手方カ之ニ其賃金ヲ支拂フコトヲ約スルニ因リ成立スルモノニシテ賃貸人カ其物ニ對シ所有權又ハ其他ノ權利ヲ有スルト否トハ契約成立ノ要件ニ何等ノ消長ヲ及ホサス

○賃料ヲ得テ漁業權若クハ其共有持分ヲ他人ニ貸付スル契約ニハ民法賃貸借ノ規定ヲ準用スヘキモノトス從テ此契約ニ附スルニ賃貸借ノ名稱ヲ以テスルモ妨ナシ

○民法第六百二條ニ定メタル賃貸借ノ期間ハ同第三百九十五條ノ場合ニ於テモ亦之ヲ更新スルコトヲ妨ケス

(參照)

三四七

三四

三七三

二九六

四九七

借地料ニ關シ義務者カ遲滞ニ付セラレタルコトナク唯其義務ノ懈怠ノミチ原因トシテ地所明渡ヲ請求スルヲ得ス

賃貸人ニ於テ賃借人カ賃借期限中其場所ニ從前ノ形狀ニ反シタル新工事ヲ施シ以テ賃貸人ノ所有權ヲ害シタリトシ之カ復讐ヲ求ムル訴訟ニ付テハ當事者一方カ既ニ其新工事ニ干與セザリシコトヲ判示セラレタル上ハ其賃借人タルト否ノ事實ハ之ヲ審究スルヲ要セス

地所ノ賃貸借契約ハ法律上物權タル性質ヲ有セスト雖モ一種ノ權利トシテ地所ノ所有主ニ追隨スルハ我邦古來ノ慣習ナリ
當事者カ無期限ノ賃貸借契約ヲ爲スニ當リ反對ノ意思ヲ表示セサルトキハ明示ノ約束ノ外一般ノ慣例ニ依ルヘントコトヲ默示ニ約束シタルモノト看做ス
宅地ノ無期限賃貸借契約ヲ締結シタル後租稅ノ負擔比隣借地料ノ増加等ノ事由發生シタル場合ニ於テ其借地料ノ増加ヲ求メ得ルコトハ一般ノ慣習法ナリ

第二款 賃貸借ノ效力

○賃借人ハ賃貸人ノ承諾ヲ經サレハ其賃借權ヲ第三者ニ讓渡シ又ハ轉貸スルヲ得ス

○無期限ニテ宅地ヲ借受ケタル後租稅ノ増額其他正當ノ原因生シタル場合ニ於テ地主ヨリ借地料ノ増加ヲ求メ得ヘキコトハ一般ノ慣例ナリ

○賃貸借ハ債權債務ノ關係ニシテ民法第六百五條及ヒ第三百九十五條ノ規定ニ該當スル場合ノ外其效力ハ當事者間ニノミ生シ第三者ニ及ハサルヲ原則トス(同一判例三六年七一頁)

二七五

二四五

三五八

三五八

三二八

三二八

二九六

二九七

○質借人カ質借物ノ引渡ヲ受ケ現實質貸人ノ爲メニ之ヲ占有スルトキハ不法行爲ニ因リテ其占有ヲ妨害スル第三者ニ對シ占有訴權ヲ行使スルコトヲ得

○質借人カ質貸人ノ承諾ナクシテ質借物ヲ更ニ第三者ニ質貸シタルトキハ其法律行爲ハ轉質借トシテハ成立セサルモ質借人ト第三者トノ間ニハ質貸借トシテ成立シ當然無効ナルモノニ非スシテ唯質貸人ヨリ質借人ニ對スル契約解除ノ原因タルニ止マルモノトス

(同三三)

質借人カ擅ニ質借物ヲ轉貸スルモ其行爲ハ當然無効ニ非スシテ唯契約解除ノ原因タルニ止マルモノトス

(參照)

相當ノ借地料ヲ納メテ官有地ヲ借り受ケタルトキハ其地上ニ生立スル樹木ハ反對ノ事實ナキ以上ハ借地者ノ所有ト認ムヘキモノナリ

第三款 質貸借ノ終了

○土地ノ明渡ニ一十年ノ猶豫期間ヲ要スル民法第六百十七條ノ規定ハ當事者間ニ質貸借關係存在シテ其期間ヲ定メサリシトキ當事者ノ一方ヨリ解約ノ申入ヲ爲シタル場合ニ限り適用スヘキモノトス

○質貸借契約解除ノ場合ニ於テ質貸人ヨリ質借人ニ返還スヘキ敷金ニ對

三	三	四	四	三
一〇	二			
一〇	九	二四	五六	五九

シテハ其解除ノ時ヨリ當然利息ヲ附スヘキモノトス

○民法第六百十八條ノ規定ハ單純ナル質貸借ニシテ期間ノ定アルモ當事者ノ一方ニ於テ解約ヲ爲スノ權利ヲ留保シ特ニ其條件ヲ設ケサルカ爲メ殆ト期間ノ定ナキト同一ナル場合ニ適用スヘキモノナリトス

○土地ノ質借人カ質貸借契約ノ期限中其土地ニ在ル建家ヲ他人ニ賣却スルモ契約ヲ解除セサル以上ハ質貸借關係ハ當然消滅スヘキモノニ非ス從テ質借人ハ自ら其土地ヲ使用セサルモ質貸人ニ對シテ借地料支拂ノ義務ヲ負フモノトス

第八節 雇傭

○民法第六百二十四條第二項ノ規定ハ勞務者カ約旨ニ基キ勞務ニ服シタル場合ニ適用スヘキモノニシテ其債務ヲ履行セサルニ拘ハラス期間中ノ報酬ノ請求權ヲ有ストノ法意ニ非ス

第九節 請負

○請負人ノ材料ヲ以テ注文者ノ地上權ヲ有スル土地ノ上ニ建物其他工作物ヲ設クヘキ請負ヲ爲シタル場合ニ於テハ仕事ノ結果其材料ヲ土地ニ附著セシムルヤ否ヤ當然其所有權カ注文者ニ移轉スルモノニ非スシテ請負人ヨリ注文者ニ對シ建物又ハ工作物ヲ引渡スニ因リテ始メテ移轉

三	三	三	三	三
四				
三	二六	二六		三

スルモノトス

○民法第六百四十一條ハ請負人カ仕事ヲ完成セサル間ハ注文者ハ何時ニテモ請負契約ヲ解除シ得ルモ其解除ヨリ生スル損害ハ之カ賠償ノ責ニ任スヘキコトヲ規定シタルモノニシテ注文者カ契約ノ解除ヲ爲スノ條件トシテ先ツ其損害賠償ノ提供ヲ爲ササレハ解除ノ意思ヲ表示シ得サルコトヲ規定シタルモノニ非ス

○請負人ニ對シテ工事全部ノ下請負ヲ爲シ内金ヲ受取リタル者カ不當ニ其工事ヲ完成セサル爲メ更ニ他人ヲシテ殘工事ヲ爲サシメタル場合ニハ其完成ニ必要ナル費用ニシテ請負人ノ損害ニ歸シタル金額ハ下請負人ニ於テ之ヲ補償スヘキ責務ヲ負フモノトス從テ請負人ハ過渡金ノ取戻ヲ請求スルノ外損害要償ノ權利ナシト斷定シタル判決ハ不法ナリ

第十節 委任

○辯護士ト依頼者トノ關係ハ委任ニ因ル代理關係タルニ外ナラサルヲ以テ依頼者ハ何等ノ理由ヲ明示スルヲ要セス辯護士ヲ解任スルコトヲ得ヘシ

○依頼者カ委任事務ノ半途ニシテ辯護士ヲ解任シタル場合ニ於テ反對ノ契約ナキ限リハ辯護士ハ依頼者ノ爲メニ既ニ費シタル勞力ノ割合ニ應

三七

八六一

三七

二〇一

三九

三九七

三二

三六

スル報酬ヲ請求スルコトヲ得ルニ止マリ委任事務完了ノ場合ニ對シテ豫定シタル報酬全部ヲ請求スルコトヲ得ス

○仲買人カ委任ヲ受ケテ賣買ヲ爲ストキハ仲買人ト委任者トノ間ニハ委任關係ヲ生スルモノトス

○執達吏カ有體動産ヲ差押ヘ之ヲ保管スルハ債權者ノ委任ニ基クモノナリト雖モ固ト是レ法律ノ規定ニ從ヒ其職務上當然爲スヘキ義務ニ屬スル事柄ニシテ普通ノ代理關係ヲ以テ論スヘキモノニ非サルノミナラス犯罪行爲ハ委任事項ノ範圍以外ナルカ故ニ執達吏ノ犯罪行爲ニ付テハ債權者其責ニ任セス

○取引所仲買人カ取引所ニ於ケル賣買ノ委任ヲ受ケ賣建又ハ買附ヲ爲シタル以上ハ其轉賣買等取引ノ變更ニ關シテハ一ニ委任者ノ意思ニ從フヘク自己ノ意思ヲ以テ委任者ノ意思ヲ阻碍シ得ヘカラサルハ委任ニ關スル一般ノ法理ナリトス

○多數委任者カ委任者ニ對シ委任事務執行中收得シタル金錢ノ引渡ヲ請求スル場合ニ於テ別ニ反對ノ意思表示アラサル限り多數委任者ノ權利ハ之ヲ平等ノ割合ナリト看做スヘキモノトス

○受任者カ委任事務ヲ處理スルニ當リテ受取リタル物ヲ委任者ニ引渡ス

三二

三六

三一

三六

三六

三六

三六

三六

三六

三六

○受任者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ委任關係終了スルカ故ニ受任者ノ破産管財人ハ委託物件ヲ保管シ且賣却スルニ付キ法律上何等ノ原因ヲ有セス從テ其賣却ニ因リ破産財團ノ取得シタル利益ハ不當利得ニ該當ス

○甲者カ乙者ヲ欺罔シテ債權取立ノ委任ヲ爲サシメ債務者ヨリ取立テタル金銭ヲ費消シタル場合ニ於テハ乙者ハ民法第六百四十七條ニ依リ其引渡ノ請求ノ外尙ホ利息及ヒ損害賠償ノ請求權ヲ有スレトモ甲者ノ取立テタル金額ヲ損害賠償トシテ請求スル權利ナシ

(參照)

委任狀ハ他人ニ或權限ヲ與ヘテ或行爲ヲ委任スルモノニシテ直ニ之ヲ以テ賣買若クハ抵當貸借ノ證ト認ムルヲ得ス
 委任狀其モノヲ以テ直ニ代理以外ノ權利關係ヲ成立セサルコト明白ナリ但委任狀ニ依テ所有權移轉ノ爲メニ株券等ノ名義ヲ替換ヲ行フノ能力ヲ付與スルニ過キサルノミ
 故ニ無記名委任狀ヲ添ヘタル株券ノ所持人ヲ認メテ直チニ其所有者ナリト斷定スルヲ得ス何トナレハ其株券及ヒ其委任狀ノ記名ハ所持人ノ名義ニ非サレハナリ然リト雖モ所持人ハ該株券ヲ抵當ト爲スノ權力若クハ自ラ所有主タルコトヲ得ルノ權能ヲ有セサルニ非ス
 差配委任ハ或行政事務ノ一部ニ止マラス差配人カ其借地料ヲ取立ツル如キハ當然ノ職務ニシテ差配委任中ニ包含スルモノト云ハサルヘカラス僱シ訴人ニ於テ差配人ノ權限ハ或行政ノ一部ニ止マルハ地方慣習アリト云ハハ民事訴訟法第二百十九條ノ規定ニ據リテ之ヲ證明スルノ

三	元	二	五	元	三
六	二	五	五	三	〇
四	七	五	五	三	〇

貴アリ而シテ其慣習ノ有無ヲ審查スルト否トハ裁判官ノ職權内ニ屬スルモノトス且法律(明治八年第四百十八號布告第二條)ニ於テ地主ノ貸地證明ニ就キ他人ノ代理ヲ禁シタルコトヲクレハ其代理委任ハ差配管理内ニ包含スト認定スルモ決シテ違法ニ非ス

委任狀ノ文詞ニ「拙者固有特有ニ論ナク總テ保存スヘキ權利及ヒ義務ノ執行ニ關シ公私百般ノ事ヲ辦理スルコト」トアルトキハ總理代人ナルモ委任者ノ義務ニ付テハ既ニ負擔スルモノノ履行ヲ爲スヘキ權限ヲ有スルノミニテ新ナル義務ヲ生セシムル契約ヲ爲ス權限ヲ有セス故ニ總理代人カ新ナル契約ヲ爲スニハ必ス本人ノ承諾ヲ要ス書入登記ヲ爲ス際ニ用井タル委任狀ニ本人ノ實印ニ非サルモノヲ捺捺シアルニ於テハ本人ノ認諾ナキモノナルヲ以テ總理代人ノ所爲ハ委任權外ナリトス

總理代人ハ本人ニ代リ其名義ヲ以テ一般ノ事務ヲ管理スルニ止マリ固ヨリ處分ヲ委任スルモノニ非サルヲ以テ一切ノ權義ヲ無効ナラシムルト云フ如キ契約ハ特ニ其委任ヲ受クルニ非サルニミリハ之ヲ爲スノ權能ヲ有セス
 頼母子講ノ世話人ハ其講會ニ關シテ行フタル行爲ニ付キ法律上責任ヲ免ルルコトヲ得ス
 契約ヲ締結スルニ付キ二名以上ノ者ニ其代理ヲ委任シタル場合其委任行爲ハ數人共同ニテ爲スヘキモノナリヤ又ハ一人ニテモ爲シ得ヘキモノナリヤハ委任當時ニ於ケル委任者ノ意思ヲ推究シテ決スヘキモノトス

第十一節 寄託

○無償ニテ寄託ヲ受ケタルモノハ其寄託物ノ保管ニ關シ自己ノ財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ爲スノ義務アルコトハ法理ノ當然ナリ

三	元	二	七	元	二
六	二	五	五	二	〇
四	七	五	五	二	〇

○民法施行前ニ在リテハ金錢其他ノ物ヲ給付スル債務ヲ負擔スル場合ニ於テ其債務者ト債權者トカ之ヲ以テ寄託ノ目的ト爲スコトヲ契約スルトキハ寄託契約ハ成立シタリ

○寄託者カ寄託シタル特定物ノ返還ヲ請求スル場合ニ於テハ受寄者ハ中等ノ物質ヲ有スル物ヲ以テ返還スヘキモノナリトノ法則又ハ寄託物ハ寄託物ノ品質ヲ證明スルノ責任ヲ免ルルコト能ハス

○民法第六百六十六條ハ既ニ成立シタル消費寄託ニノミ適用スヘキモノニ非スシテ消費寄託ノ成立ニ關シテモ亦之ヲ適用スヘキモノナリ

○有償寄託ノ場合ニ於テハ寄託者カ報酬ヲ提供スルマテ受寄者ハ寄託物ノ返還ヲ拒ミ得ルモノトス

○契約上ノ債務者ハ契約ノ本旨ニ從ヒ之ヲ履行スル責務アルヲ以テ共有物ノ受寄者カ契約ニ關係セサル共有者ノ一人ニ其物ヲ引渡シタリトテ其債權者ニ對シテ負擔シタル債務ヲ消滅セシムル效力ヲ生セス

(刑) ○受寄ノ金錢ヲ費消シタル者ハ其金錢カ何人ノ所有ニ屬セシヤヲ問ハス寄託者ニ對シ損害賠償ノ責任ヲ負フニ過キス從テ其眞所有者ハ被告ニ對シテ賠償ヲ要求スルノ權ナシ

三四	二〇
三五	二
三六	二〇
三七	八四
三八	二〇四
三九	五七
四〇	六四

○民法第六百六十六條ハ其但書ノ規定ニ牴觸スルモノヲ除ク外凡テ消費貸借ニ關スル規定ヲ消費寄託ニ準用スルノ法意ナリトス從テ消費貸借ニ關スル民法第五百八十八條ノ規定モ亦消費寄託ニ準用セラルヘキハ當然ナリ

(同第三)

民法第六百六十六條ハ但書ノ事項ヲ除キ他ノ事項ニ關シテハ其契約ノ成立ニ關スルモノト否トナ間ハ總テ消費貸借ニ關スル規定ヲ準用スルノ法意ナリト解釋セサルヘカラス

○受寄者カ破産宣告ヲ受ケタル場合ト雖モ寄託物ヲ保管スル權利ノ如キハ當然之ヲ喪失スヘキモノニ非サレハ受寄者ノ破産管財人ハ該物件ヲ保管シ且賣却スル權利ヲ有セス從テ其賣却ニ因リ破産財團ノ取得シタル利益ハ法律上何等ノ原因ナキモノトス

(參照)

倉庫會社カ火災ニ因リ受託物品ヲ滅失シタルトキハ其火災ハ自己ノ過失ニ非サルコトヲ立證シ初メテ賠償ノ義務ヲ免ルルコトヲ得
他人ヨリ委託セラレタル物品ヲ運搬スルニ當リ運搬人ノ選擇宜シキヲ失シ爲メニ物品ヲ紛失シタルトキハ受託者ハ所有主ニ對シ賠償ノ責任ヲ負フヘキモノトス

第十二節 組合
○株式會社ハ第三者ニ對シ其定款ニ羈束セラルヘキモ組合ノ規約ハ組合

四一	二四七
四二	五七
四三	一七三〇
四四	二七
四五	四七
四六	九三

第三章 事務管理

- 事務管理人ハ管理行為ノ外必要ノ場合ニ於テ本人ノ意思ニ反セサルトキハ處分行爲モ亦之ヲ爲スコトヲ得
- 民法上事務管理ニ關スル規定ハ公法人ニ適用スヘカラサル旨ノ規定ナキノミナラス町村制ニ於テモ亦之ヲ除外シタリト認ムヘキモノナシ
- 事務管理者カ自己ノ名ヲ以テ其相手方ト爲シタル法律行為ノ直接ノ效力ハ常ニ兩者間ニ止マリ相手方ト本人トノ間ニ及フコトナシ

第四章 不當利得

- 賭博ノ爲メ給付ヲ爲シタルニ因リ發生シタル債權ノ如キハ不法ノ原因ニ基ク權利ナルヲ以テ裁判上請求スルコトヲ得ス
- 不法ノ原因ヲ憑據トスル請求ハ法律ノ保護スヘキモノニ非ス
- 債務者カ債權者ヲ詐害スル目的ヲ以テ所有地ノ保管ヲ他人ニ託シ名ヲ賣買ニ假リ之ヲ隱匿スルカ如キハ不法行為ナルヲ以テ其地所ヲ取戻ス爲メ法律ノ保護ヲ受クルコトヲ得ス
- 債權者カ債務者ノ債權轉付ヲ得タルハ法律上ノ原因アリテ利益ヲ取得

三	三	三	三	三
四	二	九	七	二
八	五	八	六	二
			六	七

- シタルモノトス故ニ若シ債權轉付ノ手續ニ違法ノ廉アリシ爲メ損害ヲ被ムリタル者アレハ不法行為ト云フヲ得ヘキモ不當利得ト云フヲ得ス
- 不當利得ノ返還ハ請求ノ當時現存スル利益ノ限度ニ依ルヘキモノニ非スシテ其得タル時ノ利益ノ存スル限度ニ依ルヘキモノトス
- 債權者ニ於テ抵當地ヲ買受ケ債務ノ辨濟ヲ受ケタル場合ニ其賣買カ無効ニ歸シタルトキハ債權者ハ無償ニテ其地所ヲ返還スルモ其債權ハ自然ニ復活シ抵當權ノ復舊ヲ求ムルコトヲ得隨テ債務者ハ不當ノ利得ヲ得ルモノニ非ス

- 不法ノ原因ニ基ク權利ハ債權者カ訴ヲ起シテ債權ノ履行ヲ請求スル場合タルト債務者カ訴ヲ起シ其債權者ノ請求權ヲ無効タラシメントスル場合タルトヲ問ハス均シク裁判所ニ向テ救濟ヲ仰クコト能ハサルモノトス
- 選舉ニ關スル運動費ト稱スルモノノ給付ナレハ即チ不法ノ原因ニ出テタル給付ナリトハ概言スルコトヲ得サルヲ以テ其金錢給付ノ目的不法ナリシコトヲ主張スル者ニ證明ノ責任アリ
- 民法第七百七條ハ錯誤ニ因リテ辨濟ヲ爲シタル債務ニ付キ同一ノ請求原因ヲ以テ第三者ニ之ヲ請求スルコトヲ得ヘカリシ場合ニ於ケル規定

三	三	三	三
一	一〇	一	二
一	五	一	七

ナリトス

(刑) ○不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者ハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ストハ不當利得ノ場合ニノミ適用スヘキ法則ナリ從テ之ヲ以テ不法行爲ニ因ル損害賠償ノ場合ニ適用スルコトヲ得ス

○法律上ノ原因ナクシテ他人ヨリ金錢ヲ取得シタルトキハ其取得シタル金錢ハ之ヲ消費スルト否ト其消費ノ方法ハ生産的ナルト否トニ關セス其取得シタル利益ハ直接又ハ間接ニ存スルモノト看做スヘキモノトス

○民法第七百三條ニ謂フ法律上ノ原因トハ權利ノ得喪變更ノ原因タルヘキ法律行爲若クハ相續占有時効等ノ如キモノヲ指シタルモノニシテ支拂命令又ハ之ニ基ク假執行命令ノ如キハ之ニ包含スルコトナシ

○支拂命令ニ基キ給付ヲ受ケタル者ト雖モ異議ノ申立ニ依リ其命令カ效カヲ失ヒ且命令ノ基因タリシ事由存在セサル以上ハ其給付ハ法律上ノ原因ナクシテ受ケタル利益ナルヲ以テ之ヲ返還スヘキモノナルヤ勿論ナリ

○債務ノ存在セサル事實ヲ知リナカラ債務ノ辨濟トシテ或給付ヲ爲シタル者カ其給付シタルモノヲ取戻シ得サルコトハ民法施行以前ニ於テ既ニ存在シタル法則ナリ

三四三 八

三四四 一七

三四九 七

三五九 一六

三五九 一六

三五二 三

○民法第七百八條ノ規定ニ違反シ不法ノ原因ノ爲メニ給付シタルモノノ返還ヲ約スルカ如キハ公益規定ニ反スル法律行爲ニシテ無効ナリト雖モ給付ヲ受ケタルモノヲ賣買贈與等ノ法律行爲ニ基キ其給付ヲ爲シタル者ニ對シ更ニ給付スルハ毫モ不法ニ非ス

○他人ノ土地ヲ冒認シテ之ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テハ抵當權設定ノ無効ナルハ勿論縱令抵當權者カ抵當物件ヲ競賣ニ付シ競落代金ヲ受領スルモ其競賣ニ因リテ所有權移轉ノ效力ヲ生スヘキ筋合ナク從テ眞ノ所有者ニ損失ナケレハ眞ノ所有者ト抵當權者トノ關係ハ不當利得ノ規定ニ該當セス

○地上權者カ土地所有者ニ對シ地代ヲ支拂フヘキ義務ヲ負擔セル場合ニ其支拂ヲ爲サスシテ土地ヲ使用スルモ之ヲ以テ法律上ノ原因ナクシテ不當ニ利得シタルモノト謂フヲ得ス從テ此場合ニハ不當利得ノ法則ヲ適用スヘキモノニ非ス

(刑) ○詐欺取財ノ被害者ト雖モ不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタルモノハ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

(刑) ○民法第七百八條ノ規定ハ不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者カ其給付ニ因リテ受ケタル損害ニ付キ相手方ノ不法行爲ヲ原因トシテ賠償ヲ請

三六 五九

三六 九三

三六 一四〇

三六 一八三

求スル場合ニモ適用セラルヘキモノナリ

○指名債權ノ讓渡人カ其讓渡ヲ債務者ニ通知セシテ自ラ辨濟ヲ受ケタル場合ニ於テハ其辨濟ハ有效ニシテ讓受人ハ債務者ニ對シ更ニ辨濟ヲ請求スル權利ヲ有セス從テ該讓渡人ハ讓受人ノ財産ニ因リ法律上ノ原因ナクシテ利益ヲ受ケ之カ爲メ讓受人ニ損失ヲ及ホシタルモノトス

○民法第七百七條ニ所謂證書ノ毀滅ハ獨リ有形的ニ證書ヲ破棄シテ全然其證據力ヲ失却セシメタル場合ニ止マラス債權者ニ於テ其證書ニ横線ヲ施シ或ハ債務者名下ノ印影ヲ塗抹シタルカ如キ場合ハ勿論其他證書ヲ債務者又ハ辨濟者ニ返還スル等債權者カ自由ニ之ヲ立證方法ニ供スルコト能ハサルニ至リタル場合ヲモ包含ス

○確定判決ハ確定ノ債務名義ニシテ其強制執行上金錢ヲ支拂フモ法律上ノ原因ナクシテ支拂ヲ爲シタルモノニ非サレハ不當利得ヲ原因トシテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス

○受任者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ委任關係終了スルカ故ニ受任者ノ破産管財人ハ委託物件ヲ保管シ且賣却スルニ付キ法律上何等ノ原因ヲ有セス從テ其賣却ニ因リ破産財團ノ取得シタル利益ハ不當利得ニ該當ス

三

一八四

三

七六

三

二八一

三

一〇二

三

一七〇

○受寄者カ破産宣告ヲ受ケタル場合ト雖モ寄託物ヲ保管スル權利ノ如キハ當然之ヲ喪失スヘキモノニ非サレハ受寄者ノ破産管財人ハ該物件ヲ保管シ且賣却スル權利ヲ有セス從テ其賣却ニ因リ破産財團ノ取得シタル利益ハ法律上何等ノ原因ナキモノトス

○民法實施前ニ於テハ法律ノ禁制ニ違反シタル行爲ニ基ク給付ハ常ニ必スシモ之ヲ取戻シ得ヘカカラサルモノニ非ス而シテ其取戻シ得ヘカラスル給付ハ行爲ノ性質上當然醜惡ナル場合ニ限ルモノトス

(同前)

法律ノ禁制ニ違反シタル行爲ハ無効ナリト雖モ法律ノ禁制ニ違反シタル行爲ニ因リテ爲シタル給付ハ必スシモ取戻シ得ヘカラスルモノニ非ズ其給付ノ取戻シ得ヘカラスルハ其行爲ノ性質上當然醜惡ナル場合ナラサルヘカラス

○民法第七百八條ノ規定ハ單ニ不當利得ノ返還請求權ニノミ之ヲ適用スヘキモノニ非スシテ不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者カ其給付ニ因リテ受ケタル損害ニ付キ相手方ノ不法行爲ヲ原因トシテ賠償ヲ請求スル場合ニモ亦適用セラルヘキモノトス

○利息制限法ニ違背シタル利息ニシテ既ニ當事者ノ間ニ授受セラレタルモノハ債務者ニ於テ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

三

一七三〇

三

二八一

三

五

七四

三

六五五

三

六六六

(同前)

債務者カ任意ニ制限超過ノ利息ヲ債權者ニ支拂ヒタル場合ニ於テハ民法第七百八條ニ所謂不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタルモノニシテ其返還ヲ請求スルコトヲ得ス

○法律上ノ原因ナクシテ現ニ受ケタル金錢上ノ利益ハ後日減少シタル事實ナケレハ依然存在スルモノト推定スヘキモノトス

○第二順位ノ抵當權者カ其權利ヲ實行シテ抵當不動産ヲ競賣シ第二ノ順位ニ於テ競落代金ノ配當ヲ受ケタル場合ニハ其所得ハ法律上正當ナル理由ニ基キタルモノトス故ニ第一順位ノ抵當權者ハ不當利得ヲ原因トシテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

○不動産ノ賣買及ヒ抵當權ノ設定カ虛偽ノ意思表示ニ出テタル場合ト雖モ登記簿上賣主ヨリ買主ニ其所有名義ヲ移シ又ハ所有者ヨリ抵當權ノ登記ヲ爲スハ民法第七百八條ノ所謂給付ニシテ不動産ノ眞所有者カ之ヲ舊態ニ復スル爲メ所有名義ノ書換及ヒ抵當權登記ノ抹消ヲ要ムルハ其給付ノ返還ヲ請求スルモノニ外ナラス

○土地所有者カ他人ニ實印ヲ濫用セラレ不知ノ債權成立シタル場合ニ於テ強制執行ヲ避クル爲メ該土地ニ付キ假裝ノ賣買及ヒ抵當權ノ設定ヲ爲スニ當リ其債務ハ自己ノ負擔ニ屬スルモノト信セサリシ以上ハ之ヲ

三五

九

一三四

三元

二二六

三元

一四五九

三元

一七〇八

以テ不法ノ原因ノ爲メニ給付ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス

○債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタル者カ其債務ノ存在ヲ知ラサリシ故ヲ以テ給付シタルモノノ返還ヲ請求スル場合ニハ唯其債務ノ存在セサリシコトヲ證明スルヲ以テ足り更ニ其存在ヲ知ラサリシ旨ヲ證明スルノ要ナキモノトス

○抵當不動産ノ第三取得者ハ各不動産ノ價格ニ應シ他ノ第三取得者ニ對シテ債權者ニ代位スヘキモノトス從テ債權者カ他ノ第三取得者ノ不動産ニ對スル抵當權ヲ拋棄シタル後尙ホ債權全額ニ付キ抵當權ヲ實行スルニ於テハ該不動産ノ價格ニ相當スル金額ハ法律上ノ原因ナクシテ不當ニ之ヲ利得シタルモノナリ

(參照)

府縣知事ニ於テ國庫ノ棄捐シタルモノヲ徵收シ其金額ヲ國庫ニ納入セサルトギハ不當ノ徵收不當ノ利得ト云フヘシ

自己ノ犯罪行爲ヲ口實トシテ自己ノ權利ヲ回復セントスルモノハ法律之ヲ保護セズ
自己ノ犯罪ヲ原由トスル訴求ハ裁判上保護ヲ與ヘス

妾ナルモノハ男女間ニ於ケル内輪ノ關係ニシテ一夫一婦タル善良ノ風俗ニ反スルモノナレハ法律ハ其關係ヲ認メス從テ妾ナル人格ハ正當ノ身分トシテ之ヲ認ムルヲ得ス故ニ妾タル身分ノ關係ニ基キ取結ヒタル契約ハ不法ノ原因ニ基クモノナレハ裁判上之カ履行ヲ許容スヘキモ

二五

三

九

二七

四

六

ノニ非ス

第五章 不法行為

- (刑) ○ 數人カ共同ノ不法行為ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ各自連帶シテ賠償ノ責ニ任スヘキモノトス
- 賣買名義ヲ假裝シ其實貸金ノ抵當ニ取置キタル地所ヲ債權者カ擅ニ他ニ賣却シタルトキハ其所有者タル債務者ニ於テ惡意ノ買主ニ對シ之ヲ追求シ或ハ不法行為ニ基キ債權者ニ損害賠償ヲ求ムルモ其隨意ニ屬ス
- 田家用ノ堰水ハ其水利組合ニ於テ之カ所有權ヲ有セス唯其使用權ヲ有スルニ止マル故ニ其使用ノ餘水ニシテ堰ノ下流ニ流レタル水ヲ他ノ者カ使用スルモ權利侵害ト云フヲ得ス
- 證書偽造行使ノ如キ犯罪行為ヲ以テ他人ニ損害ヲ蒙ムラシメタル者ハ之ヲ賠償スルノ責任ヲ有ス
- 債權者カ債務者ノ債權轉付ヲ得タルハ法律上ノ原因アリテ利益ヲ取得シタルモノトス故ニ若シ債權轉付ノ手續ニ違法ノ廉アリシ爲メ損害ヲ被ムリタル者アレハ不法行為ト云フヲ得ヘキモ不當利得ト云フヲ得ス
- 過失ニ因リ不當ノ申立ヲ爲シタル爲メ裁判所ヲシテ事實ノ認定上錯誤

三〇	一一	一五
三	八	一〇
三	九	二五
三二	一〇	二四
三	五	一四二
三	九	一二五

- ニ陥ラシメ以テ破産ノ決定ヲ爲サシメタル結果他人ニ損害ヲ被ムラシメタルトキハ賠償ノ責ニ任スヘキモノトス
- (刑) ○ 父カ民事擔當人トシテ其子ノ行為ニ對スル責任ヲ定ムルハ子ニ對スル監督ノ義務ヲ怠リタルト否トニ依ルモノトス
- (刑) ○ 竊盜ノ贓物タルヲ知り其販賣ノ牙保ヲ爲シタルモノハ不法行為ノ幫助者タリ從テ民法第七百十九條ノ規定ニ從ヒ被害者ニ對シ竊盜犯ト共ニ連帶シテ損害賠償ノ責任ヲ負フヘキモノトス
- (刑) ○ 何人ト雖モ創傷ヲ受ケ疾病ニ罹リタルトキハ相當ノ治療ヲ加フヘキハ當然ナリ從テ治療宜キヲ失シ爲メニ重患ニ陥リタルハトテ其責任ヲ加害者ニ嫁スルヲ得ス
- 他人ノ債權證書ヲ保管シタル者カ何等ノ原因ナク不法ニ且恣ニ之ヲ債務者ニ返還シタルハトテ唯此返還ノ一事ヲ以テ法律上其債權ヲ消滅セシメタルモノト爲シ直ニ其保管者ヲシテ債權額賠償ノ責務ヲ負ハシムルコトヲ得ス
- (刑) ○ 人ノ名譽ヲ害シ因テ生シタル財産以外ノ損害ニ付テハ其性質上損害額ヲ證明セサルモ裁判所ハ諸般ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ムヘキモノトス
- (刑) ○ 新聞紙ヲ發行スル株式會社ノ代表者タル專務取締役ハ編輯人印刷人及

三	二	八
三	四	八二
三	三	七
三	四	二
三	七	三
三	二	一〇五

ヒ發行人ヲ使用スル者トス從テ新聞紙發行事業ニ付キ右等ノ者カ第三者ニ加ヘタル損害ニ對シテハ民法第七百十五條ニ依リ使用者ハ其賠償ノ責ニ任スヘキモノトス

三二二
一〇五

(刑)

○犯罪行為ニ因リ他人ノ權利ヲ侵害シタル者カ刑事上ノ責任ヲ負フニ必要ナル識別心ヲ有スル以上ハ其智能ハ同一行為ヨリ生スル民事上ノ責任ヲ辨識スルコトヲ得ル程度ニ達シタルモノト認ムヘキモノトス

三二二
二二九

○權利行使ノ爲メ他人ニ損害ヲ加フルモ賠償ノ責ヲ負フヘキモノニ非ス
○船舶ニ對シ假差押ノ命令アリタルノミニテ未タ其執行ナキ場合ニ所有者カ執行アラントトテ慮リ傭船契約ヲ取結ハサリシカ如キハ法律上所有者ノ爲スヘキ當然ノ責務ニ非ス從テ之カ爲メニ損害ヲ生スルモ該命令ヲ發セシメタル者ノ不法行為ニ基クモノト云フヲ得ス

三五五
三六九

(刑)

○法律ニ認許スル方法ニ依ラスシテ私力ヲ以テ擅ニ他人ノ行為不行爲ヲ強制スルハ縱令實體上ニ於テ其行為不行爲ヲ要求スルノ權利ヲ有スル場合ト雖モ他人ノ權利ヲ侵害スル不法ノ行為ナリトス

三六六
七五九

(刑)

○甲カ權利ナクシテ乙ノ所有地内ニ建設シタル土藏ニシテ甲ニ於テ之ヲ收去スルノ義務ヲ負フ場合ニ在テハ其土藏ハ一ノ不動產トシテ何等ノ價值ヲ有スルモノニ非ス從テ縱令乙ニ於テ不法ニ之ヲ取毀テタルニモ

三七七
七五九

セヨ乙ニ對シ其價格全部ノ賠償ヲ命シタル判決ハ不法ナリ

三七九
七五九

(刑)

○夫ハ妻ニ對シ貞操ヲ守ラシムル權アルモノナレハ其妻ト姦シタル者ハ本夫ノ夫權ヲ侵害シタルモノナリ從テ夫權ノ損害ニ對スル賠償ヲ爲スノ義務アルモノトス

三九〇
一四五

○民事訴訟費用法ニ損害賠償ノ率ヲ定メタルモノニ付テハ訴ノ提起ニ關スル過失ヲ原因トシテ其規定ノ範圍外ニ於ケル賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

三九一
四〇一

(刑)

○登録商標ニ類似セル商標ヲ同種ノ商品ニ使用シ廣ク世間ニ販賣スルトキハ之カ爲メ商標主ニ財産上ノ損害ヲ加フルコトアルヘキモ其品質劣ラサル限リハ被害者ノ名譽ヲ毀損シタルモノト云フヲ得ス

三九二
五〇七

○他人ノ特許權ヲ侵犯シ其特許品ヲ偽造スルモ之カ爲メニ損害ヲ生セシメサル以上ハ賠償ヲ爲スノ責任ナシ

三九三
一六二六

○不法行為ニ因ル損害賠償ハ金錢以外ノ給付ヲ許サス故ニ鑛業人カ境界線ヲ踰越シテ他人ノ所有地中ニ坑路ヲ侵掘シタル事實ニ基キ不法行為ヲ以テ單純ナル損害賠償ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所カ坑舗填塞ノ請求ヲ許容シタルハ不法ナリ

三九四
一六四二

○不當ナル差押處分ニ基キ財産ヲ低價ニ賣却シタル場合ニ於テ其差押カ

差押債權者ノ故意又ハ過失ニ出ツルトキハ該債權者ハ之ニ因リテ生シタル債務者ノ損害ヲ賠償セサルヘカラス

○強制執行ノ爲メ所有權ヲ侵害セラレタル第三者ハ民事訴訟法第五百四十九條ニ依リ異議ノ訴ヲ爲サシテ民法第七百九條ニ基キ不法行為ヲ原因トシテ損害賠償ノ訴ヲ爲シ得ヘキモノトス

○債權者カ誤テ第三者ノ所有ニ係ル石炭ノ差押ヲ爲シ探炭ノ貯蓄ヲ妨ケ之ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害ハ不法ノ差押ヨリ直接ニ發生シタルモノナレハ縱令執達吏カ故ラニ注意ヲ爲シ適當ノ場所ニ石炭ヲ移積セサルモ之ヲ以テ其賠償責任ヲ免ルルノ理由ト爲スコトヲ得ス

○或行為カ他人ノ名譽ヲ毀損スヘキモノナルヤ否ヤヲ決スルニハ單ニ其行為ノ性質上一般ニ人ノ名譽ヲ毀損スヘキモノナルヤ否ヤヲ定ムルヲ以テ足レリトセス尚ホ名譽ヲ毀損セラレタリト主張スル人ノ社會ニ於ケル位置狀況等ヲ參酌シ以テ其行為カ特ニ其人ノ名譽ヲ毀損スヘキモノナルヤ否ヤヲ審査セサルヘカラス

○人ノ信用ニ關シ不當ニ虛無ノ事實ヲ社會ニ表白シテ其信用ヲ害スルカ如キハ人ノ名譽權ヲ侵害シタルモノトス

(同主旨)

三元

四六

三元

八七三

三元

一五二四

三元

一六五

三元

一三六

名譽トハ各人カ社會ニ於テ有スル位置即チ品格名聲信用等ヲ指スモノニシテ畢竟各人カ其性質行狀信用等ニ付キ世人ヨリ相當ニ受クヘキ評價ヲ標準トスルモノニ外ナラス

○故意又ハ過失ニ因リ他人ノ權利ヲ侵害スルハ即チ不法行為ニシテ其他

人ノ權利ハ必スシモ法令ノ明文ヲ以テ認許セラレタルコトヲ要セス

○田地ノ所有者カ田養ノ爲メ各自ノ反別ニ應シテ河川ノ流水ヲ平等ニ使用シ得ヘキ慣習上ノ權利ヲ有スル場合ニ於テ其一人カ他ノ所有者等ノ分水權ヲ侵害シタルトキハ民法第七百九條ノ不法行為ヲ以テ論斷セサルヘカラス

三元

四四五

○故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ其身分ノ官吏タルト否トヲ論セス民法第七百九條ニ依リ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノトス

三元

八一七

○債權者カ債務者ノ營業用有體動産ヲ不法ニ差押ヘ其營業ヲ爲スコト能ハサルニ至ラシメタルトキハ之ニ因リテ生スル損害ヲ賠償スヘキ責アルモノトス

三元

九七九

(同主旨)

故意又ハ過失ニ因リ營業上必要ナル物品ヲ差押ヘ爲メニ休業スルノ止ムヲ得サルニ至ラシメタル者ハ營業者ニ於テ該物品ハ他ヨリ買受ケ又ハ借受ケテ營業ヲ繼續シ得ヘキ性質ノモノナ

リトノ理由ヲ以テ休業ニ對スル損害賠償ノ責任ヲ免レ得ヘキモノニ非ス

○有體動産ノ差押ヲ受ケタル者カ之ヲ使用シテ營業ヲ爲スコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ更ニ同種ノ他品ヲ買入レ營業ヲ繼續シテ損害ノ減少ヲ圖ルト否トハ一ニ其者ノ自由ニ屬ス故ニ其差押ノ爲メ休業シタル場合ト雖モ營業ヲ繼續シテ減少スルコトヲ得ヘカリシ金額ハ之ヲ損害額ヨリ控除計量スヘキモノニ非ス

○民法第七百十七條第一項ニ所謂占有者トハ必スシモ私人又ハ法人ニ限リタルニ非スシテ水利組合ノ如キ公ノ法人ト雖モ工作物ヲ占有スル場合ニハ其占有ハ私法上ノ關係ニ於テ存在スルコトアルカ故ニ亦同條ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

○株式會社ノ理事カ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル場合ニハ民法第七百九條ニ則リ被害者ニ對シテ賠償ノ責ニ任セサルヘカラス

○電氣事業者カ電線ヲ架設スルニ付キ電氣事業取締規則ニ違背シ他人ニ損害ヲ加ヘタル以上ハ其工事ノ施行ニ關シ當該官廳ノ認可ヲ受ケタル場合ト雖モ民法上賠償ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

(同三三)

電線架設ノ如キ危險ノ工事ヲ施設スル者ハ其危險豫防ノ設備充分ナラサルカ爲メニ損害ヲ蒙

ムリタル者ニ對シ賠償ノ責ニ任セサルヲ得ス

○假差押ヲ爲シタル者カ債權ヲ有スルコトヲ確信シ而カモ之ヲ信スヘキ相當ノ理由アル場合ニハ縱令裁判上其債權ナキニ歸スルモ他ニ特別ノ事由ナケレハ其假差押ヲ以テ故意若クハ過失ニ出テタルモノト爲スコトヲ得ス

(刑) ○民法第七百二十二條第二項ハ被害者ニ過失アル場合ニ於テハ損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌スルト否トヲ裁判所ノ見込ニ一任シ全然其職權ニ屬セシムルモノトス從テ裁判所カ被害者ニ過失アリタル事實ヲ認メ乍ラ何等斟酌スルコトナク損害賠償ノ額ヲ定ムルモ不法ニ非ス

○代理人カ故意ヲ以テ本人ニ對シ不利益ノ結果ヲ生セシムルカ如キ行為ヲ爲スニ當リ之ニ共謀加功シタル第三者ハ本人ニ對シテ其損害ヲ賠償スヘキ責任ヲ負フモノトス

(刑) ○新聞紙ノ編輯人カ編輯ノ上新聞紙ニ掲ケタル記事ニシテ偶々誹毀ニ關スル刑律ニ觸ルルコトアルモ之ヲ職務ノ執行行為ニ非スト云フヲ得ス

(參照)

上告人カ某書ニ某氏先世ノ記事中「又常ニ名主役タリトアル八字ノ抹殺ヲ請求スルノ趣意ハ其地方ノ家格ヲ重ンスル習慣上ヨリ名譽ヲ害セラレタリト云フニ在レトモ其記事タル某氏一家ノ事ヲ記シタルニ止マリ他ノ利害ニ關スヘキ記事ニ非サレハ縱令其記事ノ根據トスル所不

三九七

三九七

二〇六

二六七

二八二

三二二

三三

二八九

三三五

六六

二八一

明ノ廉アリトスルモ之カ爲メ上告人等ノ名譽又ハ權利ヲ戕害シタリト見ルヘカカラス到底訴訟ノ目的ト爲スヲ得サルモノトス
 假差押申請者カ本案ノ請求立タスシテ敗訴スルトキハ不當ニ他人ノ財産ヲ差押ヘタルモノナルヲ以テ之ニ因リ生シタル損害ニ付テハ其責ニ任スヘキモノトス
 刑法上ノ犯罪ト民事上ノ犯罪トノ制裁ハ全ク別種ノ關係ニ基キ各分立シテ互ニ影響ヲ受クルモノニ非ス

刑法第四十七條ノ原則ハ刑法上ノ犯罪ニ附帶スル民事犯罪ニノミ適用スヘキモノニ非スシテ單純ノ民事犯罪ニモ應用スヘキモノトス
 對手者ノ設計工事カ自己ノ營業ニ妨害ヲ來スヘキトキハ未成工事ノ差止ヲ請求シ得ヘキモ未タ妨害ヲ受ケサル前ニ於テ既成工事ノ取毀ヲ請求スルハ不當ナリ
 行爲ノ差止ハ行爲者カ其非行ヲ企テントスル時ニ於テノミ請求スルヲ得ヘク過去ノ非行ニ對シ若クハ將來ノ非行ヲ豫想シ之ヲ請求スルコトヲ得ス
 雇人ノ過失又ハ怠慢ノ結果ハ其使用者ニ於テ之ヲ負擔スルヲ法律上ノ原則トス
 妨害行爲差止ノ訴權ハ現ニ其妨害ノ存スル場合ニ限ラス其將來ニ關スル場合即チ被告ニ於テ權利侵害ヲ脅迫スルトキニ於テモ之ヲ行フコトヲ得
 義務ノ原因カ貸借ノ關係又ハ株金拂込ノ關係等ニ基クトキハ對手者カ決算報告ヲ怠リタルコトアルモ之カ爲メ損害要償ノ原因ヲ發生スルモノニ非ス
 不法行爲ニ原因スル損害賠償ノ債權ハ損害ノアリタルトキヨリ發生ス從テ其當時ヨリ利子ヲ生ス
 致人共謀シテ一ノ不法行爲ヲ爲シタルトキハ之ヨリ生スル責任ハ連帶義務ナルニ依リ始メニ

三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
六	四	三	二	二	五	四	四	三	七
五	六	三	八	二〇	二	二	四	四	六

其中一名ニ對シ訴ヲ提起シ更ニ他ノ數名ニ對シ訴フルモ其訴訟ハ共ニ有效ナリ
 官報ノ廣告ハ仲買人ヲ羈束セス故ニ仲買人カ公債證書ノ贓物ナルコトニ氣付カス之ヲ他ニ轉賣シ其結果買主ノ損害トナルモ仲買人ハ之カ爲メ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノニ非ス
 公道ノ共同使用權ハ公法上ノ關係ヨリ發生シタルモノナルニモセヨ各自ノ生活上ノ必須且諸般ノ權利行使ノ要具ニシテ各人ニ於テ當然之ヲ有スルモノナレハ私法上ニ於テモ亦當然之ヲ保護セサルヘカラサルモノトス故ニ一箇人ニシテ他ノ一箇人ノ共同使用ヲ妨害シタルトキハ公用物ニ付キ公益ヲ害シタルノミナラス併セテ他ノ一箇人ノ自由ヲ侵害シタルモノナルヲ以テ民法上ノ不法行爲ニ相當シ被侵害者ハ司法裁判所ニ出訴シ損害賠償若クハ侵害物ノ排除ヲ請求シ得ヘキモノトス隨テ無訴權ノ判決ハ不法ナリ

鐵道工事ヲ設計スルニ當リテハ時トシテ遭遇スル強雨出水ノ如キ荷モ人ノ豫想シ得ルモノハ之ヲ考量シ其水害ヲ防止スルニ足ルヘキ完全ナル方法ヲ定メテ以テ築造スヘキハ工事擔當者ノ責務ナリ
 上流者ノ鐵道線路ノ破壊ヲ以テ正當防衛ナリトスレハ其破壊ヲ爲スニ至ラシメタル危害ノ原因即チ鐵道工事ノ不完全ハ下流者カ右破壊ノ爲メ被フリタル損害ノ直接原因ナリトス
 鐵道事業ハ官設ノモノト雖モ私設ニ係ルモノト同シク其利益ヲ國庫ニ納ムルモノナレハ工事若クハ運輸ニ關シ其擔當者カ過失懈怠ノ所爲アリテ他人ニ損害ヲ被ラシメタル場合ニハ國庫ニ於テ之カ損害ヲ賠償スヘキハ當然ナリ

三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
五	五	五	三	三	三	三	三	三	三
九	九	九	八	八	八	八	八	八	八

第四編 親族

第一章 總則

(刑) ○夫婦ノ一方カ死亡シタル場合ニ於テ生存配偶者カ其家ヲ去リタルトキハ繼父母ト繼子トノ親族關係ハ消滅スヘキモ (民法第七百二十九條第二項) 分家ノ場合ニハ其親族關係ヲ消滅スヘキモノニ非ス (民法第七百三十一條)

○血族ノ親族タル身分ハ戶籍ニ登錄スルニ因テ其效力ヲ生スルモノニ非ス未タ戶籍ノ登錄ヲ經スト雖モ父母ノ認知ヲ得サル私生子ノ外事實上血族タル者ハ即チ親族ノ身分ヲ有スルモノナリ

○繼父トハ嫡出子若クハ庶子ノ父カ死亡シ又ハ家ヲ去リタル後入夫ト爲リタル者ヲ謂フ故ニ寡婦ノ私生子ニシテ適法ノ認知ヲ受ケサリシ者ハ入夫婚姻ノ後ト雖モ依然其母ノ親權ニ服スヘキモノトス

○民法施行前ニ於テモ繼親子ノ親族關係ハ分家ニ因リテ絶止スヘキ法則存在シタルコトナシ

(參照)

私交上絶交スルコトアルモ親族ノ關係ニ至テハ法理上之ヲ斷絶スルコトヲ得ス既ニ之ヲ斷絶スルコトヲ得サルトキハ親族ノ關係ヨリ生スル權利ヲ行用スルコトヲ得ヘシ

民法上權利ヲ爭フ場合ニハ一家族間ト雖モ他人ト異ナラス

養子女一旦離縁トナリシ以上繼令養家ニ實子ヲ遺シタル場合ト雖モ養家ノ家事ニ付キ親族トシテ關係スルノ權利ナキコトハ古來ノ習慣ナリ故ニ離縁トナリシ婦女ヲ妻ト爲シタル夫ハ妻

二五	二五	三九	三七	三五	三四
六	一			〇	七
五	三	元	七二	二六	二

カ養家ノ家事ニ付キ容喙ノ權利ナキコトモ亦言テ缺タス
 本家ニシテ且少親屬タル關係ヲ有スル者ハ分家ノ秩序ニ關スル事情ニ付キ容喙ノ權利ヲ有スルカ故ニ分家ニ於テ跡相續ヲ爲スヘキ者ノ順位ニ付キ不當ノ處置アリト認ムル場合ハ其相當順位ニ在ル者ヲ保護スル爲メ分家ニ對シ訴訟ヲ起スコトヲ得
 本家分家ノ區別ハ我邦古來ノ慣例上之ヲ認ムルモノナルカ故裁判所カ其關係ニ基キ當事者ニ權利ノ有無ヲ判定シタルハ相當ナリ
 夫ノ死亡後寡婦カ子ヲ遺シ實家ニ復籍スルモ亡夫ノ家ニ對シ當然親族關係ヲ斷絶スヘキ判例若クハ習慣ノ存スルコトナシ故ニ寡婦ノ實弟カ最近親族トシテ該遺子ノ家政ニ關係スルハ相當ナリ

第二章 戶主及ヒ家族

第一節 總則

○民法第七百三十三條及ヒ第八百六十一條ニ所謂家ニ入ルトハ身分ノ家ニ入ルヲ指シタルモノニシテ體軀ノ家屋ニ入ルモノ即チ親子ノ同棲ヲ云フニ非ス

○一旦戶主ト爲リタル以上ハ如何ナル事實證據アリト雖モ之ヲ廢退セシムルコトヲ得ス

○分家ノ行爲ハ廢嫡ト異ナリ任意行爲ナルヲ以テ其分家者ノ意思ニ反シ

三七	二六	二六	二二
五	五	五	二
五	三	三	六

テ爲スコトヲ得ヘキモノニ非ス

○戸主ノ親族タルト否トヲ論セス他家ニ在ル者ハ法令ノ明文ナキ以上ハ戸主ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其家ニ入ルコトヲ得サルハ民法施行以前ニ於テモ法理トシテ認メラレタル所ナリ

○戸主ノ親族ニシテ甲家ヨリ乙家ニ轉籍セントスル場合ニ於テ兩家ノ戸主ノ同意ヲ缺クカ如キ違法アルトキハ其轉籍ハ後日之ニ關スル登記取消ノ手續ヲ爲シタルト否トニ拘ハラヌ兩家ノ戸主ニ對シテ無効ナリトス

○父カ離縁ニ因リ子ノ懐胎後出生前母ト共ニ養家ヲ去リタル場合ニ在テハ子ハ懐胎當時ノ養家ニ入ルヘキモノニ非スシテ出生ノ時ニ於ケル父ノ家ニ入ルヘキモノトス故ニ爾後養家ノ家督相續開始スルモ子ハ法定ノ推定家督相續人トシテ相續又ハ代承相續ヲ爲スノ權ナシ

(參照)

相續人ナキノ故チ以テ一旦一家廢絶スルモ其廢家以前ニ其家ニ生レシ實子アリテ之カ再興チ爲サントスルニ於テハ其者ハ固ヨリ其家ヲ相續スヘキ權利ヲ有ス縱令其家ノ重立タル親戚ト雖モ他ニ格段ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒否スルヲ得ス

民法人事編ノ實施セラレサル今日ニ在テハ慣例ニ依リ既ニ戸主ト爲リタル者ト雖モ十分ナル理由存在スルトキハ之ヲ廢スルヲ得

三五	二
三七	一三八三
三六	八五九
四〇	二〇一六
二七	五〇
二七	五三

絶家再興ニ於ケル相續人ハ其絶家ノ親族タルト他人タルトナ間ハス其親族協議ノ上之ヲ選定シ行政官廳ノ許可ヲ得ヘキモノナルニ依リ此手續ヲ經テ相續シタルモノハ正當ノ相續人ナリトス

第二節 戸主及ヒ家族ノ權利義務

○家族ニシテ民法施行後ニ至リ戸主ノ意ニ反シテ居所ヲ定メタルトキハ戸主ハ之ヲ離籍スルコトヲ得

○戸主ハ一旦家族ニ對シ他ニ寄留スルコトヲ認許セシ後ト雖モ一家ノ整理上之ヲ歸家セシムルノ必要ヲ生シタルトキハ相當ノ期間ヲ定メテ其居所ヲ轉スヘキ催告ヲ爲シ若シ之ニ應セサルトキハ戸主ハ其家族ニ對シ扶養スルコトヲ停止シ又ハ之ヲ離籍スルコトヲ得ルモ強テ歸家セシムルコトヲ得ス

○推定家督相續人ハ戸主ノ指定シタル居所ニ在ラサルヲ理由トシテ離籍スルコトヲ得ヘキモノニ非ス

○民法第七百四十九條ニ規定シタル戸主權ハ一家整理ノ必要上付與シタルモノニシテ絶對無限ノモノニ非ス

(同前)

民法第七百四十九條ニ定メタル戸主ノ權利ハ契約又ハ親族會ノ決議ヲ以テ制限スルコトヲ得

三三	三	三一
三三	三	三
三三	三	一
三四	一〇	八〇
三三	八	八
三三	三	六

サルハ勿論ナレトモ戸主カ之ヲ行フニハ相當ノ理由アルコトヲ要スルモノニシテ絶對無限ニ行使スヘキモノニ非ス

○戸主カ民法第七百四十九條ノ規定ニ違背シテ家族ヲ離籍シ之ヲ戸籍吏ニ届出テタルトキハ其家族ハ戸主ニ對シ身分登記原狀回復ノ手續ヲ爲サシムルノ權利アリ

(參照)

家族ノ特有財産ハ戸主カ之カ處分權ヲ有セス
戸主タル者ハ其家族ニ屬スル者ヲ保育スヘキ義務アルハ我國ノ習慣ナリ故ニ戸主ノ孫タル小兒ヲ預リ居ル者ヨリ其引取ヲ請求スルトキハ戸主タル者ハ之ヲ拒ムヲ得ス
養料支給ノ義務ヲ負擔スル者カ戸主タル場合ニ於テ「家長ハ其眷族ヲシテ同居ヲ強フル權能ヲ有ス」ト云フ如キ民法上ノ原則ナシ
自己ニ處分權ヲ有スル財産讓與ハ其一部ト全部ナルトニ依リ效力有無ノ區別ヲ生セス又殊ニ戸主ノ承諾ヲ受ケサルモ該讓與ハ適法ナリトス
戸主中ノ債務ハ戸主ノ身分ヲ脱退スルモ此事實ノミニ依リ當然其義務ノ免脱ヲ受クヘキモノニ非ス
戸主カ代替物ノ借入ヲ爲スニ當リ反對ノ意思ヲ表示シ又ハ其家ノ戸主ニ限リ辨濟ノ義務ヲ負擔スヘキ特別ノ事由アラサル以上ハ借入ヲ爲シタル戸主カ其後戸主ノ地位ヲ退去スルモ辨濟ノ義務ヲ免ルヘキモノニ非ス又抵當權ノ目的カ戸主ヲ退キタル家ノ現戸主ニ屬シ舊戸主ニ屬セサルノ事由ヲ以テ辨濟ノ義務カ曾テ借入ヲ爲シタル舊戸主ノ負擔ニ非スト云フヲ得ス

三四	六
四〇	二七
二四	一一九
二七	四九
二六	三八
二六	一一
三〇	一一八
三五	七

第三節 戸主權ノ喪失

○民法第七百六十一條ノ規定ハ慣習法ニ無キ所ナルヲ以テ民法施行前ニ生シタル事項ニ適用スルヲ得ス

○民法第七百六十條ノ規定ハ同法第七百五十九條ニ所謂隱居者又ハ家督相續人カ詐欺又ハ強迫ニ因リテ隱居ノ届出ヲ爲シタル後其詐欺ヲ發見シ又ハ強迫ヲ免レタルトキニ於テ隱居ノ取消ヲ爲ス場合ニ適用スヘキモノトス

○隱居家督相續等ノ如キ身分ノ得喪ニ關スル行爲ノ無効又ハ取消請求權ニ付テハ法律ニ於テ特ニ規定シタル場合ヲ除ク外債權者ハ之ヲ有シ若クハ行フコトヲ得サルモノトス

○戸籍吏ニ於テ隱居ノ届出ヲ受理シタル以上ハ縱令届出手續ニ瑕疵アルモ特別ノ明文ナケレハ其届出ハ當然無効ニ歸スヘキモノニ非ス

第三章 婚姻

第一節 婚姻ノ成立

第一款 婚姻ノ要件

(刑) ○民法施行以前ニ在テハ届出ヲ以テ婚姻ノ條件ト爲サス從テ表面上離婚

民法 親族 戸主及ヒ家族 戸主權ノ喪失 婚姻 婚姻ノ成立 二二九

三三	四
三三	一〇
三三	四〇
三六	八九七
三七	二〇五

○民法第八百五十九條及七百八十五條ハ當事者カ縁組ヲ爲ス要素ニ錯誤アル場合ニ非スシテ唯縁組ヲ爲スニ付キ詐欺又ハ強迫ニ因リ意思表示ヲ爲シ之カ爲メニ其要素以外ノ事項ニ錯誤ヲ來シタル場合ヲ規定セルモノトス

第二節 婚姻ノ效力

○民法第七百九十一條ハ未成年ノ女カ婚姻スルトキハ親權者ノ存スルト否ト後見ノ開始スルト否トヲ問ハス婚姻ノ效力トシテ成年ノ夫カ直ニ其後見人ノ職務ヲ行ヒ民法第九百二十一條ニ定メタル權利義務ヲ有スヘキ旨ヲ規定シタルモノト解釋セサルヘカラス

(參照)

婦ハ其夫ト共棲スヘキ義務アルモノナレハ其夫家ヲ立出タルハ自己ノ任意ニ非スト主張スル婦ハ之カ立證ヲ爲スノ責任アリ

第三節 夫婦財産制

第一款 總則

(參照)

法律上公然妻タル身分ニ在ラサレモ當事者相互ノ間ニ於テハ實際夫妻ノ關係ヲ生シタリト認メ又異論ナキ點ヨリ其財産ヲ共通財産ナリト認ムルハ要スルニ事實ノ判斷ニ止マリ敢テ一般

ノ習慣ヲ無視シ又ハ不現行ノ法律ヲ適用シタル違法ノ裁判ニ非ス

第二款 法定財産制

○民法第八百一條ハ妻ノ財産ニ對スル夫ノ管理權ヲ認メ同第八百二條ハ夫カ妻ノ爲メニ又ハ妻ノ財産ニ付キ同條列記ノ法律行為ヲ爲スニハ妻ノ承諾ヲ必要トスル規定ニシテ妻ノ爲シタル法律行為ニ付キ夫カ獨立シテ訴訟行為ヲ爲スコトヲ許シタルモノニ非ス
○妻ノ財産ニ對スル夫ノ收益權ハ夫婦關係ノ繼續中ニ限り存立スルモノナレトモ婚姻中既ニ發生シタル法定果實ニ付テハ其解消後ト雖モ夫タリシ者之ヲ收得スヘキ權利ヲ有スルハ當然ナリ

第四節 離婚

第二款 裁判上ノ離婚

○民法第八百十三條ニ所謂惡意ノ遺棄ハ扶養義務ノ如何ニ關セス夫婦ノ一方カ惡意ヲ以テ他ノ一方ヲ遺棄スルヲ謂フ
○虐待又ハ侮辱ヲ請求ノ原因トスル離婚ノ訴ニ於テ請求者カ其事實ヲ知リタル時ヨリ一年內ニ訴ヲ提起シタル事實ヲ確定セスシテ其請求ヲ容レタル判決ハ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナリ
○民法第八百十三條第八號ニ所謂重大ナル侮辱トハ配偶者ノ一方カ他ノ

二六	一	三
三九	一〇	一六
四〇	四	九〇〇
三九	九	九七

四〇	二〇七
三六	二〇九
二九	三八

一方ノ直系尊屬ニ對シテ爲シタル行爲自體ノ狀態ニ付キ判斷スヘキモノニシテ行爲ノ場所ニ第三者ノ存在スルト否トハ毫モ相關スルコトナシ

○侮辱行爲ハ其行爲者カ苟モ云爲スル意思アリテ云爲スルトキハ之ヲ構成スルニ足ルモノニシテ侮辱ヲ加フル意思アリシヤ否ヤハ必スシモ之ヲ審究スルノ要ナシ

○離婚ノ原因アル場合ニ於テ其請求權アル者ハ之ヲ請求スルト否トノ自由ヲ有スルト同時ニ縱令離婚ノ判決確定スルモ之ヲ執行スルト否トハ亦其自由ナルヲ以テ請求者ニ對シ離婚ヲ強要スルコトヲ得ス

○夫カ重病ニ罹リ起居進退不自由ナルヲ顧ミス家ヲ出テ看護ヲ爲ササル妻ノ行爲ハ惡意ノ遺棄タラサルトキト雖モ夫ニ對シテハ同居ニ堪ヘサル虐待ト爲ルコトアルヲ妨ケサレハ裁判所カ如上ノ事實ノ存在ヲ認めタル以上ハ當事者ノ關係ニ於テハ所謂虐待ノ場合ト爲ルヘキ事實ナリヤ否ヤヲ判斷セサルヘカラス

○夫カ正當ノ理由ナク竹棒ヲ以テ妻ヲ毆打シ其倒ルルニ乘シ足ヲ擧ケテ之ヲ蹴リタル所爲ハ一時ノ憤激ニ出テタルト否ト將タ夫妻間ノ不和合ニ原因シテ生シタルト否トヲ論セス民法第八百十三條第五號ニ謂フ同

居ニ堪ヘサル虐待ニ該當セルモノトス

○夫カ妻ニ對シテ竊盜ノ汚名ヲ負ハシメ他人ノ面前ニ於テ裸體ト爲ラシムルカ如キハ婦人ヲ辱ムルノ甚シキモノニシテ其當事者ノ身分職業ノ高下ヲ論セス妻ニ對シテ重大ナル侮辱行爲ヲ構成スルモノトス

○民法第八百十三條第五號ノ同居ニ堪ヘサル虐待ヲ受ケタルトキトハ繼續的ナルト一時的ナルトヲ問ハス其所爲苛酷ニシテ到底夫婦ノ關係ヲ持續シ同居スルニ堪ヘサル場合ヲ云フモノトス

○夫カ他人ノ面前ニ於テ妻ニ對シ竊盜ノ行爲アリタリト言フカ如キハ其事實ノ有無ヲ問ハス妻ニ汚名ヲ被ラシメタルモノニシテ民法第八百十三條第五號ニ所謂重大ナル侮辱ニ該當スルモノトス

(參照)

婚姻ハ婦カ婚家ノ家族ト爲ルノ原因ナルヲ以テ夫ノ死亡ニ依リ此原因消滅スルトキハ寡婦ハ特別ノ事由アル場合ノ外離縁ヲ求ムルコトヲ得

第四章 親子

○實親子ノ關係ハ自然ノ血縁ニ因ルモノナルカ故ニ其血縁アル者ノ間ニ親子ノ關係存スルハ勿論ニシテ血縁アルコトノ知レサルカ如キ又ハ届

三六	八二五
三六	一〇三六
四〇	五八〇
四〇	一〇七九
四五	四九

三六	二一七
三六	二一七
三六	二一七
三六	一四〇〇

出ヲ爲サス若クハ不實ノ届出ヲ爲シタルカ如キ場合ニハ唯其關係ヲ認メ得サルニ過キス

第一節 實子

第一款 嫡出子

○民法施行前ト雖モ嫡出子否認ノ訴ヲ禁シタル法律及ヒ慣例ナシ
○嫡出子否認ノ訴ハ民法施行以前ニ在テハ別ニ出訴ニ關スル期限ノ規定ナク民法ニ於テ始メテ之ヲ定メラレタルモノナルカ故ニ民法施行以前ニ夫カ子ノ出生ヲ知リタルモノニ付テハ民法施行法第三十四條ニ依リ其第三十二條及ヒ第三十一條但書ノ規定ヲ準用シ民法施行ノ日ヲ以テ起算點ト爲スヘキモノトス

第二款 庶子及ヒ私生子

○認知ヲ求ムルノ權ハ子其直系卑屬又ハ其法定代理人ニ限リ行使スルヲ得ルモノトス
○私生子カ其父トスル者ニ對シテ認知ヲ求ムルコトヲ得サルハ明治六年布告第二十一號ニ依リ明カナレトモ嫡出子トシテ其引取及ヒ戶籍編入ノ請求ヲ其母親族ヨリ爲シ來リタルコトハ裁判上ノ慣例ナリ
○民法第八百三十五條ハ法定代理人カ自己ノ資格又ハ自己ノ權利ニ因リ

三	三	三	三
六	一	四	三
七	七	九	二
			五九

テ認知ヲ求ムルニ非スシテ無能力者タル子又ハ其直系卑屬ヲ代表シテ認知ヲ求ムルノ意義ニ解釋セサルヘカラス

○民法第八百三十五條ハ認知ノ請求ニ付キ法定代理人カ無能力者ヲ代理スルコトヲ特ニ規定シタルモノナリ

○民法第八百三十五條ノ場合ニ於テハ法定代理人ハ無能力者タル子又ハ其直系卑屬ヲ代表シテ認知ヲ請求スルモノニシテ父又ハ母カ子ヲ代表スルハ親權ノ效力ニ外ナラス故ニ私生子ノ母タル未成年者ノ親權者カ其未成年者ニ代リテ親權ヲ行ヒ私生子認知請求ノ訴ヲ提起スルハ不法ニ非ス

第二節 養子

第一款 縁組ノ要件

○民法施行前ニ在テハ實際養父子タル事實ノ存スル以上ハ其事實ニ據リ判斷ヲ下スヘキハ我國裁判上ノ慣例ナリ

○民法施行以前ニ在リテハ法定家督相續人タル男子アル場合ト雖モ單純ノ養子ヲ爲スコトハ當時ノ法令若クハ慣習ニ違背スル所ナシ

(參照)

養子ハ一旦其實家へ復歸シタル上ニ非サレハ更ニ他家ノ養子ト爲ルヲ得ス

三	三	三	三
九	九	九	九
一〇三	一〇三	一〇三	一〇三
四	四	四	四

養子カ實家へ復籍セスシテ直チニ他家ノ養子ト爲ル契約ヲ爲スモ其契約ハ養子縁組ノ效力ヲ生セス

婚姻又ハ養女ノ縁組等ハ戸籍ニ登記ナキモ裁判官ハ事實上其成立ヲ認定スルコトヲ得

第二款 縁組ノ無効及ヒ取消

○養子縁組モ亦一ノ法律行爲ナルヲ以テ其取消權ハ民法第百二十六條ニ規定シタル時効ニ因リテ消滅スヘキモノトス

○配偶者アル者ノ爲シタル養子縁組ニ因リテ生シタル當事者間ノ親子關係ハ配偶者ノ一方ノミニ付テ消長セシムルコトヲ得サルカ故ニ養子縁組無効ノ訴モ亦配偶者ノ一方ノミニ意思ヲ以テ提起スルコトヲ得サルモノトス

○民法第八百五十一條ハ當事者ニ縁組ノ意思ナキ理由ヲ一定セス唯人違其他ノ事由ニ因リト規定セルヲ以テ届出ニ表示シタル當事者ニ對シ人違ナルカ故ニ其意思ナシトスル場合ハ勿論單ニ其者ニ對シテ縁組ノ意思ナキ場合ヲモ包含スヘキハ當然ナリ

○當事者ノ不知ノ間ニ外形上養子縁組成立シタルトキハ民法第八百五十一條ニ依リ其無効ヲ請求シ得ルモノトス

○民法第八百五十一條第一號ノ規定ハ人違ニ因リ當事者間ニ縁組ヲ爲ス

二六	二六
二六	二六
三九	三九
三	三
三六	三六
三六	三六
四〇	四〇
四〇	四〇

意思ナキ場合又ハ精神ノ喪失若クハ強迫ニ因リ意思能力ヲ失ヒタル場合ハ勿論其他當事者ニ於テ特ニ縁組ノ要素ト爲シタルモノヲ欠缺シタルニ因リ縁組ヲ爲ス意思ナキ場合モ亦其縁組ヲ無効タラシムルノ法意ナリトス

○民法第八百五十九條及ヒ第七百八十五條ハ當事者カ縁組ヲ爲ス要素ニ錯誤アル場合ニ非スシテ唯縁組ヲ爲スニ付キ詐欺又ハ強迫ニ因リ意思表示ヲ爲シ之カ爲メニ其要素以外ノ事項ニ錯誤ヲ來シタル場合ヲ規定セルモノトス

第三款 縁組ノ效力

○民法第七百三十三條及ヒ第八百六十一條ニ所謂家ニ入ルトハ身分ノ家ニ入ルヲ指シタルモノニシテ體軀ノ家屋ニ入ルモノ即チ親子ノ同棲ヲ云フニ非ス

(參照)

養父カ養子ノ所有地ヲ他へ賣渡スモ實父ニ於テ幼者(實子即他家へノ養子)利益保護ノ爲メ其不當ヲ鳴ラシ之カ取消ヲ求ムル權利ナキモノトス
法定ノ推定家督相続人タル長女ノ婿養子トナリタル者カ養嗣子ノ身分ヲ取得スルハ本邦習慣ノ認ムル所ナリ

三三	三三
二八	二八
二	二
三三	三三

第四款 離縁

- 養親子ノ間ニ在テハ正當ノ原因存スレハ相互ニ離縁ヲ請求シ得ヘキモ第三者ヨリ其請求ヲ爲スヲ得サルモノトス
- 推定家督相續人タル養子ノ離縁ヲ爲スニハ豫メ相續人廢除ノ請求ヲ爲スコトヲ要セス
- 家督相續權ハ相續開始ノ時ヲ以テ始メテ確定スヘキモノナレハ其未タ開始セサルヤ推定家督相續人タル身分ハ一種ノ權利タルコト勿論ナリト雖モ確定不動ノ權利ニ非サルヲ以テ民法第八百七十五條ニ所謂既ニ取得シタル權利ニ非ス
- 養子カ離縁復籍シタル場合ニ第三者ノ既ニ取得シタル權利ヲ害セサル限リハ其實家ニ於テ有シタル身分ヲ回復スヘキ法理ハ民法施行前ニ在リテモ亦之ヲ是認セサルヲ得ス
- 民法第八百六十六條ハ主トシテ離縁ノ事由ヲ定メタル規定ナルモ養親タル夫婦ハ離縁ノ訴訟ニ付テハ各直接利害關係者ニシテ之ニ對スル判決ハ合一ニノミ確定スヘキ場合ナルヲ以テ養親タル夫婦俱ニ存スルトキハ共ニ訴訟當事者ト爲ルヘキコトヲ併セテ規定シタルモノト解釋セサルヘカラス

三	二〇	四	四
三	二〇	二	二
三	二〇	二	二
三	二〇	二	二

○協議上ノ離縁カ縁組當事者ノ意思表示ヲ欠キ又ハ當事者ノ一方ノ意思表示カ相手方ノ詐欺又ハ強迫ニ因リタルトキハ縱令戸籍吏ニ於テ其届出ヲ受理スルモ該離縁ハ民法總則ニ依リ無効ニ屬シ又ハ取消シ得ヘキモノトス

○民法第八百六十三條第一項ニ違反スル離縁ト雖モ戸籍吏カ其届出ヲ受理シタル以上ハ該届出ノ違法ナル理由ヲ以テ之ヲ取消スコトヲ得サルハ勿論同意ヲ得ヘキ者ノ同意ヲ欠キタル理由ヲ以テモ亦之ヲ取消シ得サルモノトス

○養親カ養子タル婦女ヲ強制シテ再三藝妓ノ賤業ヲ營マシメントシ又ハ金錢ノ爲メニ其節操ヲ破ルヘキ行爲ヲ敢テセシメントスルカ如キハ婦女ヲ侮辱スルノ甚シキモノニシテ民法第八百六十六條第一號ニ該當スヘキ行爲ナリトス

○民法第八百六十六條第六號ニ所謂養子カ逃亡シテ三年以上復歸セサルトキトハ養子カ養家ヲ逃亡シテ所在ヲ韜晦シタルトキハ勿論縱令其所
在ハ爾後分明ト爲ルモ復歸ノ意思ナクシテ三年以上ヲ經過シタルトキ
ヲ指稱シ其事實ハ孰レモ養親ノ爲メニ養子離縁ノ原因ヲ成スモノトス
(參照)

三	二〇	四	四
三	二〇	二	二
三	二〇	二	二
三	二〇	二	二

○親權ヲ行フ父ハ子ノ財産上ノ權利ニ關シテ縱令他人ノ財産ヲ讓受ケ之ヲ賣却スルカ如キ法律行為ト雖モ其代表ヲ爲シ得ヘキモノトス

○未成年者ニ對シテ法律上代理ノ資格ナキ者ハ未成年者ヲ代表シテ上告ヲ爲スノ權ナキモノトス

(刑)

○未成年ノ子カ職業ヲ營ムニ當リ親權者ノ許可ヲ得ルニ付テハ別段ノ方式ナシ從テ親權者カ其監督ヲ爲シ居ル事實ヲ以テ承諾アリシモノト爲スコトヲ得

○親權ヲ行フ者ハ民法第八百七十九條ニ規定セラレタル權利ヲ有シ義務ヲ負フモノナレハ自己ノ權利ニ因リ子ノ身體自由ヲ保護スル目的ヲ以テ訴訟ヲ提起シ得ルコト當然ナリ

○親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ財産ニ關スル行為ニ付テハ汎ク其子ヲ代表スト雖モ財産ニ關セサル行為ニ付テハ法律ニ於テ特ニ規定シタル場合ニ限り其子ヲ代表ス

○親權者ト取引ヲ爲ス第三者ニ於テ親權者ノ行為カ親權ノ濫用ナルコトヲ知リタル場合ニ於テハ其行為ハ親權ヲ行フ者其人自身ト第三者トノ直接關係ニシテ親權ニ服スル子ト第三者トノ間ニ爲サレタルモノト云フコトヲ得ス

三四	二	二八
三四	三	三七
三四	八	二五
三四	八	四五
三五	二	二〇

○民法第八百八十八條ハ未成年者ヲ保護スルノ精神ニ基キ親權者ニ特別代理人選任請求ノ義務ヲ負擔セシメタルモノニシテ親權者ノ利益ノ爲メ之ニノミ其權利ヲ與ヘタルモノニ非サレハ同法第九百四十四條ノ推理解釋ヨリシテ親族會ノ招集ヲ請求スル權アル者モ亦該特別代理人選任ノ請求權アルモノト云ハサルヘカラス

○民法施行前ニ在リテ子ノ財産ニ於ケル親權者ノ權利ハ管理權ニ止マラスシテ新民法ノ規定ノ如ク處分權ヲモ包含セシコトハ一般ニ行ハレタル慣例ナリ

○民法第八百八十六條第二號ニ謂フ借財トハ單ニ貸借關係ニ基ク借財ノミヲ指シタルモノニ非スシテ金品給與ノ債務ヲ負擔スル總テノ行為ヲ指稱セルモノトス

○或行為カ借財行為即チ債務負擔行為ナルヤ否ヤハ其行為自體ニ付テ決定スヘキモノニシテ行為ヲ爲スニ至ラシメタル緣由ノ如何ニ由リ定ムヘキモノニ非ス

○民法第八百八十六條第一號ノ規定ニ依リ親族會ノ同意ヲ得テ商業ヲ營ム場合ノ外親權ヲ行フ母カ未成年者ニ代リ法律行為ヲ爲スニハ縱令其行為カ商行為ナルトキト雖モ親族會ノ同意ヲ經ヘキモノトス

三五	六	二〇
三六		四六四
三六		八〇四
三六		八〇四
三六		八〇四

- 約束手形ノ振出ハ手形金額支拂ノ義務ヲ生スルカ故ニ民法第八百八十六條第二號ニ所謂借財ヲ爲スコトニ該當ス
- 親權ヲ行フ母カ民法第八百八十六條ノ規定ニ違反シテ爲シタル借財ニ付キ子又ハ其法定代理人カ取消ノ意思ヲ表示シタルトキハ何人ニ對シテモ其取消ノ效果ヲ援用スルコトヲ得ルモノトス
- 民法第八百九十五條ニ謂フ戸主權ノ實行ニハ隱居ヲ爲スカ如キ行爲ヲ包含セス故ニ親權者カ未成年ノ子ヲ代表シテ爲シタル隱居ノ行爲ハ無効ナリ
- 民法第八百八十六條ノ規定ハ未成年者ノ財産ヲ保全セシムルヲ以テ目的ト爲シタルモノナレハ同條ノ所謂重要ナル動産ニ關スル權利ニハ金錢ノ取得ヲ目的トスル債權ヲモ包含セルモノトス
- 未成年者ノ特別代理人カ其權限内ニ於テ締結シタル契約ヲ履行シ公正證書ヲ作成スル如キハ未成年者ト親權者トノ利益相反スル行爲ニ非スシテ親權者カ當然爲スヘキ行爲ナリトス

(參照)

養子幼年ニシテ財産ヲ有スルトキハ養父養子ニ對シ其親權ヲ行ヒ其財産ヲ自己ノ財産ニ於ケル如ク處理シテ他人ノ干渉ヲ受ケサルコト實父ノ實子ニ於ケルト同一ナルヲ通例トス

三六	三七	四〇	四〇	四一
八二四	八二四	一〇三六	八〇六	一七〇六

實母ハ幼年ナル子ノ身體及ヒ財産ノ保護ヲ爲スヘキ權義ヲ有スルヲ以テ此等ノ事ニ關シ幼者ノ爲メ自ラ訴訟ヲ爲スコトヲ得

實父カ幼年者ノ利益保護ノ爲メ爲シタル財産上ノ處分行爲ハ其實父カ後見人タルト否トニ拘ハラズ幼年者ノ爲メニ效力ヲ有ス

父カ親權ヲ以テ其子ノ財産ヲ處理スル場合ハ普通後見人カ幼者ノ財産ヲ處分スルトキノ如ク親屬ノ連署ヲ要スルモノニ非ス

子カ未成年者ナルトキハ父ハ自然ノ後見人トシテ其監護ヲ爲スノ權利ヲ有シ義務ヲ負フモノナルニ依リ適當ト認ムル場合ニ於テハ親權ニ基キ他人ヲ其後見人ニ選定スルコトヲ得從テ其後見人ハ何時ニテモ之ヲ罷免シ自ラ監護ヲ爲スコトヲ得ルハ條理上當然ナリ

第三節 親權ノ喪失

- 親權ヲ行フ母カ一旦子ノ財産ノ管理ヲ辭シタル以上ハ後日其意思ヲ翻ヘシテ管理ヲ爲スカ如キハ民法第八百九十九條ノ精神ニ於テ許ササル所ナリトス
- 親權ヲ行フ母カ親族會ノ同意ヲ得スシテ未成年ノ子ニ代リ借財ヲ爲シ且不動産及ヒ重要ナル動産ノ一部分ヲ賣却スルモ必スシモ親權喪失ノ原因タル親權濫用ノ行爲ヲ爲セシモノト斷定スヘキモノニ非ス
- 戸主タル未成年者ノ親權者カ未成年者若クハ其代理人ノ承諾ヲ受ケスシテ妄リニ其財産ヲ家族以外ノ者ノ生活費又ハ養育費等ニ費消スルハ

二六	二九	二九	三二	三四	三六
五	五	二	三	七	一
二四	六九	八六	一〇	一	六二五

親權濫用ノ所爲ナルモ若シ其家族以外ノ者ノ爲メニ費消スルニ付キ正當ノ事由存在スルトキハ右費消ノ所爲アリタル一事ヲ以テ直ニ親權ノ濫用ナリト云フヲ得ス

○親權者カ未成年者ノ利益ヲ保護スル爲メ特ニ親族會ノ決議ニ反對ノ意見ヲ表示シ且其決議ニ關スル事項ノ處理ヲ他人ニ委任スルモ之ヲ以テ管理ノ失當ニ因リ未成年者ノ財産ヲ危クシタルモノト云フヲ得ス

第六章 後見

第一節 後見ノ開始

○未成年者ノ爲メ後見人ヲ置クヘキ規定アル場合ニ於テ未成年者ノ爲メ後見人ヲ置カサリシ事實ノミヲ以テ直チニ其未成年者ハ當然能力アリシモノト推定スルヲ得ス

○未成年者ノ父又ハ母カ禁治産者若クハ準禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フコトヲ得ス而シテ其未成年者ニ對シ他ニ親權ヲ行フ者ナキ場合ニハ後見ノ開始アルヘキモノトス

第二節 後見ノ機關

第一款 後見人

○家族タル幼者カ財産ヲ有スル場合ニ於テ特別ニ後見人ヲ設定セサル限リハ其家ノ戸主タルモノカ之ヲ管理スルハ係争地賣買當時(明治二十年)ニ於ケル一般ノ慣例ナリ

○民法施行前ニ於テ母カ親權ヲ行フヘキ場合ニ其母ノ承諾ヲ得シテ後見人ヲ選定シ相當ノ手續ニ從ヒ管轄役場ニ届出テ爾來後見人トシテ其職務ヲ執行シ來リタル以上ハ更ニ相當ノ手續ヲ經テ之ヲ取消ス迄ハ適法ノ後見人ト看做スヘキモノトス

○民法施行前ニ在テハ適式ノ後見人ナキ場合ニ於テ必要上後見ノ職務ヲ攝行スル者ハ丁年者タルヲ必要トセス丁年ニ近キ年齢ニシテ意思能力アル者ナレハ未成年者ト雖モ可ナリ

○母カ子ノ財産ノ管理ヲ辭シタル場合ニ於テ其母カ遲滞ナク親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求セサルトキハ他ノ親族ヨリ親族會招集ノ手續ヲ爲シ得ヘキモノトス

○親族會ニ於テ二人以上ノ後見人ヲ選定シタルハ不適法ナルモ其内ノ一名ノミ後見ヲ擔任シ其餘ノ者カ辭任シタルトキハ後見ヲ擔任シタル一名ハ改メテ親族會ノ選任ヲ受ケサルモ其者ニ正當ノ後見人タル資格ヲ生スルモノト爲ササルヘカラス

三七	二九〇
三七	二四八
三三	三九
三九	五三

三二	三五
三二	六
三一	七二
三四	一
三四	八
三四	三

メタルハ違法ノ裁判ナリ
 母タル者幼者ノ財産管理中虚偽ノ負債ヲ作シ幼者ヲシテ身代限ヲ爲サシメタル等ノ舉動アル
 ニ因リ更ニ後見人ヲ選定セシテ至當ト認メテ裁判シタルコト明カナレハ縱令實母ナルモ猥リ
 ニ親權ヲ主張シ後見人ノ選定ヲ非議スルコトヲ得ス
 父母ハ其子ノ後見人ヲ選定スルノ權アルヲ以テ母カ其女ノ後見人ヲ選定スルニ當リ親族ノ協
 議ヲ經サリシトテ直ニ之ヲ無効トスルヲ得ス而シテ後見人ハ他人ヲシテ平常ノ職務ヲ代理セ
 シムルコトヲ得

親族會議ノ決議ニ依リ選定セラレタル後見人ハ被後見人ノ實母ト雖モ相當ノ理由ナク之ヲ取
 消スヲ得ス

後見人ノ外ニ其監督者ヲ定ムルニ非スシテ同一ノ職務權限ヲ有スル數多ノ後見人ヲ設クルコ
 トハ慣習上之ヲ認メス

後見人ノ設定ハ親族ノ協議ヲ以テスルコト一般ナレトモ後見人解除ノ請求ハ必スシモ其協議
 ニ關與セシ親族一同ヨリ起訴セサルヘカラサル慣例及ヒ條理ナシ

後見罷黜ノ爲メ即チ一ノ資格ヲ失ハシメンカ爲メ爲ス所ノ訴訟ハ其己人タル資格ニ對シ爲
 スヘキモノナレハ幼者ノ代表者タル資格ニ於テ訴ヘラレルノ要ナシ

後見人ノ就職ニ付テハ特ニ法規ノ存スルモノナシ故ニ事實届出以前ニ就職スルモ其行爲ハ有
 效ナリ

後見人ノ罷黜竝ニ親族會員除斥ノ訴ヲ被後見人家ノ家長及ヒ親族ヨリ提起シタルハ訴訟手續
 上相當ナリ

多數ノ後見人ハ一般ノ慣習及ヒ判例ニ於テ之ヲ認メス故ニ二名ノ後見人ニ對シ終局判決ヲ言

二五	二五	二六	二六	二七	二八	二八	二九	三〇	三〇
五	五	二	四	四	五	五	六	五	五
二	二	三四	一八	五九〇	二四	一	六	二六	二六

渡シタルハ違法ナリ

第二款 後見監督人

○後見人カ被後見人ノ所有地ヲ以テ自己ノ所有地ナリト申立テ土地收用
 審査會ノ裁決ヲ受ケタル後ト雖モ更ニ被後見人ヲ代表シテ起業者ニ對
 シ所有權侵害工事排除ノ訴ヲ提起スルヲ得ヘク此訴訟行爲ヲ目シテ後
 見人ト被後見人ト利益相反スル行爲ト云フヘカラス

(參照)

後見監督人ノ設置ハ現行法ノ規定セサル所ナレトモ親族協議ノ上ハ之ヲ設置スルヲ得ヘシ故
 ニ其協議アリタル場合ニ尙ホ之カ設置ヲ否認セル判決ハ不法ナリ

第三節 後見ノ事務

○後見人カ被後見人ニ代リテ訴訟行爲ヲ爲スニハ民法第九百三十四條第
 二項同第九百二十九條ノ規定ニ從ヒ親族會ノ同意ヲ得サルヘカラス從
 テ民法實施前後見人カ被後見人ニ代リテ提起シタル訴訟ト雖モ民法實
 施後ハ親族會ノ同意ヲ得サルヘカラス

○民法施行前ニ在テハ後見人ナキ未成年者ノ財産處分ニ付キ親族若クハ
 故舊カ他ノ親族ノ承諾ヲ得テ後見人ノ爲スヘキ處分ヲ攝行スルモ無効
 ニ非ス

三一	三二	三三	三三	三三
四	四	三	二	一
七九	九四	七六	三三	七三

- 民法施行以前ニ於ケル禁治産者ノ管理人ハ被管理者ノ債務ノ辨濟ニ充當スル爲メ其財産ヲ處分スルノ權アリ
- 請求權ノ有無ハ起訴時ノ法則ニ依リテ定ムヘキモノナルカ故ニ民法施行以前ニ於テ未成年者ノ爲メニ起訴シタル親族ノ請求權ハ其訴訟ノ進行中ニ施行セラレタル民法ノ規定ニ依リテ消滅スヘキモノニ非ス
- 後見人カ被後見人ノ爲メニ訴訟ヲ爲スニ付キ親族會ノ同意ヲ得ルカ如キハ起訴ノ當初其授權ノ欠缺アリトスルモ該訴訟ノ繫屬中又ハ第二審ニ繫屬中ニ於テ親族會カ同意ヲ爲シ之ヲ追認スルトキハ遡リテ其當初ヨリノ訴訟行爲ヲ總テ有效ナラシムルモノトス
- 後見人カ何等ノ事情又ハ原因ナキニ拘ハラヌ未成年者ノ財産ヲ無償ニテ他人ニ讓渡スルハ不適法ニシテ明治十六年内務省番外達ハ斯ノ如キ行爲ヲモ親族ノ連署アレハ正當ト看做スヘシトノ規定ニ非ス
- 未成年者ニ對シテ法律上代理ノ資格ナキ者ハ未成年者ヲ代表シテ上告ヲ爲スノ權ナキモノトス
- 民法實施前ニ於テ後見人カ未成年者ノ財産ヲ買受クル法律行爲ヲ禁シタル法令アラサルヲ以テ其賣買ハ當然無効ナルニ非スシテ未成年者ヨリ之ヲ取消シ得ヘキ慣例ナリ

三	三	三	三	三
四	四	六	六	四
四	二	六	六	二
四	七	一五	三	二

- 後見人カ被後見人ニ代リテ約束手形ヲ振出ス場合ニハ民法ノ規定ニ依リ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
- 凡ソ訴訟ヲ爲スニ付キ親族會ノ同意ヲ要スヘキ親權者ハ第一審ニ起訴スル場合ニ其同意ヲ得ルヲ以テ足り各審級ニ付キ各別ニ同意ヲ得ルヲ要セサルモノトス
- 後見人カ親族會ノ同意ヲ得スシテ被後見人ノ爲メニ爲シタル訴訟行爲ハ當然無効ノモノニ非ス成年ニ達シタル被後見人又ハ親族會カ之ヲ追認スルトキハ授權ノ欠缺ハ補正セラレルモノトス
- 民法施行以前ニ於テ後見人カ幼者ノ親族ト協議シ其承諾ヲ得テ幼者ノ財産ヲ賣却シ其代金ヲ幼者ノ必要ナル費用ニ充ツルハ後見人ノ任務ニ屬スル有效ノ行爲ト認メタル所ナリ
- 後見人カ親族ノ同意ヲ得スシテ被後見人所有財産ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ贈與シタリトテ直ニ之ヲ無効ト云フヲ得ス
- 民法施行前ニ於テハ後見監督ニ關シ民法ニ於ケル如キ規定ナカリシヲ以テ適宜後見人ヲシテ其管理ノ狀況ヲ明白ナラシメ被後見人ノ利益ヲ保護スルコトハ其近親ノ義務ナリ
- 後見人ハ宛モ委任ニ因ル管理人ノ如ク請求ニ從ヒ其管理ノ計算ニ付キ

三	三	三	三	三
四	四	六	六	四
四	二	六	六	二
四	七	一五	三	二

報告ヲ爲スヘキ者ナルコトハ民法施行前ニ於テ一般ニ是認セラレタル條理ナリ

○民法施行前ニ在テハ後見人ノ職務ニ付キ一定ノ規則備ハラサリシカ故ニ後見人ノ承諾ヲ經タル以上未成年者ノ名ノ下ニ親族連署ニテ地所ヲ賣却スルモ其行爲ヲ目シ不適法ニシテ無効ナリト云フヲ得ス

○民法實施以前ト雖モ後見人カ被後見人ノ財産ヲ他人ニ贈與スルニ付キ親族ノ同意ヲ得タルトキハ其贈與ハ完全有效ナリトス而シテ既ニ親族ノ同意アル以上ハ被後見人ノ利益ヲ保護セサルモノト謂フヲ得サレハ被後見人ハ後日ニ至リテ其行爲ヲ取消スコトヲ得ス

○後見人ハ幼者ノ利益保護ノ爲メニ設クルモノナレハ民法施行以前ト雖モ隱居ノ如キ身分ニ關スル重要事項ハ幼者ニ代テ之ヲ爲ス權利ヲ有セス

○家族ノ入籍又ハ復籍ヲ請求シ若クハ之ヲ拒否スルカ如キハ戸主ノ權利ナルカ故ニ被後見人カ戸主ニ非サルトキハ其後見人ハ之ニ代リテ斯ノ如キ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

○民法第九百二十九條ハ公益上未成年者ヲ保護センカ爲メニ設ケラレタルモノナレハ後見人ノ爲シタル法律行爲ハ親族會ノ決議ニ因ル授權ニ

三六

二九一

三七

六五三

三七

二二四

三七

二五五

三七

二五五

相伴テ成立セシムルノ旨趣ニシテ固ヨリ後見人ノミ爲シタル法律行爲カ該授權ヲ離レ獨立シテ適法ニ成立シ得ヘキ法意ニ非ス

○後見人カ民法第十二條第一項ノ行爲ヲ爲スニ當リ親族會ノ同意ヲ經サルトキハ其行爲ハ取消シ得ヘキモノニシテ未タ完全ノ效力ヲ生セスト雖モ爾後親族會ノ同意ヲ得テ之ヲ追完スルコトヲ妨ケサルモノトス

○民法施行以前ニ於テハ後見人カ幼者ノ家計上必要ノ爲メ其財産ヲ處分スルニハ親族ノ同意ヲ要スル外別ニ制限ノ規定ナシ從テ實父カ幼者ノ爲メニ其不動産ヲ賣却シ後見人之ヲ承認シタル以上ハ其處分行爲ハ有效ナリトス

○後見人カ被後見人ニ代リテ約束手形ヲ振出スニ方リ親族會ノ同意ヲ經サルトキハ被後見人、其代理人又ハ承繼人ニ於テ之ヲ取消シ得ルモノトス

○民法第九百二十九條ハ後見人カ被後見人ニ代リテ同第十二條第一項ノ行爲ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ要スル規定ニシテ其行爲ヲ爲ササルコトニモ亦同意ヲ要スルノ旨趣ニ非ス

(參照)

後見人ノ爲シタル抵當附貸借ニシテ親屬ノ連署ナキモノハ其抵當權設定ノ無効ナルコト勿論

三六

七四八

三六

二〇一

三九

六〇九

三九

七五八

四〇

三六八

ナルモ其貸借ニシテ幼者ノ利益タルモノノ如キハ爲メニ其貸借契約ヲ無効ト爲スヘキモノニ非ス

新民法ノ未タ實施セサル今日ニ在テハ尙モ相當ノ手續ヲ經テ後見人ヲ設立シタル以上ハ被後見人ニ於テ其丁年以上ナルト否トニ拘ハラズ財産上獨立シテ權利行爲ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス

親族會ニ於テ選定サレタル後見人カ幼者ヲ保護スルニ當リ妨害ヲ受クルコトアレハ妨害者ニ對シ妨害ヲ除去スルカ爲メ起訴シ得ルハ論ヲ竣タス其資格ニ付キ争ヒナケレハ裁判所ニ於テ職權ヲ以テ之ヲ調査スヘキモノニ非サレハ其資格ニ對シ不服ヲ唱フルコトヲ得ス

後見人カ幼者ノ家政整理上親族ノ協議ニ據リ其不動産ヲ賣却シ若クハ抵當ニ爲ス如キ已ムヲ得サル場合ニ於テ正當ナル行爲ニ出テタルコトヲ示スニハ後見人ニ於テ之カ確證ヲ舉クヘキ責任アリ

後見制度ニ關スル法律未タ實施セラレサルニ由リ後見人カ被後見人ノ財産中ノ或一部ヲ管理セル者ト認ムルモ不法ニ非ス

後見人ハ幼者ノ爲メニ貸借ヲ爲スノ權ヲ有ス

後見人カ幼者ノ爲メ爲シタル貸借カ幼者ノ爲メ必要ナルヤ否ハ幼者ト後見人トノ間ニ於テ其責任ノ如何ヲ判定スルノ根據タルコトヲ得

後見人ハ常ニ被後見人ノ利益ヲ保護スヘキ權利義務ヲ有スルモノナレハ被後見人ニシテ利益ヲ蒙ルヘキ場合ニ於テハ其後見人ヨリ訴訟ヲ提起スルヲ當然トス

後見人カ被後見人ノ不利益ヲ顧ミズ其任務ヲ盡サザルトキ親族ハ其親族權ニ因リ後見ノ解除ヲ求メ得ヘキモ後見人ヲ差押キ被後見人ノ爲メ訴訟ヲ爲スコトヲ得ス

後見人カ被後見人ノ名義ニテ金圓ノ借入ヲ爲ス行爲ハ他ニ特別ノ理由ナキ限りハ當然無効ノモノニ非ス

後見人カ他人ノ爲メニ被後見人ノ財産ヲ擔保ニ供スル行爲ハ無効ナリ

幼者ノ親族ハ其幼者ニ自然ノ後見人アル場合ニ之ヲ差押キ幼者ノ爲メ自ラ訴訟ヲ提起スル權能ナシ

後見人ハ被後見人ノ財産管理ニ關シ獨立シタル固有ノ權利ヲ有ス

第四節 後見ノ終了

(刑)

○被後見人ノ成年ニ達スルヤ當然完全ノ能力ヲ有スヘキモノナルヲ以テ後見人ノ任務ハ之ト同時ニ消滅ニ歸スヘキハ當然ナリ

(參照)

未成年者ノ後見ハ未成年者カ成年ニ達スルト同時ニ終了シ後見人ハ其資格ナク隨テ被後見者ヲ代表スル所ノ訴訟能力ヲ有セザルコト論ヲ竣タス

二五	二五	二六	二六	二六	二六	二五	二五
三	五	二	二	二	二	六	五
二〇八	八	八	八	二六	五〇四	一〇〇	一〇〇

二九	三〇	三〇	三〇	三〇	二七	三	三
三	二	九	九	三	四	三	三
二〇八	二二	二二	二二	二二	三九	二	二

未丁年者ノ後見ハ其丁年ニ達スルト同時ニ當然終了シ從テ丁年者自ラ諸般ノ權利行為ヲ爲シ得ヘキハ普通ノ法則トス左レハ既ニ丁年ニ達セシ後仍ホ之ヲ後見ニ付セントセハ必ス瘋癲白痴若クハ浪費者ノ如キ特別保護ヲ要スル正當ノ理由ナカルヘカラス

第七章 親族會

- 裁判所ノ招集ニ依リ一旦親族會ヲ開キタル以上其後ノ開會ニ付テハ更ニ裁判所ノ招集ヲ要スヘキモノニ非ス
- 親族會員ハ親族會ノ議事ニ付キ直接ニ自己ニ利害關係アルニ非サレハ表決權ヲ喪フコトナシ
- 親族會員中無資格者アルヲ理由トシ其選任ニ對シテ抗告ヲ爲シタル場合ニ於テハ縱令親族會ノ解散シタル後ト雖モ之ヲ取調ヘ果シテ其事實アルニ於テハ該選定ノ決定ヲ廢棄スヘキモノトス
- 會員中資格ナキ者ヲ以テ組織シタル親族會ノ決議ハ違法ノモノタリ
- 民法第八十八條第一項ノ旨趣ハ未成年ノ子ト親權者ト利益相反スル場合ニ於テ特別代理人ノ選任ヲ親族會ニ請求スヘキ義務ヲ親權者ニ負ハシメタルニ過キスシテ同法第九百四十四條及ヒ第九百四十九條ニ依リ付與セラレタル親族等ノ權能ハ之カ爲メニ制限セラレタルモノニ非ス

三	三	三	三	三
一	二	八	六	六
八〇	二四	二四	六	二

○ 親族會員ハ親族其他本人又ハ其家ニ緣故アル者ノ中ヨリ裁判所ノ適當ト思料シタル者ヲ自由ニ選定ス

○ 民法第九百四十八條第二項ノ通知ヲ欠キタルトキハ之ヲ原因トシテ同法第九百五十一條ニ依リ不服ノ訴ヲ提起シ得ヘキモノ之ヲ提起スルニ付キテハ必ス同條一ヶ月ノ期間内ニ於テセサルヘカラス

○ 親族會カ不法ノ決議ニ依リ家督相續人ヲ定メタルトキハ之ニ對シ自ラ相續權アルコトヲ主張セサル親族ハ右親族會ノ決議ニ對シ其不服ヲ裁判所ニ訴フヘキモノニシテ直ニ家督相續人ニ係リ其相續ノ取消ヲ請求スヘキモノニ非ス

○ 母カ子ノ財産ノ管理ヲ辭シタル場合ニ於テ其母カ遲滞ナク親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求セサルトキハ他ノ親族ヨリ親族會招集ノ手續ヲ爲シ得ヘキモノトス

○ 苟モ親族會ノ無効ヲ認メテ裁判シタル以上ハ其無効カ全然無資格ナル者ヲ選任シタルカ爲メナルト否トニ論ナク親族會ノ始メヨリ無効ナルコトハ同一ニシテ彼此區別アルヘキモノニ非ス

○ 相續人選定ノ爲メノ親族會ト相續人タル未成年者ノ爲メノ親族會トハ各特別ノモノニシテ相續人選定ノ親族會ノ決議ニ對スル訴訟ハ其親族

三	三	三	三	三
三	五	五	七	七
一	七	一	一	一
一	七	一	一	一

會員ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノニシテ未成年者ノ爲メノ親族會員ニ向テ之ヲ爲スヘキモノニ非ス

○民法第九百五十一條ハ親族會ノ決議ニ對シ同條記載ノ人ニ限り親族會員ヲ相手方トシテ訴訟ヲ提起シ其不當ヲ主張シ得ル旨ヲ規定シタルモノト解釋スヘキモノトス

○親族會員三名アル場合ニ於テ其會員中ノ一名闕席セルトキト雖モ會員ノ過半數(即チ二名)ノ一致ヲ得ルトキハ其決議ノ有效ナルコト勿論ナレトモ議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得サル者カ其數ニ加ハリタルトキハ該決議ノ全部無効ニ歸スルモノトス

○法定ノ推定家督相續人ハ相續人ヲ選定シタル親族會ノ決議ニ對シテ不服ノ訴ヲ提起セサリシカ爲メニ其決議確定スルモ之カ爲メニ其推定家督相續人タル身分ニ變動ヲ來スヘキモノニ非ス

○民法第九百四十八條第二項ノ規定ニ違背シ招集ノ通知ナクシテ爲シタル親族會ノ決議ハ不合法ナルコト勿論ナレハ通知ヲ受クヘキ權利アリテ之ヲ受ケサリシ者ハ特別ノ事由アルコトヲ要セスシテ其決議ニ對シ不服ヲ訴フルコトヲ得ヘキハ當然ナリ

○三名ノ親族會員中其一名ニ對シ親族會招集ノ通知ヲ爲サスシテ他ノ二

三五九一

三五九二七

三五九二七

三五九二六

三五九二六

名ノミニテ開キタル親族會ノ爲シタル決議ハ無効ナリ

○親族會ノ無効ノ決議ニ對シテハ民法第九百五十一條ニ依リ決議無効ノ判決ヲ求ムルコトヲ得ヘキモ之カ取消ノ判決ヲ求ムルコトヲ得ス

○親族會ノ決議ヲ取消ヲ求ムル訴ニ於テハ其決議ヲ取消スノ權能ヲ有スル者即チ親族會員全體ヲ以テ對手人ト爲スヘキモノニシテ單ニ取消請求者ト反對ノ意見ヲ有スル者ノミヲ對手人ト爲シ得ヘキモノニ非ス然レトモ或事情ニ因リ後日會員ノ資格ヲ喪失シタルモノアルカ又ハ會員ノ一部ヨリ他ノ會員ニ對シ右ノ訴ヲ提起スル場合ニ於テハ其資格喪失者若クハ自己ヲ以テ對手人ト爲スノ要ナシ

○親族會ノ決議ハ縱令法令ノ規定ニ違背スルモ當然無効ナルモノニ非スシテ之ヲ無効トスルニハ必スヤ裁判所ノ宣言アルコトヲ要ス故ニ其決議無効ノ確認ヲ求ムル訴ハ不合法ナリ

○親族會ハ無能力者ノ爲メニ設ケタル者ヲ除ク外其招集ノ目的タル事項ヲ決議スルトキハ縱令異日裁判ニ因リテ決議無効ノ宣言ヲ受クルコトアルモ其決議ヲ爲シタル時ヲ以テ自ラ解散スヘキモノトス

(同條三)

親族會ハ無能力者ノ爲メニ設ケラレタルモノヲ除ク外其目的ト爲シタル事項チ一旦議決シタ

三六八三

三六八三

三七二五二

三七二五二

三七二五二

ル場合ニ於テハ縱令其決議ハ異日裁判上取消サレ若クハ無効ノ宣告ヲ受ケルコトアルモ其決議ヲ爲シタル時ヲ以テ當然解散セラレヘキモノトス

○親族會ノ決議ニ對シテハ民法第九百五十一條ノ規定ニ從フニ非サレハ不服ヲ訴フルコトヲ得ス

○民法第九百五十一條ニ所謂親族會ノ決議ハ實質上無効ナルモノト取消シ得ヘキモノトヲ分タス苟モ親族會ノ爲シタル決議ハ總テ之ヲ包含セルモノトス

○裁判所ニ於テ親族會ノ決議無効ノ裁判ヲ爲シタルトキハ其決議ノ元來無効ナルコトヲ確定スル效力ヲ生スルニ止マリ創設的ニ之ヲ無効ナラシムルモノニ非ス

○親族會ノ決議ヲ無効トスル訴ニ於テハ其取消ヲ求ムル訴ニ於ケルト同シク特別ノ事由存セサル以上ハ親族會員全部ヲ對手人ト爲スヘキモノニシテ其決議ニ於テ過半数ヲ占メタル意見ヲ有スル者ノミヲ對手人ト爲シ得ヘキモノニ非ス

○不法ナル親族會ノ決議ノ取消ハ善意ノ第三者ニ對シテ其效力ヲ及ボサストノ規定アラサルニ因リ一旦決議ヲ取消シタル以上ハ其決議取消ノ判決アリタル前後ヲ問ハス又第三者ニ對スルト否トヲ論セス絶對ニ取

三六

二三五

三七

二四七

三七

二四七

三六

三

三六

四七

消ノ效力アルモノトス

○幼者保護ノ爲メニ開催シタル親族會ニ於テ其會員タル者幼者ノ利害ヲ顧ミサルカ又ハ不利益ヲ來スヘキ行爲ヲ敢テスルカ如キハ親族會員ノ職責ニ違背シタルモノトス而シテ其行爲ハ議題ニ賛同スル方法ヲ以テ之ヲ爲スト自ラ進ンテ行フト將タ法定代理人ト共謀シテ爲ストハ之ヲ問フノ要ナシ

○親族會員選任ノ後民法第九百八條第八號ノ事由ヲ生シタル場合ニ於テハ同法第九百四十四條ニ掲ケラレタル者ハ訴ヲ以テ救済ヲ求ムルコトヲ得

○被相續人カ遺言證書ヲ以テ家督相續人ヲ指定シタルモ檢認ノ結果其遺言無効ニ歸スルトキハ指定ヲ受ケタル者カ既ニ家督相續ノ登記ヲ爲シタルト否トヲ論セス被相續人ノ親族ハ家督相續人選定ノ爲メ親族會ノ招集ヲ請求スル權利アリ

○民法第九百四十五條第一項ハ親族會員ノ最小數ヲ指示シタルモノニシテ親族會ヲ開クヘキ定足數ヲ規定シタルモノニ非ス

○親族會ヲ開クヘキ定足數ニ付テハ民法中別ニ規定セル所ナシ從テ會員ノ過半数出席スルトキハ之ヲ開クコトヲ得ルモノトス

三六

八六

三六

八六

三六

八六

三六

一七五

三六

四五七

三六

四五七

(同前)

民法第九百四十七條第一項ハ親族會ノ議事ハ會員全體出席ノ上過半數ヲ以テ決スヘキ旨ヲ規定シタルニ非スシテ缺席者ノ有無ヲ問ハス會員全體ノ過半數ヲ以テ議決スヘキコトヲ規定シタルモノナリ

○家督相續人選定ノ親族會決議ニ對シテ不服ヲ申立ツル場合ニハ其選定家督相續人ハ缺格者ナルカ或ハ被相續人ノ請求ニ因リテ廢除セラレタル前推定家督相續人ナル事實ヲ以テ不服ノ理由ト爲シ又ハ民法第九百八十五條ニ違背セル事實ヲ以テ其理由トスルカ如ク必スヤ法律上ノ基本アルコトヲ要ス

○親族會員ノ家族又ハ子ヲ他人ノ相續人ト爲スヘキヤ否ヤヲ議スルハ其家族又ハ子ノ利害ニ關スル議事ナレトモ之ヲ以テ直ニ戶主若クハ親權者タル會員其人ノ利害ニ關スル議事ナリト云フヲ得ス

○親族會ノ決議カ法定ノ期間經過ノ爲メ形式上確定シタル場合ト雖モ其内容ニシテ本來無効ナル以上ハ該決議ハ實質上ノ效力ヲ生スルコトナシ

(參照)

親族會ハ事情ノ許ス限り親族一同協議シテ幼者ノ利益ヲ計ルヘキハ當然ノコトナリト雖モ必スシモ親族ノ總員集會協議スルヲ要スルモノニ非ス又親族間ニ多少ノ不折合ノ事情アリテモ

三七

五

三九

一六四

四〇

一〇四六

四〇

二四四

其多分カ協議議決スレハ其議決ハ正常ノモノナリト謂ハサルヲ得ス

甲者カ親族會議ニ列スルコトヲ得ル場合ニ在ルモ甲者自己ノ懈怠ニ因リ其會議ニ出席セザリシモノト裁判所カ認定シ其會議ヲ正當ノ議ナリト判決シタルニ對シ甲者ハ之ヲ不法ノ裁判ナリト云フヲ得ス

親族會議ノ法規ナキ今日ニ在テハ他人カ該會議ニ列席シタルハトテ之ヲ無効ノ會議ト云フヲ得ス

親族會ハ成法上其組織ヲ認メタルモノナキモ現ニ其會員中ニ非行者アリテ之ヲ除外セザルヘカラサル場合ニ於テハ裁判所ニ出訴シテ其保護ヲ求ムルヲ得ヘキモノトス

後見人ノ罷黜並ニ親族會員除斥ノ訴ヲ被後見人家ノ家長及ヒ親族ヨリ提起シタルハ訴訟手續上相當ナリ

幼者ノ母ハ其幼者ノ利害ニ關スル親族會議ニハ當然參加スヘキモノナレハ特殊ノ事情ナクシテ之ヲ參加セシメサルトキハ其親族會議ノ決議ハ無効ナリ

親族協議ニ列席スヘキ人ノ續柄ノ遠近ニ付テハ法律上一定ノ規定ナシ故ニ近親ニ非サル者カ親族協議ニ列席シタル一事ヲ以テ一概ニ之ヲ無効ナリト云フヲ得ス

最近親族數名存在スル場合其多數ニ充タサル親族ノ協議ハ親族會ノ決議ト爲スコトヲ得ス

第八章 扶養ノ義務

○扶養ノ目的ハ生活ニ必要ナル需用ヲ自給スルコト能ハサル状態ニ在ル者ヲシテ其生活ノ資料ヲ得セシムルニ在ルヲ以テ此意義ニ適セサル請

二六	二	三三〇
二七	二	三三〇
三〇	六	五三
三〇	六	五三
三〇	九	一
三〇	二	三〇
三〇	三	三〇
三〇	三	三〇

求ハ扶養ノ請求トシテ之ヲ爲スモ固ヨリ是認スヘキ限ニ在ラス
 ○民法ノ扶養ニ關スル規定ハ公益上ノ必要ヲ限度トシテ親族間相互ノ扶養義務ヲ定メタルモノナレハ當事者ノ任意ヲ以テ定メタル扶養ノ權利關係ニ之ヲ適用スヘキモノニ非ス

○過去ニ於ケル養料ハ絶對的ニ請求シ得ヘカラサルモノニ非ス苟モ養料權利者ニ於テ扶養ヲ受ケサルヘカラサルノ状態ニ在ルコトヲ義務者ニ通知シ其義務ノ履行ヲ求メタルモ義務者カ其支拂ヲ遲滯シタル場合ニハ權利者ハ其相手方ノ遲滯ニ付セラレタル以後ノ養料ヲ請求シ得ルモノトス

(參照)

既ニ私生子タルコトヲ認メシ事實ノ存スル以上ハ公式ノ手續ヲ爲ササルモ其子ヲ養育スルノ義務ヲ免ルルコト能ハス
 妻妾ニ非サル婦女ノ分娩シタル子ヲ男子カ己レノ子ナリト認メタルトキハ養育料ヲ支給スル義務アリ
 養育料ノ請求ヲ爲ス者ハ必スシモ先ツ別居生活ヲ裁判所ニ請求セサルヘカラサルモノニ非ス又之ヲ受クヘキ至當ノ理由アルトキハ戶主ノ家ニ同居セサルモ之ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

第五編 相續

第一章 家督相續

第一節 總則

○民法第九百六十六條ニ於テ法定代理人カ家督相續回復ノ請求權ヲ行フトアル以上自己ノ權利ニ因リテ之ヲ行フニ非スシテ無能力者ヲ代表シテ之ヲ行フノ意義ニ解釋スルヲ以テ普通ノ意義ニ適スルモノトス
 ○民法施行以前ニ在テ所謂仲繼相續ハ實親子ノ相續ト同シク養嗣子カ家督ヲ相續シタル後死亡シ又ハ老年ニ至リ隱居スルニ及ヒテ先代ノ實子若クハ嫡孫カ養嗣子ニ繼テ其家督ヲ相續スルモノニシテ是レ則チ古來一般ノ習慣ナリトス

○子カ父ト共ニ分家ヲ爲シタル場合ニ於テ其手續ニ違法ノ點アルカ爲メ子ニ對シ分家ノ效ヲ生セサルトキハ戶籍簿上之ヲ取消スト否トヲ問ハス父カ親權者トシテ權利ヲ行使シタリトスルモ其所爲ハ子ノ權利ニ對シテ效力ヲ及ホスヘキモノニ非ス故ニ父ニ於テ其子ニ對スル相續權侵害ノ事實ヲ知ルモノノ相續回復請求ニ何等ノ影響アルコトナシ

○自己ニ家督相續權アルコトヲ主張シ他人ノ不法相續ヲ排除セントスルニハ必スヤ家督相續回復ノ訴ニ依ルヘキモノニシテ之ヲ請求スル權利

三	三	三	三	三
四	四	四	四	四
五	五	五	五	五
六	六	六	六	六
七	七	七	七	七
八	八	八	八	八
九	九	九	九	九
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一一	一一	一一	一一	一一
一二	一二	一二	一二	一二
一三	一三	一三	一三	一三
一四	一四	一四	一四	一四
一五	一五	一五	一五	一五
一六	一六	一六	一六	一六
一七	一七	一七	一七	一七
一八	一八	一八	一八	一八
一九	一九	一九	一九	一九
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
二一	二一	二一	二一	二一
二二	二二	二二	二二	二二
二三	二三	二三	二三	二三
二四	二四	二四	二四	二四
二五	二五	二五	二五	二五
二六	二六	二六	二六	二六
二七	二七	二七	二七	二七
二八	二八	二八	二八	二八
二九	二九	二九	二九	二九
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
三一	三一	三一	三一	三一
三二	三二	三二	三二	三二
三三	三三	三三	三三	三三
三四	三四	三四	三四	三四
三五	三五	三五	三五	三五
三六	三六	三六	三六	三六
三七	三七	三七	三七	三七
三八	三八	三八	三八	三八
三九	三九	三九	三九	三九
四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
四一	四一	四一	四一	四一
四二	四二	四二	四二	四二
四三	四三	四三	四三	四三
四四	四四	四四	四四	四四
四五	四五	四五	四五	四五
四六	四六	四六	四六	四六
四七	四七	四七	四七	四七
四八	四八	四八	四八	四八
四九	四九	四九	四九	四九
五〇	五〇	五〇	五〇	五〇

ハ家督相續人ニ專屬スルモノトス
○家督相續回復請求ノ前提トシテ相續無効ノ確認ヲ請求スルハ法律ノ許
ササル所ナリ

(參照)

刑法第百十四條同第百十五條ハ單ニ親族ノ範圍ヲ定メタルモノナレハ相族權ノ如キ民法上ニ
於ケル身分ノ資格ヲ證スル場合ニ適用スヘキモノニ非ス
相續ニ關シ親戚等方協議ヲ爲スノ慣習又ハ相續届書ニ連署スヘキ法則ハ相續ニ付テノ要件ニ
非ス故ニ此慣習又ハ法則ニ背戾スルモ既ニ爲シタル相續ヲ取消スニ足ルヘキ瑕疵トナラス
名義上ノ相續人即チ仲次相續人ナルモノハ嫡子ノ存在スルニ拘ハラズ便宜上之ヲ設ケルヲ得
ヘキコトハ我邦慣習ノ認ムル所ナリ
遺言ニ依リ相續人ノ選定ヲ他人ニ委任スルハ一般ニ無効ナリト云フヲ得ス
女戸主カ養子ヲ爲シタルトキト雖モ直ニ其養子ニ相續ヲ讓ラサルヘカラサルノ慣例ナシ
明治六年第二十八號及ヒ同年第二百六十三號布告ハ華土族ノ家督相續ニ關スルモノナルニ依
リ平民ノ家督相續ニ適用スルコトヲ得ス
戸主退隱シ新戸主之ニ代リタル場合ニ於テ戸籍取扱官吏カ戸籍簿中前代戸主ノ名稱身分年齢
ヲ抹消シ其傍ニ更ニ後代戸主ノ名稱身分年齢等ヲ挿入スルハ各地方一般ノ慣例ニ非ス故ニ之
ヲ是認セル判決ハ不法ナリ

第二節 家督相續人

○民法實施前ノ法則ニ於テハ養嗣子ニ非サル養子カ養親ノ家督相續ヲ爲

三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
六	九	八	七	五	四	八	八	八	八
一〇三	七	三	九	三	七	八	八	八	八

スヘキヤ否ハ養親ノ意思如何ニ因リテ定マルヘキ事實上ノ問題ナリ
○廢嫡ヲ爲スニハ被廢嫡者ノ承諾ヲ要スヘキモノニ非ス
○法定又ハ指定ノ家督相續人ナキ場合ニ於テハ被相續人ノ父母又ハ親族
會ハ民法第九百八十二條規定ノ順序ニ從ヒ家族中ヨリ家督相續人ヲ選
定スヘク若シ其家族中ノ者ニシテ相續人ト爲ルコトヲ欲セス豫メ相續
人ニ選定セラルルコトヲ辭スル者アルトキト雖モ右規定ノ順序ヲ
變更シ又ハ全ク選定ヲ爲ササラントスルトキハ必ス先ツ裁判所ノ許可
ヲ得サルヘカラス

三	三
一	九
三	六

○民法施行前ニ於テ推定家督相續人アルニ關セス親族協議上ノ出願ニ因
リ常該官吏カ他人ヲ以テ相續セシムルコトヲ許可シタルトキハ家督相
續回復ノ訴ヲ提起スルヲ得サルモノトス
○民法施行前ニ於テモ廢嫡手續ヲ了セスシテ分家シタルトキ分家者ハ當
然家督相續權ヲ喪失スルモノト云フヲ得ス
○法定ノ家督相續人カ家督相續開始前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル
場合ニ於テ其者ニ直系卑屬アルトキハ其直系卑屬ハ法定ノ順序ニ從ヒ
其者ト同順位ニテ家督相續人トナルコトハ嫡孫承祖ト稱シ古來ヨリ行
ハレタル習慣ニシテ現行民法モ此習慣ヲ認メ其第九百七十四條ニ於テ

三	三
四	二七
三	二〇
五	五
三	二
一	一

明カニ之ヲ規定セリ

○法定ノ推定家督相続人ヲ分家セシムルニハ先ツ廢嫡ノ手續ヲ爲スカ又ハ遅クトモ分家ト同時ニ其手續ヲ爲ササルヘカラス

○廢嫡ノ手續ヲ了シタルヤ否ヤハ單ニ分家シタリトノ事實ノミニ依リ之ヲ推定スルヲ得ス

○戸主ノ兄弟若クハ姉妹ハ戸主ニ直系卑屬ナキ場合ト雖モ當然其相続人タル權利ヲ有スル者ニ非スシテ其親族ノ協議ニ因リテ相続人ト爲ルヲ得ルコトハ民法施行前ニ於ケル我國一般ノ慣例ニシテ此慣例ハ當時法律トシテ行ハルヘキモノナリ

○從來家督相続人タルヘキ者幼少ナル場合ニハ一家維持ノ必要上ヨリシテ親族協議ノ上相當ノ丁年者ヲ選ミ其筋ノ許可ヲ得テ家督相続人タラシムルハ士族平民ノ間ニ行ハレタリシ慣習ニシテ此場合ニハ相続ハ被相続人ノ死亡ト同時ニ開始スルモ其相続人ハ親族協議後マテ確定セス隨テ幼者ハ其遺産ノ所有權ヲ取得シ能ハサリシモノト看做ササルヘカラス

○法定ノ推定家督相続人ノ相續權ハ民法第九百六十九條、第九百七十五條等ノ規定ニ於ケル場合ノ外ハ失却スヘキモノニ非ス又同第七百四十

三五 四 一四九

三五 四 一四九

三五 四 一四九

三五 六 二七

三五 六 一五〇

四條、第一千二十條等ノ規定ニ於ケルカ如ク自己モ亦之ヲ辭シ若クハ拋棄スルコトヲ得サルモノトス

○民法施行前ニ於テ推定家督相続人カ子女ヲ遺シテ死亡シタルトキハ其子女ハ嫡孫承祖ノ慣習法ニ從ヒ直ニ祖父母ノ推定家督相続人タル資格ヲ有セシカ故ニ嫡孫ヲ排シ他人ヲ以テ相續セシムルニハ廢嫡ノ手續ヲ要セシト雖モ祖母カ子ノ死跡相續ヲ爲シタルトキハ所謂嫡孫承祖ノ法則ヲ適用スヘキ場合ニ非サレハ縱令嫡孫アルモ養子ヲシテ相續セシムルヲ得ルモノトス

○嫡子相續又ハ嫡孫承祖ノ相續ハ我邦古來普通ノ慣例ナリト雖モ明治五年戶籍法改正施行以前ニ在リテハ士族以上ハ格別平民ニ至テハ一家維持上其他ノ事由ニ因リ嫡子又ハ嫡孫ヲ差措キ他ノ卑族親等ヲ以テ家督相續人ト爲シ又ハ家督相續ヲ爲サシムルカ如キハ一ニ被相續人ノ自由ニ在リテ親族ノ協議若クハ官廳ノ許可ヲ必要トスルカ如キ法度又ハ慣行アルコトナシ

○法定又ハ指定ノ家督相続人ナキカ爲メ適法ニ招集セラレタル親族會カ民法第九百八十二條ノ規定ニ則リ既ニ家督相続人ヲ選定シタル以上ハ縱令其決議上相續順序ノ變更ニ關シテ遵守スヘキ同法第九百八十三條

三五 九 一六八

三六 三

三六 二七三

ノ規定ニ違背セシ點アリトスルモ該決議ニ對スル不服ノ訴ヲ提起シ之
カ取消ノ裁判ヲ受ケサル限りハ其選定ヲ當然無効ト爲スヲ得ス

三

三九二

○明治以前ノ制度ニ於テモ嫡孫承祖ノ法則存在セサリシニ非スト雖モ戸
主ニ數人ノ子アリテ長子カ相當ノ手續ヲ經テ廢嫡セラレ二三男カ家督
相續人ト爲リタル場合ニ於テハ其廢嫡セラレタル長子ノ子カ當然新戸
主ノ家督相續人ト爲ルカ如キ慣習法存在シタルコトナシ

三

四六八

○民法施行前ニ在リテハ養嗣子ト養子ト並存スル場合ニ於テ養親ノ相續
權ハ養子縁組ノ先後ヲ問ハスシテ養嗣子之ヲ有シタルモノトス

三

六九五

○民法施行前ニ於テ養親カ相續權ヲ付與セサル意思ヲ以テ爲シタル養子
縁組ト雖モ其養子ハ民法施行後ニ於テハ同法ノ規定ニ從ヒ相續權ヲ有
スルコトヲ得ヘシ

三

六九五

○民法施行前ニ於テ被相續人タルヘキ者カ推定家督相續人タル嫡子又ハ
嫡孫ノ廢嫡ヲ出願シタル場合ニ當該官廳カ之ヲ聞届ケ爾後該出願者ノ
相續人トナリタル者アルトキハ被廢嫡者ハ其相續人ニ對シテ家督相續
回復ノ請求ヲ爲シ得サルモノトス

三

一〇八八

○民法施行前ニ於テ嫡子及ヒ嫡孫ノ廢嫡ヲ爲ス正當ノ事由アリトスル場
合ニハ被相續人タルヘキ者ハ同時ニ其廢嫡ヲ出願シ得タルモノトス

三

一〇八八

○分家ト廢嫡トハ法律上其關係ヲ異ニスト雖モ民法實施前ニ於テハ廢嫡
ノ事由ヲ限定シタル法則ナキノミナラス嫡子ヲ廢嫡スル事由ノ存スル
場合ニ嫡子カ嫡孫ト共ニ分家セント欲スル情願ヲ以テ嫡孫ヲ嫡子ト共
ニ廢嫡スル正當ノ事由ト認ムルモ敢テ當時ノ法則ニ違背シタルモノト
云フヲ得ス

三

一〇八八

○民法第九百八十五條第一項ニ該當スル場合ニ於テハ親族會ハ父系母系
ヲ論セス同條項ニ明記セラレタル者ノ中ニ就テ相續人ヲ選定シ得ヘキ
モノトス

三

二三五

○民法第九百八十五條第一項ニ該當スル場合ニ於ケル相續人選定ノ親族
會ノ決議ハ同規定及ヒ民法第九百四十七條ニ背戾セサル限りハ縱令其
選定ヲ適當ナラストスルモ之ヲ以テ該決議ニ對シ不服ヲ唱フルノ理由
ト爲スヲ得ス

三

二三五

○親族會カ民法第九百八十五條ノ規定ニ依リ家督相續人ヲ選定スヘキ場
合ニ於テハ同條ニ掲ケタル者ノ中ヨリ其適當ナリト思惟スル者ヲ以テ
相續人ニ選定スルノ專權ヲ有ス從テ其選定シタル家督相續人ノ適當ナ
ルヤ否ヤノ事實ニ付テハ裁判所ノ干涉スヘキ限ニ在ラス

三

五

○民法實施以前推定家督相續人ナキ被相續人カ豫メ家督相續人ヲ指定シ

テ戸籍ニ登記シタル場合ニ於テハ其相續人ハ縱令養嗣子ノ名稱ナキモ法律上養嗣子ト同一ノ取扱ヲ受ケ被相續人ノ死亡又ハ隱居ノ時ニ際シ家督ヲ相續スルノ權利ヲ有ス從テ爾後被相續人カ更ニ他人ヲ養子ト爲スモ之カ爲メニ其相續權ヲ奪ハルルコトナシ

三七

四三

○民法實施以前ニ在リテハ先代死亡後親族協議ノ上將來幼年ノ女戸主ト結婚セシムルノ目的ヲ以テ男子ヲ迎ヘタルトキハ其縁女タルヘキ女戸主ハ直ニ戸主ノ地位ヲ退キ養子代リテ其家督ヲ相續スヘク而シテ一旦相續ヲ爲シ戸主ノ地位ヲ取得シタル以上ハ縱令其後ニ至リ縁女ト離婚スルモ之カ爲メニ其戸主權ヲ喪失スルコトナシ

三七

四六

○如上ノ場合ニ於テ婿養子カ縁女ト離婚セシ後ト雖モ縁女ハ依然タル一家族ニ過キササルヲ以テ其戸主ノ許諾ヲ經ル以上ハ任意分家ヲ爲シ得ルモノトス

三七

四六

○民法實施以前ニ於テ當該官吏カ當時ノ法規ニ遵ヒ審査ヲ遂ケ相當ト認メタル上廢嫡願ヲ許可シタルトキハ其廢嫡ハ確定ノ效力ヲ生シ法規ノ許ス場合ニ在ラサレハ後日ニ至リテ之ヲ變改シ得サルモノトス

三七

五三

○民法第九百七十七條ハ相續人ヲ廢除シタル原因カ後日ニ至リテ消滅シタル場合ニ限り廢除ノ取消ヲ許シタルモノトス故ニ廢除ノ原因ト爲リ

タルモノカ全ク虛偽ノ事實ニシテ當初ヨリ存在セザリシ場合ニ於テハ廢除ノ取消ヲ許サス

三七

五三

○民法施行前實行セラレタル嫡孫承祖ノ慣習法ハ法定ノ推定家督相續人カ直系卑屬ヲ遺シテ家督相續ノ開始前ニ死亡シ又ハ相續權ヲ失ヒタル場合ニ其直系卑屬ヲシテ之ト同一ノ順位ニ於テ家督相續人タラシムルコトヲ定メタルモノナレハ法定ノ推定家督相續人タル資格ヲ取得セスシテ死亡シタル者ノ子孫ハ此法則ニ依リ承祖相續ヲ爲シ得サモルノトス

三七

一三四三

○民法第九百八十三條ニ於テ前條所定ノ相續順位ノ變更若クハ不選定ノ決議ハ裁判所ノ許可ヲ得タル後ニ之ヲ爲スヘキ旨ヲ規定セルハ單ニ普通ノ決議順序ヲ示シタルニ外ナラサレハ苟モ相續順位ノ變更若クハ不選定ノ決議ニシテ裁判所ノ許可ヲ受ケタル以上ハ其許可申請ノ手續ト時期トニ付キ多少同條ノ規定ニ異ナル所アリトスルモ之カ爲メニ該決議ハ直ニ無効トナルヘキモノニ非ス

三

五

○民法施行前法定ノ推定家督相續人タル長女ノ婿養子ト爲リタル者離婚シテ家ヲ去リ其婚姻中懐胎シタル子女未タ出生セサルトキハ其家ノ相續權ハ戸主ノ最近卑屬ナル長女ニ復歸シテ直ニ胎兒ニ移轉スルコトナ

シ故ニ戸主カ再ヒ婿養子ヲ迎ヘ其長女ニ配偶セシメタルトキハ其婿養子ハ養嗣子ト爲リ家督相續人タルノ身分ヲ取得スルモノトス

○嫡孫承祖ノ慣習法ハ直系卑屬アル家督相續人カ其相續權ヲ喪失シタル場合ニ適用スヘキモノニシテ承祖權ノ發生ハ相續權ノ喪失ト同時タルコトヲ要ス從テ其喪失ノ當時直系卑屬生存セサル場合ニハ權利ノ主體ナケレハ縱令其主體タルヲ得ヘカリシ者後日出生シタリトテ其者ノ爲メニ權利發生スルコトナシ

○被相續人カ遺言證書ヲ以テ家督相續人ヲ指定シタルモ檢認ノ結果其遺言無効ニ歸スルトキハ指定ヲ受ケタル者カ既ニ家督相續ノ登記ヲ爲シタルト否トヲ論セス被相續人ノ親族ハ家督相續人選定ノ爲メ親族會ノ招集ヲ請求スル權利アリ

○民法施行前實子アル者カ明治九年太政官第五十八號達ニ依リ當該行政應ノ許可ヲ經テ養子ヲ爲シタルトキハ其實子ハ相續權ヲ主張シ得サルモノトス

○民法施行前ト雖モ法定ノ推定家督相續人タル嫡子又ハ嫡孫カ一タヒ廢除セラレタル以上ハ更ニ其取消アルニ非サレハ同一被相續人ノ推定家督相續人ト爲ルコトヲ得ス

三	八元
三	二二〇
三	一七五
三	三六
三	五八三

○民法實施前ニ於テ胎兒ハ相續ニ關シテハ既ニ生レタルモノト看做ストノ法文ナキハ勿論其慣習モ亦存在セルコトナシ

○民法第七百三十七條ノ規定ニ依リテ家族トナリタル直系卑屬カ果シテ戸主ノ家督相續人ト爲ルヤ否ヤハ相續開始ノ時ニ在ラサレハ確定セサルモノトス

○民法實施前法定ノ推定家督相續人タル女子アル者カ婿養子ヲ爲シタル場合ニ於テハ其養子ハ推定家督相續人ト爲ルモノトス

(同主旨)

法定ノ家督相續人タル長女ノ婿養子トナリタル者ハ之ト同時ニ養家ノ家督相續人タル身分ヲ取得スルコトハ古來ノ慣習ニシテ民法ノ規定モ亦之ニ異ナルコトナシ

○民法第九百八十二條ニ掲ケラレタル者ハ選定ヲ受クル以前ニ在テハ家督相續人ニ非サルヲ以テ相續權回復ノ請求權ヲ有セス

○家督相續人ヲ選定セル親族會ノ招集決定カ非訟事件手續法第十九條第一項ニ依リ取消サレタル場合ニ於テ他ニ親族會ノ決議ニ代ルヘキ裁判ニ因リ家督相續人ニ選定セラレタル者アルトキハ前者ノ相續人タル資格ハ招集決定ノ取消ト同時ニ當然消滅スルモノトス

(參照)

三	六元
三	七〇一
三	一三七
三	一四九
三	九三
四	二四四

本邦ノ習慣ニ於テ直系ノ卑屬親ヲ相續セシムルハ戸主死亡シ相續者未定ノ場合ニ於テコソ適用スヘキモノナレ先戸主死亡ノ際其實子ヲ措キテ傍系親ナル妹ヲシテ相續セシメタルコト既ニ三十餘年ノ星霜ヲ經過シタル後ニ在テハ其習慣ヲ適用スルヲ得ス

戸主死亡セシトキ其嗣子相續ヲ爲サシテ傍系親其跡ヲ相續シタル後ニ出生シタル嗣子ノ實子ハ相續上何等ノ權利ヲモ繼承スルコト能ハス

私生子モ相續權ヲ有スル場合ナキニ非スト雖モ既ニ他姓ヲ名乗リ戸籍上某ノ庶子ト編入セラレタル以上ハ某家現戸主ニ代リテ其權利ヲ取得スルヲ得ス

相續ハ男子ヲ先ニシテ女子ヲ後ニスルハ古來ノ慣例ナレトモ當然相續スヘキ卑屬親ナキ時ハ親族協議ノ上其家ニ適當スル女子ヲ選定スルモ亦慣例ノ許ス所ナリ

甲者籍ヲ其生家ニ有シ且其家ヲ相續スヘキ權利アリト決スル上ハ縱令一時離縁トナリシ父ノ實家ニ養育セラレルモ爲メニ相續權ヲ失却スヘキモノニ非サレハ原裁判方此等ノ陳述ニ對シ說明ヲ與ヘサルモ不當ニ非ス

養嗣子ハ所謂法定ノ家督相續人ナリト雖モ養子ニ至リテハ其嗣子タルト否トハ事實ノ如何ニ由ルヘクシテ法律上必スシモ嗣子ト推定スヘキモノニ非ス隨テ二名以上アル場合ニ單ニ先位ノ養子タリトテ必ス家督相續ノ權アリト論斷スルヲ得サルナリ

相續權カ總領ノ男子ニ屬スルコトハ我國古來ノ不文法ナリト雖モ總領ノ男子カ一旦戸主タリシモ一家整理ノ不能ナルカ爲メ終身退隱セシ以上ハ長子タルノ故ヲ以テ他ニ相續スヘキ者アルニ拘ハラズ當然再相續ヲ爲シ戸主ノ地位ニ復歸スルカ如キハ未タ我國ノ慣習ニ於テ認ムル所ニ非サルナリ

養子タル身分ヲ得テ始メテ取得スヘキ相續權ノ如キハ養子縁組ノ效力生セサルトキハ之ヲ取得スルヲ得ス

三	二七	二七	二七	二七	二七
四	二	二	二	二	二
四六	九	八	八	八	八

嗣子ノ更改ハ古來ノ慣習上適法ノ事故ナゲレハ之ヲ許サス

戸主カ一家ノ維持上必要ヲ感シ又親戚最多數ノ贊同アルモ嗣子更改ノ適法ノ理由トナラズ分家ノ戸主死亡シ其家ニ相續人ナク獨リ遺妻ノ存スルトキハ遺妻ニ於テ其家ヲ相續スヘキモノトス

一家ニ於テ先代ノ長女ト養子タル男子存在シ互ニ相續權ヲ爭フトキハ養子ニ於テ長女ヲ措キ先ツ自己ニ相續權ヲ得タル確證ヲ舉クルノ責任アリ

戸籍上縁女ト記載アルモ實際其家ノ養女ナル上ハ戸主死亡シ他ニ其死跡ヲ相續スヘキ近親ナキトキ養女ニ於テ之ヲ相續スルヲ當然ノ順序ナリトス

養嗣子アル場合ニ於テ家政ノ便宜上養母カ中繼相續ノ權アルヤ否ハ事實ニ非スシテ法律上ノ問題ナリ

養嗣子カ先代ノ相續ヲ爲スヘキハ普通ノ法則ナリ

養母カ養嗣子ニ先タチ先代ノ相續ヲ爲スハ變例ノ處分ナリ

養子ハ養嗣子ニ非サル以上ハ唯先位ニアルカ爲メ必スシモ家督相續權ヲ有スルモノニ非ス

庶出ノ男子ニ先タチ嫡出ノ女子ヲシテ家督ヲ相續セシムルハ本邦ノ慣例ナリ

實子ハ男女之間ハス法定ノ推定家督相續人ト爲シ從テ實子アル戸主ノ養子ハ其婿養子タル場合又ハ正當ノ事由ニ因リ實子ヲ廢嫡シタル場合ノ外法定ノ推定家督相續人ト爲ササルヲ以テ本邦ノ慣習トス

戸主カ其實女子ノ言ヒ名ツケレト稱シ他ノ男子ヲ養子ト爲シ之ヲ婿養子ト呼ヒ其女子ヲ縁女ト稱スルモ未タ婚姻セサル間ハ養子ハ法定ノ推定家督相續人ト爲リ實女子ハ法定ノ推定家督

三〇	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
四	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
四六	九	八	七	七	七	七	七	七	七	七

○隱居ニ因ル家督相続人ハ被相続人ノ死亡セシ場合ト同シク隱居者ノ訴訟手續ヲ受継セサルヘカラス

○民法實施以前ニ於テ隱居者カ其相続人ニ財産ノ全部ヲ讓與スルコトナク其幾分ヲ自己ノ財産トシテ留保スルニハ必スシモ明確ニ其意思ヲ表示スルヲ要セス暗黙ニ留保ノ意思ヲ表示スルヲ以テ足ル

(同三三)

隱居前留保ノ意思ハ民法實施前ニ在テハ必ス之ヲ明示スルヲ要セス暗黙ニ之ヲ表示シタル事實アルトキハ意思表示トシテ十分ナリトス

○民法施行前ニ於テモ隱居ニ因ル家督相続ノ場合ニハ前戸主ノ債權者ハ現戸主ニ對シ其辨濟ノ請求ヲ爲シ得ルノミナラス前戸主ニ對シテモ亦其辨濟ノ請求ヲ爲シ又ハ其退隱前之ニ對シテ既ニ爲シタル辨濟ノ請求ヲ持續シ得タルモノトス

○民法實施以前ニ於テ戸主カ隱居スルニ方リ其財産特ニ不動産ノ幾分ヲ相続人ニ讓與セスシテ之ヲ留保スルニハ其所有名義ヲ改メス且相続人ニ對シ留保ノ意思ヲ表示スレハ足ル而シテ其意思表示ニハ一定ノ形式アルコトナク又更ニ讓受ノ手續ヲ要セサリシモノトス

○舊登記法實施以前ニ於テハ隱居ニ因ル家督相続ノ場合ニハ相続財産ハ

三	四	五	五	七
六	五	四	五	七
二	六	一〇九	六	一〇四

必ス讓渡ノ公證ヲ受クヘキモノタリ從テ相続人ハ前戸主ノ權利義務ヲ承継スルモ公證記名ノ財産ニシテ讓渡ノ公證ヲ受ケサリシモノ迄モ一切之ヲ相続スルノ慣例ニ非ス故ニ其公證ヲ經サル財産ニシテ實際相続人之ヲ承継シタルモ唯公證ノ手續ヲ盡ササリシニ過キスト主張スルトキハ其主張ヲ爲ス者ヨリ之ヲ立證セサルヘカラス

○家督相続ノ開始シタル場合ニ於テ前戸主即チ隱居者又ハ女戸主カ特ニ法定ノ方式ニ依リ其財産ノ一部ヲ留保セサル限リハ一切ノ財産所有權ハ當然相続人ニ移轉スルモノトス

○民法第七十七條ハ不動産ニ關スル物權カ當事者ノ意思ニ因リテ發生移轉スル場合ヲ規定シタルモノトス從テ相続ニ因リ不動産上ノ物權ヲ取得セル場合ハ同條ノ適用ヲ受クルコトナシ

○相続人ハ相続ノ開始ト同時ニ被相続人ノ權利義務ヲ承継スルハ勿論縱令相続開始ノ事實ヲ知ラサル場合ト雖モ被相続人カ死亡ノ時ニ於テ所持シタル物件ノ占有ハ法律上當然之ヲ承継スルモノトス

○株式會社設立費用ノ清算事務ハ創立委員其人ニ專屬スヘキ責任ナリトス從テ創立委員ノ相続人ニ對シ其清算ヲ請求スルハ失當ナリ

○民法施行以前ニ在テモ隱居ニ因ル家督相続ノ場合ニ於テハ家督相続人

三	三	三	三	三
四	三	三	三	三
一五五	四七三	一七三	一七三	五四

ハ隱居者ノ有セシ一切ノ財産ヲ承繼スルヲ以テ通則トシ唯隱居者カ隱居料トシテ其財産ノ一部ヲ留保スルコトハ之ヲ認許シタルモ其全部ヲ擧ケテ留保スルカ如キハ慣例ノ許容セサル所ナリ

○民法第九百八十九條第一項ハ戶主ノ負擔セル債務ハ隱居後ト雖モ現戶主ノ外隱居者ニ對シテ尙ホ存續シ債權者ニ於テ其辨濟ヲ請求シ得ヘキコトヲ規定シタルニ止マリ隱居者ヲシテ新ニ辨濟ヲ爲スヘキ債務ヲ負擔セシムルノ旨趣ニ非ス

(參照)

債務ヲ負ヒシ後退隱シテ戶籍ヲ移動スルモ依然其地ニ在テ從前ノ業務ニ從事スルトキハ爲メニ辨償ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ス

戶主カ前戶主ノ債務ノ爲メニ家資分散ノ處分ヲ受ケ其債務ヲ盡了シ能ハサル場合ニ於テ債權者ハ其保證人ヲ措キ前戶主ニ係リ復更ニ之カ償還ヲ求ムヘキモノニ非ス

原院カ某者ヲ以テ相続ノ權アルモノト認定シタル以上ハ某者ハ縱令成親ノ手續(官廳ヘノ届出)ヲ經テ相続ヲ爲ササルモ其家ノ財産ニ付キ權義ノ關係ヲ有スルコト論テ疑タス

金員ノ預リ主カ我家ノ財産ヲ長男ニ讓渡シ隱居シタルモ預リ主タルノ義務ヲ免ルヘキモノニ非ス

貸借ノ當時甲者ニ於テ既ニ乙者ノ乙家ヲ退隱スヘキ事情ヲ知悉シ特ニ乙者其人ヲ信用シ其隱居財産ヨリ辨濟ヲ受ケヘキ意思ヲ以テ貸與シタル上ハ退隱後乙者ノ死亡シタルト否トニ論ナク其本家ノ相続人タル者ニ此債務ヲ負擔セシムヘキ條理ナシ

四〇	七〇五
四〇	二七九
三五	一八四
三五	一一三
二七	四七五
二六	五五
二六	一三九

家族ト雖モ記名ノ財産ヲ所有スルコトハ法律ノ許ス所ナリ乃チ戶主カ其相続人タルヘキ者ニ家督ヲ讓リテ隱居ヲ爲スニ當リ不動産ノ全部又ハ一部ニ付キ名義ヲ改メシテ其所有ヲ留保シタルトキハ家族タル隱居ハ其記名財産ノ所有者ト云ハサルヘカラス家督相続人ハ其家ノ財産ヲ相続スルノ權利ヲ有スルコト論テ疑タスト雖モ隱居ノ所有スル財産ハ其家ノ財産即チ戶主ノ財産ト云フヘカラス

戶主中ノ債務ハ其家ヲ去リ他家ノ戶主ト爲リタル後ニ於テモ負擔者ニ於テ之ヲ辨濟スヘキモノトス

一旦戶主トシテ負擔シタル義務ハ爾後戶主ノ身分ヲ脫退スルモ當然其義務ノ免脱ヲ得ヘカラス

戶主中ノ債務ニ付テハ隱居後ト雖モ尙ホ責任アリ

相続人ハ特別ノ事情ナキ限りハ前戶主ノ有セル一切ノ權義ヲ繼承スヘキモノナレハ死亡者カ其財産ヲ他人ニ遺贈シ又ハ退隱者カ之ヲ持續シタル等ノ事蹟存セサル限りハ前戶主ノ財産ハ當然相続人ニ歸スルヲ以テ一般ノ通義トス

戶主退隱スルトキハ一切ノ權利義務ハ家名ト共ニ跡相続人ニ移轉スルヲ以テ普通ノ慣例ト爲ス

第二章 遺產相續

第二節 遺產相續人

○家族ノ遺產ハ被相續人ト家ヲ同ウスル卑族親之ヲ相續スヘキモノニシテ他家ニ在ル者ハ其卑族親ト雖モ之ヲ相續スルノ權利ナキコトハ民法

二六	四三〇
二六	七九
二八	三
二八	一三〇
二九	六〇
三〇	一七
三〇	一〇
三〇	六

施行前ニ於テ一般ニ行ハレタル慣例ナリ

○家族カ死亡シタル當時法定ノ遺産相続人ナク又現實ノ戸主存在セザリシ場合ト雖モ爾後前戸主ノ家督相続人ト爲リタル者ハ其家族ノ遺産ヲ相続スルノ權利アルモノトス

(參照)

死亡者ノ遺産ハ其尊屬ナル戸主ニ屬スヘキモノニ非ス死亡者ノ卑屬ナル長男ニ於テ相続スヘキモノトス

一家ノ戸主死亡シ相続人タルヘキ子孫ナキトキハ縱令家ヲ異ニスルモ其子カ父母ノ財産ヲ相続スヘキハ當然ナリ

同居家族ノ遺産ハ戸主ノ支配權ニ屬スルモ分家ノ家族死亡シ獨リ其者ノ遺妻存在セルトキハ遺妻ニ於テ右遺産ヲ相続スルハ當然ナリ

第三章 相続ノ承認及ヒ拋棄

第一節 總則

(參照)

養子若クハ其離縁ハ内情如何ニ關セス苟モ戸籍ニ登錄セラレサル間ハ法律上其效ナキモノトス而シテ一旦養子トナリ相続權ヲ保有スル以上ハ公式ノ手續ナクシテ輒ク相続權ノ拋棄ヲ推測スルヲ許サス從テ其養子ニシテ遺産ノ處分ヲ爲スモ罪トナラス
家督相続權ハ之ヲ拋棄スルヲ許サル法則ナキニ依リ其拋棄ヲ認メタル裁判ハ違法ニ非ス

三九	四	二	二	二	二
二九	四	二	二	二	二
二〇	四	二	二	二	二
三〇	四	二	二	二	二
三〇	四	二	二	二	二

第二節 承認

第一款 單純承認

○民法施行前ト雖モ遺産相続人カ特ニ遺産ノ限度ニ於テ被相続人ノ債務ヲ辨濟スヘキ條件ヲ附セスシテ單純ニ相続ヲ爲シタル以上ハ被相続人ノ財産上ノ債務ハ無限ニ之ヲ承繼シタルモノト認メサルヘカラス

第二款 限定承認

○家督相続人ハ限定承認ヲ爲シタル場合ト雖モ前戸主ノ一身ニ專屬シタルモノヲ除ク外相続開始ノ時ヨリ其有セシ權利義務ヲ承繼スヘキモノナルモ前戸主ノ債務及ヒ遺贈ニ付テハ唯相続ニ因リテ得タル財産ノ限度ニ於テノミ辨濟ノ責アルニ止マリ其固有ノ財産ヲ以テ之ヲ辨濟スルノ責ナシ

第五章 相続人ノ曠缺

(刑) ○絶家トハ戸主ヲ失ヒ家督相続人ナキコト確定シタル家ヲ云フ而シテ前戸主ノ遺産ハ絶家ト同時ニ無主物ニ歸スルヲ以テ法律上絶家ニ財産ノ存在スルコトナシ

第六章 遺言

三七	二	二	二	二	二
三七	二	二	二	二	二
三七	二	二	二	二	二
三七	二	二	二	二	二
三七	二	二	二	二	二

第二節 遺言ノ方式

○遺言ヲ爲スニ際シ親族アル者ハ多クハ皆之ヲ立會ハシムヘシト雖モ遺言書ニハ必スシモ親族ノ立會連署ヲ要スルモノニ非ス

第一款 普通方式

(參照)

遺贈證書ハ必ス本人ニ於テ之ヲ自署シ又ハ證人ノ連署ヲ要スルノ條及ヒ免保追加ノ如キハ現行法ノ效力ナキハ勿論裁判上慣例トシテモ亦當然認知セラルヘキモノニ非ス

第三節 遺言ノ效力

○遺言ハ遺言者カ死亡スルニ非サレハ其效力ヲ生セサルモノニシテ而カモ遺言者ハ何時ニテモ遺言ノ方式ニ從ヒ之ヲ取消シ得ルモノトス從テ遺言者カ生存スル以上ハ受遺者ノ爲メニ何等ノ權利ヲモ發生スルコトナシ

(參照)

遺言ハ單獨行爲ニシテ受遺者ハ遺言者ノ死亡後何時ニテモ遺贈ノ拋棄又ハ承認ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハ遺言者死亡後承認ノ意思ヲ起訴前ニ表ハスト又ハ起訴ト同時ニ表ハストニ固リテ遺言ノ效力ヲ異ニスルコトナシ
遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其效力ヲ生ス從テ遺言者ハ其生存中何時ニテモ隨意ニ之ヲ取消

スコトナ得

第四節 遺言ノ執行

○遺言執行者ハ單ニ相続人ノ代理人トシテ相続人ノ權利ノミヲ行使スルモノニ非ス

○遺言執行者ハ相続財産ノ管理其他遺言ノ執行ニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權利義務ヲ有スルニ依リ相続人カ遺贈ノ目的ヲ其名義ニ移シタル場合ニ於テ遺言執行ノ爲メ相続人ニ對シ訴訟ヲ提起スルカ如キハ固ヨリ其權限ニ屬ス

第五節 遺言ノ取消

○遺言ハ遺言者カ死亡スルニ非サレハ其效力ヲ生セサルモノニシテ而カモ遺言者ハ何時ニテモ遺言ノ方式ニ從ヒ之ヲ取消シ得ルモノトス從テ遺言者カ生存スル以上ハ受遺者ノ爲メニ何等ノ權利ヲモ發生スルコトナシ

第七章 遺留分

○民法ニ於テ家督相続人ノ受クヘキ遺留分ヲ侵害シタリトハ被相続人カ生前處分若クハ死後處分ヲ以テ相続ニ因リ法律上相続人ノ受クヘキ權

三四五

三六 一九〇

三六 一九〇

三九 二五三

三三 六七一

二六 五〇

三九 二五三

三二 三七

利ヲ處分シタル場合ヲ云フ

○民法第千四百十三條第二項ノ場合ニ受贈者ニ於テ贈與ノ目的ノ上ニ設定シタル權利カ其目的ノ爲メ輕微ナル負擔ニシテ遺留分權利者カ之ヲ甘受セント欲スル以上ハ其負擔ノ附著シタル儘返還スルモ之カ爲メ目的ノ上ニ權利ヲ有スル者ヲ害スルコトナキヲ以テ此場合ニ於テハ遺留分權利者ニ對シ贈與ノ目的ノ返還ヲ許ササルヘカラス

○民法第千四百十五條ニ所謂滅殺スヘキ贈與アリタルコトヲ知リタル時トハ遺留分權利者カ單ニ被相續人ノ財産ノ贈與アリタルコトヲ知ルノミナラス其贈與ノ滅殺スヘキモノナルコトヲ知リタルトキヲ指稱ス故ニ該贈與ニ付キ滅殺權アルコトヲ知ラサル場合ニハ同條ノ時効ノ進行ヲ始ムルコトナシ

○遺留分權利者カ被相續人ト第三者トノ間ニ行ハレタル不動産ノ賣買ヲ以テ虛偽ノ意思表示ナリト確信シ買主ニ對シテ賣買登記取消ノ訴訟ヲ提起シタル場合ニ於テハ起訴ノ當時該賣買ノ成立ヲ了知シタルモノト云フヲ得ス從テ其主張ニ反スル事實ナキ以上ハ該不動産賣買ニ對スル滅殺請求權ノ時効ハ訴訟提起ノ當時ヲ以テ起算點ト爲スヘキモノニ非ス

三五
六一
一五

三七
三三七

三六
六一

三六
六一

商

法

商 法

第一編 總則

第一章 法例

- 舊商法ノ施行中滿期日ノ到來シタル約束手形ニ關スル時効期間ノ計算ニ付テハ民法第四百十條ノ規定ヲ適用スヘキモノナレハ滿期日ヲ算入スヘキモノニ非ス
- 債務者ヲシテ質物ノ代理占有ヲ爲サシムル所ノ動産質ハ從來此ノ如キ商慣習アリトスルモ民法實施後ハ質權ノ效力ヲ喪フヘキモノトス
- 名義書換又ハ質入等ヲ委任スル事項ノミノ記載アリテ年月日及ヒ宛名ノ記載ナキ委任狀ヲ添附シ以テ記名株券ノ輾轉流通ヲ爲ス商慣習ハ違法ニ非ス
- 白紙委任狀ヲ使用シ記名株券ノ處分及ヒ流通ヲ容易ナラシムル商慣習ハ廣ク實際ニ行ハレ法律の效力ヲ有スルモノトス
- 株券記名者カ白紙委任狀ヲ作成シ株券ト共ニ之ヲ他人ニ委付スルニ於テハ其株券ハ委任狀ト相待テ輾轉流通スル慣習ノ存スル以上第三者カ

三四	三五	三五	三八
一〇	六	二	
三五	九四	七	三六

其慣習ニ從ヒ該株券ニ付キ取得シタル權利ハ之ヲ無効ニ歸セシムルコトヲ得ス

第二章 商人

○酒類製造業ヲ廢止シタル後ニ於テモ依然酒類販賣業ヲ持續スル事實アルニ於テハ其商人タル身分ヲ存續スルモノト云ハサルヘカラス

○合資會社ノ社員ハ當然商人ノ資格ヲ有スルモノニ非サレハ縱令支拂停止ノ事實アルモ直ニ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ス

第三章 商業登記

○商法第五十三條ハ同第五十一條ニ依リ登記シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキニ於テ其異動ノ單ニ變更ニ係ルト將タ廢止ニ係ルトヲ問ハス總テ之ヲ變更登記トシテ登記スヘキ法意ニシテ同法第十五條ノ所謂消滅登記トハ登記シタル事由ノ全ク無用ニ歸シ消滅シタル場合ニ適用スヘキ法意ナリ

第四章 商號

○運送其他ノ營業ヲ讓渡スルニ當リテハ店舖貨物債權債務得意先及ヒ商業帳簿等ハ總テ之ヲ讓渡スヲ通常トス故ニ其反證アラサル限りハ總テ讓渡アリタルモノト推定セサルヘカラス

○一箇人ノ商號ハ民事訴訟法第九十條ノ規定ニ依リ當事者ヲ表示スヘキ名稱ト爲スヲ得サルモノトス

○商號ナルモノハ一定ノ商人カ取引上自己ヲ指示センカ爲メ使用スル名稱ニ外ナラサレハ使用者ハ他人ニ代リテ取引ヲ爲ス場合ト雖モ尙ホ其商號ヲ使用シ得ルモノニシテ登記ノ有無ハ毫モ之ニ關係ナシ

第五章 商業帳簿

○商法第二十六條第一項ニ於テ商人又ハ會社ニ對シ定時ニ財産目錄ヲ調製スルノ義務アルコトヲ規定シタルハ他人ヲシテ其時ニ於ケル資産ノ状態ヲ知悉セシムルノ旨趣ニ外ナラス故ニ其第二項ノ價格ナルモノハ客觀的ノ價格即チ目錄調製當時ノ交換價格ヲ指スモノトス

○商法第二十五條ハ商人ハ日日ノ取引其他ノ事項ヲ整然且明瞭ニ記載シタル帳簿ヲ備フルコトヲ要ストノ旨趣ニシテ此等ノ事項ヲ日日記入スルコトヲ強要シタルモノニ非ス

三六 一〇七

三四 二六

三六 九六

三三 七〇

三三 一〇四

三四 七四

四〇 三八九

三五 五五

四〇 九八一

第二編 會社

第一章 總則

○商法第四十六條ニ謂フ開業ノ準備ニ著手スルコトヲ得ストノ規定ハ會社ノ目的トスル事業ニ直接ナル準備行為ヲ爲シ得ストノ旨趣ナリ

○會社ノ行為カ公ノ秩序ヲ害スルトキハ縱令其設立ノ目的ハ適法ナル場合ト雖モ裁判所ハ檢事ノ請求又ハ職權ニ因リ之カ解散ヲ命シ得ルモノトス

第二章 合名會社

第一節 設立

○商法第四百十一條及ヒ第五十三條ノ二週間ノ期間ハ監査役ニ當選シタル者ノ承諾ヲ竣テ後始メテ起算スヘキモノニ非ス決議ノ日ヨリ起算スヘキモノトス

○商法第五十三條ハ同法第五十一條第一項ニ掲ケタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其異動カ事項ノ變更ニ基クト將タ其消滅ニ基クトヲ問ハス總テ之ヲ變更登記トシテ登記スヘシトノ意義ニシテ同法第十五條ニ謂

三六

二九六

三七

二二七

三四

七

三七

フ登記シタル事項ノ變更ト消滅トヲ包含シタル規定ナリト解釋セサルヘカラス

(友對)

商法第五十三條ハ同第五十一條ニ依リ登記シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキニ於テ其異動ノ單ニ變更ニ係ルト將タ廢止ニ係ルトヲ問ハス總テ之ヲ變更登記トシテ登記スヘキ法意ニシテ同法第十五條ノ所謂消滅登記トハ登記シタル事由ノ全ク無用ニ歸シ消滅シタル場合ニ適用スヘキ法意ナリ

三六

九〇八

商法第五十三條ノ規定ハ其第五十一條ニ依リ登記シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其異動ノ單ニ變更ニ係ルト將タ廢止ニ係ルトヲ問ハス總テ變更登記トシテ登記スヘキ法意ナリト解釋セサルヘカラサルモノトス

三三

四

七〇

○商法第五十三條ノ登記事項ニ變更ヲ生シタルトキトハ會社ノ所在地並ニ取締役監査役ノ住所等ニ移動アリタル場合ハ勿論行政區畫改正ノ結果土地ノ名稱ニ變更ヲ生シタル場合ヲモ指稱セルモノトス

(同室旨)

商法第五十三條ニ所謂事項ノ變更ニハ住所ノ變更ヲ包含ス而シテ住所ノ變更トハ獨リ住所ノ土地家屋ニ移動ヲ生シタル場合ノミナラス其表示即チ土地ノ名稱又ハ番號ニ變更ヲ生シタル場合ヲモ包含セルモノトス

四〇

八四一

三九

四八

(友對)

商法第五十三條中第五十一條第一項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキトハ地名改稱ノ

場合ヲ包含セス單ニ事項其モノ即チ本支店ノ位置ニ變更ヲ生シタル場合ヲ指スモノトス
商法第五十三條ニ所謂「第五十一條第一項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキ」トハ單ニ
事項其モノ變更ノ場合ノミヲ指シタルモノト狹義ニ解釋スヘキモノトス

第五節 解散

○商法第八十一條ニ會社カ合併ヲ爲シタルトキハ云トアルハ同法第七
十八條ニ會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ云トアル其決議ヲ爲シ
タル時ヲ指スノ法意ニ非スシテ決議ヲ爲シタル後實際合併ヲ爲シタル
時ヲ意味スル規定ト解釋セサルヘカラス

○商法第七十四條第七號ニ所謂裁判所ノ命令トハ獨リ同法第四十七條第
四十八條ノ命令ノミナラス同法第八十三條ノ規定ニ基ク裁判所ノ判決
ヲモ包含スルモノトス

○商法第八十三條ニ依ル會社解散ノ請求ハ會社ニ對シテ爲スヘキモノニ
シテ個人タル社員ヲ相手取ルヘキモノニ非ス

第六節 清算

○商法第九十二條ニ所謂會社ニ現存スル財産トハ會社財産中ヨリ社員ヲ
シテ出資ヲ爲サシムヘキ債權ヲ取除キタルモノヲ指稱スル文字ニシテ
其動産タルト不動産タルト債權タルト將タ又其他ノ財産タルトヲ問ハ

三三 二
三四 二

三四 七
三五 五

三七 五
三七 五

三七 五
三七 五

ス會社カ現ニ有スル總テノ財産ヲ包含スルモノトス

○商法第九十一條第一項第一號ニ所謂現務ノ結了トハ會社解散後ニ於ケ
ル現在ノ事務ヲ結了スルト云フノ意義ニ外ナラス

○會社解散ノ決議無効ノ訴ハ商法第九十一條第二項ノ規定ニ該當スルヲ
以テ清算人ハ會社ヲ代表シテ訴訟行爲ヲ爲スノ權限ヲ有スルモノトス

○商法第九十五條ニ所謂清算人ハ會社ノ債務ヲ辨濟シタル後ニ非サレハ
會社ノ財産ヲ社員ニ分配スルヲ得ストハ會社ハ其負擔スル債務ヲ悉皆
償却シタル後ニ非サレハ其財産ヲ分配スルヲ得ストノ意ニシテ相當ノ
金額ヲ準備シ置クトキハ負債辨償前ニ在テモ財産ヲ分配スルヲ得トノ
律意ニ非ス

○民法第七十九條ノ規定ハ株式會社及ヒ株式合資會社ノ清算ノ場合ニ之
ヲ準用スヘキモノナルモ合名會社及ヒ合資會社ノ清算ノ場合ニハ之ヲ
準用スヘキモノニ非ス

○會社ノ清算トハ會社解散ノ場合ニ於テ其現務ヲ結了シ債權ヲ取立テ且
債務ヲ辨濟シ若シ殘餘財産アルトキハ之ヲ引渡ス等ノ如キ會社財産ノ
處分ヲ指稱セルモノトス

○破産ノ手續ニハ清算ノ目的モ亦包含スルヲ以テ株式會社カ破産シタル

三四 三
三五 六

三五 五
三五 二

三五 五
三五 二

三五 六
三五 二

三五 八
三五 三

三九 一〇〇

場合ニ於テハ商法第二百三十四條ニ依リ同第九十二條ノ規定ヲ準用シ得ルモノトス

(同三三)

會社ノ破産手續ハ他ノ場合ニ於ケル清算ト多少ノ差異アルモ其實質ハ清算ニ外ナラス從テ株金拂込ニ關スル手續ノ如キ破産法ノ規定セサル事項ニ付テハ商法第二百三十四條ニ依リ同第九十二條ヲ適用スヘキモノトス

第三章 合資會社

- 合資會社ノ社員ノ持分ハ社員カ其資格ニ於テ會社ニ對シテ有スル一切ノ權利義務ヲ指稱スルモノナレハ普通ノ債權ト同視スヘキモノニ非ス
- 會社ニ對スル出資金ニシテ既ニ辨濟期ニ在ルモノノ支拂ヲ求ムル權利ハ一ノ債權ニ外ナラスシテ其性質讓渡ヲ許ササルモノニ非ス故ニ特別ノ規定ナキ以上ハ會社ニ對スル強制執行ノ目的物ト爲スニ妨ナキモノトス
- 合資會社カ特ニ代表社員ヲ定メタル場合ト雖モ其解散シタル後ニ於テハ無限責任社員ハ各清算人ト爲リ且第三者ニ對シテ各自會社ヲ代表スヘキ資格權能アルモノトス

三元	三元	三元	三元
一六九九	一〇一〇	一四	四二五

第四章 株式會社

第一節 設立

- 株式會社設立ノ登記ヲ爲スニ當リ各株式ニ付キ少クモ四分ノ一ノ金額ヲ拂込マサレハ其登記ハ適法ナラス然レトモ之カ爲メ當然無効ニ歸スヘキモノニ非サレハ苟モ登記ノ取消サレサル間ハ會社ノ法人資格ハ他人ニ對抗スルコトヲ得
- 商法第四百十一條及ヒ第五十三條ノ二週間ノ期間ハ監査役ニ當選シタル者ノ承諾ヲ竣テ後始メテ起算スヘキモノニ非ス決議ノ日ヨリ起算スヘキモノトス
- 同一ノ者カ監査役ニ再選セララルルモ是レ全ク改選ノ結果ニシテ即チ監査役ニ變更アリタルモノニ該當スルニ因リ更ニ之ヲ登記スヘキモノトス
- 商法第四百十一條第二項ノ規定ニ依リ株式會社ニ準用スヘキ同第五十一條第二項ニ所謂會社設立後支店ヲ設ケタルトキトハ株主總會ニ於テ新ニ支店ノ設立ヲ決議シタルトキヲ謂フニ非スシテ其決議後現實支店ノ開設アリタルトキヲ指スモノトス

三三	三四	三四	三六
二	七	七	五五
一	三七	三七	

○株式引受人ハ株主タル權利ヲ取得スルト同時ニ拂込ヲ爲スノ義務ヲ負擔セルモノトス故ニ株金拂込ノ催告カ二週間ノ期間ヲ存セサル爲メ法律上ノ效力ナキコトヲ理由トシテ未タ拂込ノ義務ナシト云フヲ得ス

○株式會社ノ目的ハ其定款ニ依リテ定マルモノトス從テ手形ノ支拂保證ヲ爲スコトカ株式會社タル銀行ノ目的ノ範圍内ニ在ルヤ否ヤハ其定款所定ノ目的ニ包含スルヤ否ヤニ據リテ之ヲ定メサルヘカラス

第二節 株式

○會社カ株券ノ名義ヲ書替ユルハ株券ノ真正ナルコトヲ保證スルニ非スシテ株主ノ變更ヲ承認スルニ過キス

○名義書換又ハ質入等ヲ委任スル事項ノミノ記載アリテ年月日及ヒ宛名ノ記載ナキ委任狀ヲ添附シ以テ記名株券ノ輾轉流通ヲ爲ス商慣習ハ違法ニ非ス

○催告トハ特ニ之ヲ領受スヘキ人ニ對シ發スヘキモノニシテ公告ト同視スヘキニ非ス故ニ特殊ノ規定若クハ意思表示アラサル限りハ公告ヲ以テ催告ニ代フルコトヲ得ス

○記名株券ニ白紙委任狀ヲ添附シ之ヲ他人ニ委付スルニ於テハ其株券ハ委任狀ト相待テ輾轉流通スル慣習ノ存スル以上ハ縱令直接ノ當事者間

三五	三六	三五	四〇	三元
九	六	二	九	二七〇
五	四	二六		

ニ於テ祕密契約ヲ爲シ或場合ニ於テノ白紙委任狀ヲ利用シテ株券ヲ處分スルコトヲ許シタル場合ト雖モ善意ニシテ且過失ナキ第三者カ慣習ニ從ヒ該株券ニ付キ取得シタル權利ハ該祕密契約ニ基キ之ヲ攻撃スルコトヲ得サルモノトス

○株式會社カ資本ヲ増加スルニ方リ總株數ノ引受ナキ場合ニ於テハ會社ハ豫定ノ資金ヲ得ル能ハス從テ豫定ノ目的ヲ達スルヲ得サルニ因リ株主モ亦豫定ノ利益配當ヲ得ルノ望ナキニ至ルヲ以テ既ニ引受ヲ爲シタル株主ニ於テモ其拂込ヲ拒絕スルノ權利ヲ有スルモノトス

○株主ノ權利トハ株式即チ義務ヲ包括スル一種ノ權利ヲ指稱スルニ外ナラサレハ株主ニシテ其權利ヲ失フ以上ハ株式ニ付キ何等ノ關係ナキニ至リ其結果株主タル資格ヲ喪失スルモノトス

○商法第百五十三條ノ規定ハ拂込ノ義務ヲ怠リタル株主ニ對スル制裁ナルヲ以テ其株式ハ當然會社ニ歸屬スルモノトス故ニ競賣ノ結果滯納金額ヲ控除シテ餘剩ヲ生シタル場合ニ於テ會社カ其金額ヲ利得スルハ畢竟法律ノ規定ニ因ルモノナレハ之ヲ目シテ不當利得ト云フヲ得ス

○株式會社カ現株主以外ノ者ニ對シ株金ノ拂込ヲ請求スルノ權ハ商法第百五十二條及ヒ第百五十三條ノ手續ヲ踐ミタル後同條所定ノ株式讓渡

三	三	三	三	三
四	四	四	四	四
五	五	五	五	五

人並ニ從前ノ株主ニ對シテノミ存スルモノトス
 ○株式會社カ商法第百五十二條ノ手續ヲ踐ムモ株主ニ於テ尙ホ株金ノ拂込ヲ爲ササルトキハ當然株主タルノ權利ヲ失ヒ其株式ハ一旦會社ノ有ニ歸スルモノトス從テ同法第百五十三條ニ基ク競賣ノ讓渡人ハ會社ニシテ從前ノ株主ニ非ス

(同五三)

商法第百五十三條第一項ハ會社カ同法第百五十二條ニ定メタル手續ヲ踐ミタルモ株主カ株金ノ拂込ヲ爲ササルトキハ株主ヲシテ會社ノ利益ノ爲メニ其株式ヲ失ハシメ而シテ會社ハ其各讓渡人ニ對シ拂込ノ催告ヲ爲シ最先ノ拂込者ニ其株式ヲ取得セシメ若シ其各讓渡人カ拂込ヲ爲ササルトキハ之ヲ競賣ニ付スル目的ヲ以テ一時之ヲ取得スルモノト解釋スルヲ相當トス隨テ右株式ノ競賣ニ付キ賣主ノ位地ニ在ル者ハ從前ノ株主ニ非スシテ會社ナリトス

○商法第百五十三條第二項第三項ニ於ケル讓渡人ノ負擔スヘキ擔保ノ責任ハ會社ニ於テ其前條ノ手續ヲ履踐シ株主カ適法ニ其權利ヲ失却シタル場合ニ到著シテ始メテ發生スルモノトス故ニ此手續ニ從ハサルトキハ縱令強制執行其他ノ方法ニ依リ株主ノ支拂不能ノ事實確定スルモ之ヲ以テ讓渡人ノ責任發生スルコトナシ

○株式讓渡人ノ負擔スヘキ擔保ノ責任ハ株式會社ノ平常ノ場合ハ勿論破産ノ場合ニ於テモ亦商法第百五十二條及ヒ第百五十三條ノ規定ニ依テ

之ヲ定メサルヘカラス

○數名ノ株式讓渡人中會社ニ對シ株金不足額全部ヲ辨濟シタル者ハ單ニ直接ノ讓受人ニ對シテ求償權ヲ有スルニ過キサレハ之ヲ踰越シ其以後ノ讓渡人ニ對シテ直接ニ求償ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス

○株式會社カ其解散前ニ於テ既ニ株主ニ對シ株金ノ拂込ヲ適法ニ催告シタル以上ハ株主ハ會社ニ對シテ其義務ヲ履行スヘキ地位ニ在ルモノトス故ニ其後會社カ解散ニ因リ清算ノ時期ニ移ルモ之カ爲メ株主ノ地位ニ變動ヲ來スヘキモノニ非ス

(刑)

○株金ノ拂込ハ必ス現金ヲ以テスルコトヲ要シ約束手形ノ如キ債權ヲ以テスルコトハ商法ノ認許セサル所トス

○株式會社カ商法第百五十二條ノ手續ヲ踐ムモ株主ニ於テ株式ノ拂込ヲ爲ササル場合ニハ其株主タル權利ヲ失却スト雖モ該株式ヲ競賣シ尙ホ滯納金存スルトキハ從前ノ株主ハ其義務者タル地位ヲ脱却スルコトヲ得ス即チ從前負擔シタル株式拂込ノ債務不履行ノ地位ニ在ルヘキ法意ナリトス

○商法第百五十三條第四項ノ規定ハ株主ノ滯納金タル債務不履行ニ因リ會社カ辨濟ヲ請求スル場合ニハ其遲延利息ヲ損害賠償トシ又ハ競賣ノ

三六	三七	三七	三七	三六
九五四	二七一	五九四	三二七	二八六

費用等ヲ損害賠償トシテ請求スルコトヲ妨ケストノ法意ナリ
 ○株式會社カ株主ヲシテ株金ヲ拂込マシムルニ當リ催告ヨリ二週目ヲ經
 過セル以後ニ拂込期日ヲ指定シ以テ拂込ノ期間ト爲スニ於テハ商法第
 百五十二條ノ要件ヲ具備シタルモノトス而シテ其期間ニ付テハ民法ノ
 期間計算法ニ從フヘキモノナルモ之ヲ爲メ同條ノ猶豫日數ニ變更ヲ來
 スヘキモノニ非ス

○株券記名者カ白紙委任狀ヲ作成シ株券ト共ニ之ヲ他人ニ委付スルニ於
 テハ其株券ハ委任狀ト相待テ輾轉流通スル慣習ノ存スル以上第三者カ
 其慣習ニ從ヒ該株券ニ付キ取得シタル權利ハ之ヲ無効ニ歸セシムルコ
 トヲ得ス

○商法第百五十條ノ規定ハ記名株式ノ讓渡人若クハ讓受人ハ同條ノ手續
 ヲ了セサレハ會社及ヒ其他ノ第三者ニ對シ讓渡行爲ノ效力ヲ利用シ得
 サル旨趣ヲ聲明シタルニ外ナラスシテ會社及ヒ其他ノ第三者ノ爲メニ
 其行爲成立セサルノ趣意ニ非ス

○株式會社ハ商法第百五十條ノ手續未了前ト雖モ記名株式ノ讓渡人ニ對
 シテ讓渡行爲ノ存在ヲ主張シ以テ自己ノ利益ヲ防護スルノ權利ヲ有ス
 ルモノトス

三元

九五四

三元

二〇四

三元

二〇七

三元

二五九

三元

一五九

○株金拂込ノ催告ハ各株主ニ對シ二週間前ニ之ヲ行フコトヲ要ス從テ該
 期間ヲ存セサル催告ハ無効ナリ

○株金拂込ノ催告ニシテ其要件ヲ具備セサルカ爲メ無効ニ歸シタル以上
 ハ縱令事實上二週間ヲ經過セル後再ヒ催告ヲ爲スモ商法第百五十二條
 第二項ニ謂フ通知ノ效力ヲ生スルコトナシ

(刑) ○記名株券ノ所有者カ其株券ニ委任狀及ヒ處分承諾證ヲ添ヘテ之ヲ相手
 方ニ交付シタル後第三者カ善意且過失ナク其相手方ヨリ該株券竝ニ附
 屬書類ノ交付ヲ受ケ之ヲ占有シタル場合ニハ第三者ヲシテ其正當ニ豫
 期シタル權利ヲ取得セシムヘキハ當然ナリ

(刑) ○如上ノ場合ニ於テ記名株券ニ添附セラレタル委任狀及ヒ處分承諾證カ
 真正ノ成立ヲ有セサルカ若クハ其株券竝ニ附屬書類ノ授受カ正當權利
 者ノ任意ニ出テサルトキハ縱令第三者ニ於テ善意且過失ナク其引渡ヲ
 受ケ之ヲ占有スルモ該株券ニ付キ何等ノ權利ヲ主張シ得サルモノトス

○株式會社カ株式ノ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後二年以内ニ讓渡人ニ
 對シ商法第百五十三條第二項ノ催告ヲ爲シタル一事ハ以テ同法第百五
 十四條ノ法定期間ノ内外ヲ問ハス會社カ讓渡人ニ對シ競賣不足額ノ辨
 濟ヲ請求シ得ヘキ證據ト爲スニ足ラス

三元

六四

三元

六四

三元

五四二

三元

五四二

三元

五四五

○株式ノ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後二年以内ニ會社カ商法第百五十三條第三項ニ從ヒ競賣不足額辨濟ノ催告ヲ爲シタル以上ハ其訴訟ノ提起ハ縱令辨濟催告ノ日ヨリ六月以上ヲ經過シ又ハ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル日ヨリ二年以上ヲ經過シタル後ニ在ルモ讓渡人ハ同法第百五十四條ノ免責ノ利益ヲ受クルコト能ハス

○株金拂込ノ債務ハ法律ノ規定ニ依ルノ外金錢ヲ以テ拂込ヲ爲スカ又ハ會社ノ承諾ヲ得テ會社ニ對スル債權ト相殺スルニ非サレハ消滅セサルモノトス從テ縱令拂込義務者ト會社トノ合意アルモ代物辨濟又ハ更改等ニ因リテ之ヲ消滅セシムルコトヲ得ス

(同主旨)

株金拂込ノ債務ハ法律ノ規定ニ依ルノ外ハ金錢ヲ以テ拂込ヲ爲スカ又ハ會社ノ承諾ヲ經テ會社ニ對スル債權ト相殺スルニ非サレハ消滅セサルモノトス從テ縱令當事者ノ承諾上代物ヲ以テ之ヲ辨濟シ又ハ其履行ニ代ヘテ手形若クハ債務證書ヲ授受スルモ之カ爲メ株金拂込ノ債務ハ消滅スルモノニ非ス

○商法第百五十二條第一項ノ規定ハ株金ノ拂込ニ關シ會社ノ踐行スヘキ手續ヲ定ムルト同時ニ株主ノ爲メ期間ヲ設ケタルモノトス故ニ拂込ノ催告カ法定ノ期間ヲ存セサルニ拘ハラズ株主ニ於テ其期日ニ拂込ヲ爲

三元

五四五

三元

一一三

三元

九四

スカ又ハ期日ニ拂込ヲ爲スヘキコトヲ承諾スルハ期間ノ利益ヲ拋棄セラルモノニ外ナラス

○株式會社カ商法第百五十三條第三項ニ依リ失權株主ノ株式ヲ處分スル場合ニハ競賣法ノ規定ニ據ラサルヘカラス然ラサレハ其競賣ハ全然無効ニシテ法律上何等ノ效力ヲ有セサルモノトス

○株式會社カ失權株主ノ株式ヲ賣却スルニ當リ競賣法ノ規定ニ依ラサルトキハ縱令賣却代金ノ滯納金額ニ滿タサルコトアルモ株式讓渡人ニ對シテ其不足額ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ス

○商法第百五十四條ノ免責規定ハ株式ノ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後二年ノ法定期間内ニ同第百五十三條第三項ノ競賣不足額ニ付キ會社ヨリ讓渡人ニ對シテ辨濟ヲ請求シタル場合ニ在ラサレハ其適用ナキモノトス

○商法第百五十三條第一項ニ依リ株主タル權利ヲ喪失セシ者ニ對シ會社カ拂込ノ履行ヲ求メスシテ損害賠償トシテ未拂込ノ金額等ヲ請求スルハ法律ノ許ササル所ナリ

○株主ハ商法第百五十二條第一項ノ拂込催告ニ因リテ均等ニ拂込義務ヲ生スルモノナレハ同條第二項ノ催告及ヒ失權通知ハ必スシモ總株主ニ

三元

二七〇

三元

一四六

三元

一四六

四〇

一四二

四〇

二九三

對シテ均等ニ之ヲ爲スノ要ナシ

○株式會社カ商法第五百十二條第一項若クハ定款ニ定ムル期間ヨリ短キ
催告期間ヲ以テ拂込ノ催告ヲ爲シタル場合ニハ縱令株主ニ於テ期間ノ
利益ヲ拋棄スルモ之カ爲メニ失權ノ通知ヲシテ同第五百十三條第一項
所定ノ效力ヲ生セシムルコトヲ得ス

○株主カ株式ニ因リテ有スル權利ハ單純ナル債權ニ非スト雖モ株式會社
ノ營業ニ因リテ生スル利益ノ配當ヲ受クル權利アルノミナラス會社解
散ノ後ハ清算ノ結果殘餘財産ノ分配ヲ受クヘキ權利アリ從テ株式ハ債
權ノ性質ヲ包容シタル權利ト謂フヘシ

○商法第五百十二條ノ催告及ヒ通知ヲ受ケタル株主カ當時未成年者ナリ
シトキハ會社ハ其株主ニ對シテ法定ノ手續ヲ履踐シタリト主張スルコ
トヲ得ス從テ其株主ハ拂込ヲ爲ササルモ之カ爲メニ當然失權ヲ來スヘ
キモノニ非ス

○商法第五百十條ハ絕對的規定ナルカ故ニ苟モ記名株式ノ讓渡ヲ以テ會
社其他ノ第三者ニ對抗スルニハ如何ナル場合ニ於テモ同條所定ノ手續
ヲ踐ムコトヲ要ス

○株金拂込ノ催告ニシテ定款所定ノ期間ヲ存セサルカ爲メ無効ト爲リタ

ル以上ハ縱令第二回ノ催告ハ有效ニシテ且株主カ之ニ應セザリシトス
ルモ株主權喪失ノ效果ヲ生スルコトナシ

○商法第五百十三條第三項ノ規定ニ依リ株式讓渡人カ會社ニ對シ株金ノ
不足額ヲ辨濟スヘキ義務ハ數人相次テ株式ノ讓渡ヲ爲シタル場合ニ於
テハ各讓渡人平等ノ割合ヲ以テ之ヲ負擔スルモノニ非スシテ各自其不
足額全部ニ付キ辨濟ノ責ニ任スヘキモノトス

(同前)

株式カ相次テ數回讓渡セラレタル場合ニ於テ會社ニ對シ讓渡人ノ負擔スル債務ハ一ノ擔保義
務ニ外ナラスト雖モ民法ニ謂フ保證人ノ債務ト異ナリ分割義務ニ非スシテ全部義務ナリトス

第三節 會社ノ機關

○株主ハ其資格ニ於テ直接ニ取締役若クハ清算人ニ對シ訴訟ヲ爲スノ權
利ヲ有セス

○株式會社支店長カ數年間該支店ニ於テ支配人ノ如ク一切ノ會社業務ヲ
處理シ殊ニ手形ノ振出支拂等ニ付キ同會社ヲ代表シ來リタル事實アル
以上ハ其間手形振出行爲ニ付キ會社ヲ代理スル權限ヲ有セシモノト認
定スルモ違法ニ非ス

第一款 株主總會

四〇

三〇七

四〇

七三

四〇

八〇六

四〇

九二

四〇

一〇五四

四〇

一〇五四

四〇

一六五

三七

一三七

三六

四九

四〇

六七六

○舊商法施行中ニ提起シタル訴訟ニ對シ商法第六十三條第三項ノ規定ヲ適用シタル裁判ハ不法ナリ

○株主總會ニ於テ出席株主カ其權利數以外ノ投票ヲ爲シ又ハ正當ノ委任狀ヲ有セサル者カ投票ヲ爲シタル場合ニ於テ此等ノ投票ヲ無効トシ又ハ除却シタリトテ株主權ノ行使ヲ妨害スルモノニ非サレハ之カ爲メ總會ノ決議ヲ無効トスヘキ理由ナシ

○投票ハ其記載明確ナラス又ハ誤記アル場合ニ他ノ證據ニ依リ何人ノ投票ナルヤヲ明確ニ知リ得ルニ於テハ其投票ヲ無効トスヘキ條理ナシ

○商法第六十三條第三項ノ株券ヲ供託スヘキ條件ハ訴ノ要件ナルヲ以テ之ヲ爲ササルトキハ其訴訟ハ不成立ニ歸スルモ起訴ト同時ニ之ヲ爲サスシテ訴訟ノ進行中何時ニテモ其手續ヲ爲シ之ヲ追補シ得ルモノトス

○株式會社ノ總會召集ノ手續又ハ其決議ノ方法カ不法ナルノ故ヲ以テ總會ノ決議ヲ無効ト爲スニハ舊商法ニ依リタルモノナルト新商法ニ基キタルモノナルトヲ問ハス訴ヲ以テ無効タルノ宣告ヲ受ケサルヘカラス
○商法第六十三條ニ於テ總會ノ決議無効ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ株主ニ許シタル規定ハ株主ノ取消權ヲ認メ之ニ基キテ決議ノ取消

三四 二 四〇

三四 九 一六

三四 九 一六

三五 五 一〇三

三五 七 一九

ヲ爲サシムルモノナルコトハ同條第二項ニ於テ取消ヲ請求スル期間ヲ限定シタルニ依リ明瞭ナリ

○株主カ會社内部ノ行爲ニ干與スルコトハ商法ニ規定シタル場合ノ外法律ノ認許セサル所ナリ

○商法第五十六條第二項ノ規定ハ株主ヲシテ總會ノ目的及ヒ其總會ニ於テ評決セラレヘキ事項如何ヲ豫知スルコトヲ得セシメ其決議權ヲ行フニ付キ十分ノ準備ヲ爲サシムルノ法意ナリトス故ニ會社カ株主ニ爲ス總會ノ通知ニハ其議事日程タルヘキ事項如何ヲ了解スルコトヲ得セシムルニ足ル記載アルコトヲ要ス

(同第三項)

商法第五十六條第二項ハ株主ヲシテ總會ノ目的及ヒ其總會ニ於テ評決セラレヘキ事項如何ヲ豫知スルコトヲ得セシメ其決議權ヲ行フニ付キ十分ノ準備ヲ爲サシムル規定ナルヲ以テ會社カ株主ニ爲ス總會ノ通知ニハ其議事日程タルヘキ事項如何ヲ了解スルコトヲ得セシムルニ足ル記載アルコトヲ要ス

○株主總會ニ於テ株主ニ非サル者及ヒ其代理人ニ非サル者カ決議ノ數ニ加ハリタルトキハ商法第六十三條ニ所謂決議ノ方法カ法令ニ反スル場合ニ外ナラサレハ之ヲ原因トシテ總會決議ノ無効ヲ確定セントスル株主ハ同條ノ規定ニ依リテ訴訟ヲ爲スコトヲ得ヘシ

三五 三三

三七 一五七

三七 五九

三五 七一 五一

三六 五三〇

○商法第六十三條ニ該當スル株主總會ノ決議ト雖モ裁判所ノ無効宣告アル迄ハ有效ニ存立スルモノトス

四〇

一〇

○商法第五十六條第一項ニ所謂各株主トハ記名式ノ株券ヲ有スル株主ヲ指稱セルモノトス而シテ記名式ノ株券ヲ有スル株主トハ同第七十一條及ヒ第七十二條ノ規定ニ從ヒ株主名簿ニ其氏名住所ヲ記載シ且自己ノ氏名ヲ株券ニ記載シタル者ノ謂ナリ

四〇

五七一

○官吏カ公法上ノ規定ニ依リ職務ヲ行フ場合ニ於テハ公法上別段ノ規定アルニ非サレハ其權限ヲ證スヘキ書面ノ提出ヲ必要トセス從テ代理權證明書ノ提出義務ニ關スル私法上ノ規定ハ此場合ニ適用スヘキモノニ非ス

四〇

一〇八三

第二款 取締役

○株主總會ニ於テ株主中ヨリ選任セラレタル取締役ハ商法第六十八條ノ株券ヲ供託スルト否トニ拘ハラヌ取締役ノ任務ヲ有效ニ行フコトヲ得ルモノトス

三五

一一

一一〇

○民法第四十四條第一項ノ規定ハ商法第七十條ニ依リ株式會社ノ取締役ニ準用スヘキモノナルカ故ニ取締役カ被用者ノ選任又ハ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ怠リ因テ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ法人タル會社ニ於

テ其責ニ任スキモノトス

三六

三三三

○株式會社ノ株主總會ニ於ケル取締役選任ノ決議ハ單獨行爲ナルカ故ニ被選者ノ受諾就任ヲ竣ツコトナク其決議ノミニ因リテ直ニ選任ノ效力ヲ生スルモノトス

三六

九四八

(同旨)

株式會社ノ株主總會ニ於ケル取締役ノ選任決議ノ效力ハ委任關係ヲ生スルモノニ非ス故ニ其效力ハ被選者ノ承諾ヲ俟タズシテ發生スルコト勿論ナリ

三六

三〇七

○商法第七十六條ハ民法第八條ト其精神ヲ同ウスレトモ同條ノ例外規定ニ非サルヲ以テ取締役カ自己又ハ第三者ノ爲メ會社ト取引ヲ爲ス場合ニ於テハ縱令自ラ其會社ヲ代表セザルトキト雖モ監査役ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

三七

一七三

○株式會社ニ二人以上ノ取締役アル場合ニ於テ縱令商法第七十六條ノ規定ニ遵由セサル者アリトスルモ他ノ取締役カ適法ニ會社ヲ代表シテ爲シタル行爲ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラルベキモノニ非ス

三七

一七三

○株式會社ノ取締役カ會社ノ營業科目ヲ誤テ汎博ニ登記シタル場合ト雖モ其營業科目ハ依然定款ニ定メタルモノニ外ナラサレハ取締役カ定款ニ反シ營業科目ニ屬セザル行爲ヲ爲シタルトキハ會社ハ之ニ關シ責任

ヲ有セス

○取締役ハ會社ノ營業科目ニ關スル事項ニシテ自己ノ權限ニ屬スルモノニ非ザレハ和解ヲ爲スコトヲ得ス

○商法第七十六條ニ所謂監査役ノ承認トハ一切ノ取引ヲ爲スコトヲ豫メ承認スト云フカ如キ概括的ノ承認ヲ指スモノニ非スシテ特定ノ取引ニ付キ殊ニ與ヘラレタル承認ヲ指スモノト解釋セサルヘカラス

○株式會社ノ取締役カ會社ヲ代表シ一個人タル自己ニ宛テ手形ヲ振出しタルトキハ同一ノ法律行爲ニ付キ相手方ノ代理人ト爲リタルモノニシテ其手形行爲ハ無効ナリトス

○株式會社ノ取締役カ監査役ノ承認ヲ經スシテ自己ノ爲メ會社ト取引ヲ爲シタルトキハ其行爲ハ當然無効ニ非スト雖モ會社ハ之カ取消ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

(同左)

株式會社ノ取締役カ監査役ノ承認ヲ得スシテ自己ノ爲メ會社ト取引シタルトキハ其行爲ハ當然無効ニ屬スヘキモノニ非スト雖モ會社ハ之カ取消ヲ求ムルノ權ヲ有スルモノトス

取締役カ商法第七十六條ノ規定ニ背戾シテ會社ト取引ヲ爲シタル場合ト雖モ其行爲ハ當然無効ニ屬スルモノニ非ス會社ニ於テ之ヲ取消スノ意思ヲ表示シ始メテ其效力ヲ失フモノトス故ニ若シ會社カ其取引ヲ有效トシ之ニ因テ取得セル權利ノ實行ヲ求ムルトキハ其相手方タリ

三七

三六

三七

三六

三七

三五

三六

一〇七

三六

一三五

三七

九七八

シ取締役又ハ第三者ハ該取引ノ無効ヲ主張シ以テ會社ノ請求ヲ拒ムコトヲ得ス

(刑) ○株式會社ノ業務執行ニ關シ不法行爲アル場合ニ於テハ其行爲ニ與リタル者ノミ之カ責ニ任スヘキモノトス

(刑) ○株式會社ノ取締役ハ行爲能力ヲ有セサル會社ヲ代表シ其業務ヲ執行スル法定代理人ナリ

○商法第七十六條ハ株式會社ノ取締役カ自ラ會社ヲ代表セスシテ會社ト取引スル場合ヲ規定シタルモノニ外ナラス從テ取締役カ一面會社ヲ代表シ一面其相手方ト爲リ會社ト取引ヲ爲シタルトキハ縱令監査役ノ承認ヲ得ルモ其取引ハ全然無効ナリトス

(同左)

商法第七十六條ハ株式會社ノ取締役ノ職ニ在ル者カ自己又ハ第三者ノ爲メ會社ト取引ヲ爲ス場合ヲ規定シタルモノニシテ取締役カ一面會社ヲ代表シ一面自己ノ資格ヲ以テ一箇ノ法律行爲ヲ爲ス場合ヲ規定シタルモノニ非ス

○商法第七十二條ニハ株主カ拂込ミタル株金額等ヲ株主名簿ニ記載スルニ付キ其時期ノ定ナケレハ事實遲滞ナク之ヲ爲スコトヲ要スルノ旨趣ナリトス從テ此等ノ記載ニ付キ遲滞アル以上ハ其原因ノ如何ヲ問ハス商法第二百六十一條ノ制裁ヲ免レサルモノトス

第三款 監査役

三七

九五八

三六

三二六

三六

三二六

三六

二九四

三六

一〇七

三六

一五〇

○株式會社ノ監査役ハ會社ノ機關ニシテ會社ノ雇人ニ非ス
 ○株式會社ノ監査役ハ取締役差支ノ場合ニハ其代理ヲ爲シ且取締役ニ對スル訴訟ニ付キ會社ヲ代表スルコトアルモ會社ニ關スル訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者ニ非ス

第四節 會社ノ計算

○商法第九十八條ノ株主ノ請求ニ因リ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査セシムルコトニ付テハ法律上別ニ何等ノ制限アラサルヲ以テ獨リ現在ノコトニ止マラス必要アルニ於テハ既往ニ遡リテ調査セシムヘキモノト解セサルヘカラス

○申請ノ取下ハ各人ノ自由意思ニ屬スルモノニシテ其單獨ニテ申請ヲ爲シタル場合ト他人ト合同シテ之ヲ爲シ其合同カ申請ノ目的ヲ達シ得ヘキ一ノ要件タリシ(例ヘハ検査役選任ノ申請ノ如キ)場合トニ依リテ差異アルモノニ非ス

○商法第九十八條ニ依ル検査役選任ノ申請事件ニ付テハ其検査役ノ調査ヲ受クヘキ會社ハ該事件ノ相手方ニ非ス故ニ其決定ノ當事者表示ノ部ニ會社ヲ表記セサルモ不法ニ非ス

○商法第九十八條ハ検査役選任ノ請求ニ付キ一モ條件ヲ附スルコトナ

三	三	三	三
三	三	三	三
三	三	三	三
三	三	三	三

ケレハ裁判所ハ請求者カ果シテ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主ナルヤ否ヤヲ調査シ若シ之ニ該當スルニ於テハ會社財産ノ狀況危殆ナラサルコト或ハ其他ノ理由ヲ以テ該請求ヲ拒否スルノ權ナシ從テ會社ハ其検査役選任ノ裁判ニ因リテ權利ヲ害セラレタリト云フヲ得ス

○株式會社ノ取締役カ定時總會ニ於テ商法第九十條ニ掲クル書類ヲ提出シ且其故意又ハ過失ニ因リテ生シタル損失ヲ報告シ總會ノ承認ヲ受ケタルトキハ會社ニ對スル責任ハ不正行爲アリタル場合ヲ除ク外之ニ因リテ解除セララルモノトス從テ會社カ損害賠償ニ關スル取締役ノ責任ヲ免セサラシメント欲スルトキハ總會ニ於テ承認ヲ與ヘサルカ又ハ斯ノ如キ場合ト雖モ依然其責任ヲ負フヘキ旨ヲ特約セシムルコトヲ要ス

○株式會社カ取締役ヲシテ如上ノ特約ヲ爲サシメタル後之ヲ定時總會ニ提出シ其承認ヲ經タルトキハ縱令總會カ取締役ノ事業報告ニ對シ何等ノ留保ヲ爲サスシテ承認ヲ與ヘタル場合ニ於テモ其取締役ノ不法行爲ニ因ル損害賠償ノ責任ハ該特約ニ依リ依然存續スヘキモノトス

○株主總會ノ承認ハ専ラ總會ニノミ屬スルモノナレハ會社ハ反對ノ事項ヲ約定シテ之ヲ左右スルコトヲ得ス從テ會社カ其意見ノミニ依リ如上

三	三	三	三
三	三	三	三
三	三	三	三
三	三	三	三

ノ特約ヲ爲シタルトキハ何等ノ效力ヲ有セスト雖モ該特約ヲ總會ニ提出シ之カ承認ヲ受ケタル以上ハ其有效ナルヘキハ當然ナリ

第六節 定款ノ變更

○株式會社カ資本ヲ増加スルニ方リ總株數ノ引受ナキ場合ニ於テハ會社ハ豫定ノ資金ヲ得ル能ハス從テ豫定ノ目的ヲ達スルヲ得サルニ因リ株主モ亦豫定ノ利益配當ヲ得ルノ望ナキニ至ルヲ以テ既ニ引受ヲ爲シタル株主ニ於テモ其拂込ヲ拒絕スルノ權利ヲ有スルモノトス

第七節 解散

○取締役ハ會社ヲ代表シ其本來ノ目的タル業務ヲ執行スル爲メ選任セラレルモノナレハ會社カ解散スルトキハ之ト同時ニ當然其代表者タル資格ヲ失フモノトス

第八節 清算

○解散シタル株式會社ト雖モ其清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存續スルモノト看做ササルヘカラス

○民法第七十九條ノ規定ハ株式會社及ヒ株式合資會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用スヘキモノナルモ合名會社及ヒ合資會社ノ清算ノ場合ニハ之ヲ準用スヘキモノニ非ス

三九

一三七

三六

二四

三五

五三

三四

一四九

三五

三八

○解散シタル株式會社ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ商法第五百五十二條及ヒ第五百十三條ノ規定ヲ準用シ得ルモノトス

○清算中ニ在ル會社ニ對シ訴訟ニ依リ其解散ニ關スル決議ノ無效ヲ確認セシメントスルニハ清算人ヲ會社ノ代表者ト爲スヘク此場合ニ於テ清算人ハ其職務權限ヲ以テ會社ノ代表者タルヘキモノトス

○破産ノ手續ニハ清算ノ目的モ亦包含スルヲ以テ株式會社カ破産シタル場合ニ於テハ商法第二百三十四條ニ依リ同第九十二條ノ規定ヲ準用シ得ルモノトス

(同至四)

會社ノ破産手續ハ他ノ場合ニ於ケル清算ト多少ノ差異アルモ其實質ハ清算ニ外ナラズ從テ株主金拂込ニ關スル手續ノ如キ破産法ノ規定セサル事項ニ付テハ商法第二百三十四條ニ依リ同第九十二條ヲ適用スヘキモノトス

三九

一〇〇

三七

一〇七

三六

五三

三五

一六九

第六章 外國會社

○日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社カ商法ノ規定ニ依リ日本ニ於ケル代表者ヲ定メタルトキハ其者ハ會社ノ營業ニ付キ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲スノ權限ヲ有シ其日本ニ設ケタル支店ノ營業ニ關スルト外國ニ在ル本支店ノ營業ニ關スルトヲ論セス會社ノ營業全部ニ付キ代表

權ヲ有スル法定ノ代理人ナリトス

○商法第二百五十五條ハ外國會社ノ法人タルト否トヲ區別セサレハ日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社カ其本國法ニ於テ法人タラサル場合ニ於テモ亦之ヲ適用スヘキモノトス

○外國會社カ日本ニ設置セル一支店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル代表者ハ日本全國ニ對シテ代表權ヲ有ス從テ內國中他ノ地方ニ於テ更ニ支店ヲ設ケタル場合ニ重ネテ其支店所在地ニ登記ヲ爲ササルモ之カ爲メ全國ニ於ケル代表權ニ何等ノ消長ヲ來スコトナシ

○日本ニ支店ヲ設置シタル外國會社ノ代表者數人アルトキハ各自其會社ヲ代表シ日本全國ニ於テ會社ノ營業ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲スノ權限ヲ有スヘキモノトス

第七章 罰則

○商法第二百六十一條第一項第九ニ所謂不正ノ記載トハ其記載ノ正シカラサルヲ云フモノニシテ詐欺又ハ故意ニ出テタルトキハ勿論過失ニ基クトキト雖モ此規定中ニ包含スルモノトス

○商法第二百六十二條第十號規定ノ旨趣ハ要スルニ民法第七十九條ノ期

元	元	元	元	元
一七五	五〇六	五八四	五八四	五五

間内ハ會社ノ債權者ニ辨濟ヲ爲スコトヲ清算人ニ禁シタルニ止マリ此規定アルカ爲メニ既ニ到來シタル辨濟期延長スルモノト云フヲ得ス

○株式會社ノ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作成スル事務ノ如キハ必スシモ取締役躬親ラ之ニ從事スルコトヲ要セス故ニ其監獄ニ拘禁セラレ職務不能ノ境遇ニ在ル場合ト雖モ取締役ハ商法第二百六十二條ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得ス

三五	九	四九
----	---	----

○法令ノ規定ニ依リ株式會社カ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作成スルコトヲ必要トスル場合ニ於テ之ヲ作成セサルトキハ縱令其以前ニ於テ作成シタル財産目録及ヒ貸借對照表アリトスルモ商法第二百六十二條第二號ニ該當スル違犯行爲タルコトヲ免レヌ

○株式會社ノ監査役カ死亡シタル場合ニ取締役カ變更登記ヲ爲スコトヲ怠リタル理由ヲ以テ之ヲ過料ニ處スルニハ其過失ニ因リ法定ノ期間内ニ登記ヲ爲ササリシ事實アルコトヲ要ス

○商法第七十二條ニハ株主カ拂込ミタル株金額等ヲ株主名簿ニ記載スルニ付キ其時期ノ定ナケレハ事實遲滞ナク之ヲ爲スコトヲ要スルノ旨趣ナリトス從テ此等ノ記載ニ付キ遲滞アル以上ハ其原因ノ如何ヲ問ハス商法第二百六十一條ノ制裁ヲ免レサルモノトス

元	元	元	元
二五〇	六二	二九二	二九二

○株式會社ノ取締役カ其本店並ニ支店ノ所在地ヲ管轄スル各登記所ニ對シ變更登記ノ申請ヲ怠リタル場合ニ於テハ其各行爲ハ各一箇ノ犯則ヲ構成スルモノトス

第三編 商行爲

○金錢ノ貸借ハ商業ノ爲メニスルカ又ハ其貸借ヲ營業トスル爲メ他ヨリ金錢ノ借入ヲ爲スカ如キ場合ニ在ラザレハ之ヲ民法行爲ト認ムヘキハ當然ナリ

第一章 總則

(刑) ○芝居茶屋業ハ商行爲ナリ

○銀行及ヒ商人間ニ信用ヲ開ク爲メ汎ク行ハルル根抵當ハ有效ナリ

○裁判外ノ請求ノ場合ニ於テ手形債權者カ其債務者ヲシテ遲滯ノ責ニ任セシムルニハ履行期限ノ到來シタル後手形ヲ呈示シテ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ要スルモ裁判上ノ請求ノ場合ニ於テハ債權者カ其履行ノ訴ヲ有效ニ提起スルトキハ其提起ノ時ヨリ債務者ヲ遲滯ニ付スルモノトス
○商法第二百七十九條ノ規定ハ指圖債權又ハ無記名債權ニ付テハ民法第

四〇

八四一

三六

一五五六

三三

九

一三七

三九

九

五三

三六

一〇四二

四百十二條第一項ノ適用ナキ旨ヲ明カニシタルモノニ過キスシテ訴訟ニ於ケル付遲滯ノ準則ヲ示シタルモノニ非ス

三六

一〇四二

○商行爲ニ因リテ生シタル債權ヲ擔保スル爲メニ設定シタル質權ニハ民法第三百四十九條ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス故ニ設定行爲ニ於テ法律ニ定メタル方法ニ依ラスシテ質物ヲ處分セシムルコトヲ特約シタルトキハ其特約ハ有效ナリ

三七

八三三

○手形ニ振出人數名アルトキハ其一人ニ爲シタル呈示ハ總テノ振出人ニ對シテ效力ヲ生スルモノトス

三七

一五五七

○商法第二百六十四條第八號ニ所謂銀行取引トハ法令ノ規定ニ依リ銀行ニ於テ行フ所ノ法律行爲ノ義ニシテ即チ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ爲替事業ヲ爲シ若クハ諸預リ及ヒ貸付ヲ併セ爲スノ行爲ヲ指稱セルモノトス從テ單ニ金錢ノ貸付ノミヲ爲ス行爲ハ銀行取引ト稱スルコトヲ得ス
○株式會社ノ取締役カ會社ノ爲メニ手形振出ノ意思ヲ表示スルニ當リテハ會社ノ爲メニスルノ意ヲ明カニシ其手形ニ取締役自身ノ名ヲ署セサルヘカラス

三六

一三五

三七

一六七七

○商法第二百六十六條前段ハ相手方カ本人ノ爲メニスルコトヲ知リタルト否トニ拘ハラサル規定ニシテ其後段但書ハ相手方カ本人ノ爲メニス

ルコトヲ知ラサリシトキハ代理人ニ對シテモ履行ノ請求ヲ爲シ得ヘキ
 ○コトヲ明カニシタルモノトス
 ○製系ノ販賣ヲ營業ト爲シ其營業ノ爲メニ他人ヨリ立替金ノ給付ヲ受ケ
 タル行爲ハ商法施行以後ハ勿論其以前下雖モ商行爲ニ屬シ其行爲者ハ
 商人ノ資格ヲ有シタルモノトス
 ○約束手形ノ所持人カ履行ノ請求ヲ以テ時効ヲ中斷セント欲スル場合ニ
 ハ裁判上ノ請求ヲ除ク外必スヤ商法第二百七十九條ノ規定ニ準據スル
 コトヲ要ス然ラザレハ其請求ハ時効中斷ノ效ヲ生セス
 ○商法施行前ニ於テハ如何ナル行爲カ商行爲ナルヤニ付キ特別ノ法規存
 セサリシト雖モ商人カ營業ノ爲メニスル行爲ノ商行爲タルコトハ當然
 ノ條理ナリトス

第二章 賣買

○商品ニ關スル損害賠償額ハ特約又ハ特別ノ事情ナケレハ契約ノ價額ト
 市價トノ差額ヲ以テ標準ト爲スヘキモノナリ

第四章 匿名組合

○單ニ匿名組合契約ヲ解除スルコトト匿名組合ノ解散及ヒ出資金ノ返還

三九	七六五
三九	八八六
三九	一四四
三七	一三六
三七	一四四

ニ關スル契約ヲ取結フコトトハ之ヲ同視スヘキモノニ非ス

第六章 問屋營業

○委託販賣トハ當事者ノ一方ヨリ他ノ一方ニ對シ商品ヲ委託シ之カ販賣
 ヲ委任スルヲ云フ故ニ其販賣ノ時機及ヒ直段ニ付キ別ニ商習慣又ハ特
 約ノ存セサル限りハ受託者ニ於テ相當ト思料スル時機及ヒ直段ヲ以テ
 適宜ニ之カ販賣ヲ爲シ得ルモノトス
 ○取引所仲買人カ取引所ニ於ケル賣買ノ委任ヲ受ケ賣建又ハ買附ヲ爲シ
 タル以上ハ其轉賣買等取引ノ變更ニ關シテハ一ニ委任者ノ意思ニ從フ
 ヘク自己ノ意思ヲ以テ委任者ノ意思ヲ阻礙シ得ヘカラサルハ委任ニ關
 スル一般ノ法理ナリトス
 ○仲買人ハ取引所ニ於テハ自己ノ名ヲ以テ取引スヘキモノナレトモ仲買
 人ト注文者トノ間ニハ委任關係存スルヲ以テ取引所ニ於ケル取引直段
 ト注文者ニ報告シタル直段トハ同一ナラサルヘカラス
 ○取引所仲買人カ委任者ノ承諾ヲ得スシテ爲シタル轉賣若クハ買戻ハ委
 任者ニ對抗スルコトヲ得ス
 ○取引所仲買人カ爲シタル轉賣若クハ買戻ヲ委任者カ承諾セサル場合ニ

三五	七五
三五	四
三五	二五
三三	六
三三	一四三
三三	一〇
三三	二六
三四	五
三四	九

於テ仲買人カ更ニ委任者ノ爲メニ賣建若クハ買建ヲ爲シ之ヲシテ初ヨ
リ轉賣若クハ買戻セサリシ地位ニ在ラシムル商慣習ハ法令ニ違背スル
所ナク又委任ノ本旨ニ背反スル所ナシ

第七章 運送取扱營業

○商法第三百二十二條ニ所謂運送ニ關スル注意云云ノ規定ハ運送人ニ適
用スヘキ同法第三百三十七條末段ノ規定ト同一ニシテ其注意ヲ爲スヘ
キ程度ハ運送品ノ性質其他諸般ノ狀況ニ因リ一定ナル能ハス

○商法第三百二十八條第二項ハ運送貨物ノ全部滅失シタル場合ニ適用ス
ヘキ規定ニシテ運送會社カ荷送人ニ貨物引換證ヲ交付シ後更ニ他ノ引
換證ヲ作成シテ他人ニ貨物ヲ引渡シ質權者ニ損害ヲ加ヘタル如キ場合
ニ適用スヘキ規定ニ非ス

○運送取扱人又ハ運送人カ荷主ヨリ貨物ノ運送ヲ委託セラレタルトキハ
其受取ハ勿論到達地ニ於テ指定ノ荷受人ニ之ヲ引渡ス迄ハ保管其他運
送ニ關シテ十分ノ注意ヲ加ヘ運送品ニ滅失毀損等ヲ生セサラシムヘキ
責任ヲ有ス從テ運送品ニ滅失毀損等ヲ來シタル場合ニ在テハ運送取扱
人又ハ運送人ニ於テ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明シタルトキニ限り荷

三四
五
九

三五
四
二元

三五
二
一三

○主ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルルモノトス

(同主旨)

運送者ハ運送貨物ノ滅失又ハ毀損等ニ付テハ充分ナル注意ヲ爲スヘキ責任ヲ有スルモノナル
カ故ニ該貨物カ自己ノ過失ニ非スシテ滅失シタルトモハ其事由ヲ證明セサルヘカラス

○商法第三百二十八條第一項ニ所謂運送取扱人ノ責任トハ商法上特ニ運
送取扱人タル資格ヨリ生スル損害賠償ノ責任ヲ總括的ニ指稱セルモノ
トス而シテ此規定ハ運送人ニ準用セラルルヲ以テ運送人ハ其資格ニ基
ク賠償責任ノミニ付キ同條ノ消滅時効ヲ援用スルコトヲ得

○運送取扱人ノ委託者ハ運送取扱人ニ對シテハ取次行爲ニ因リテ生スル債
權ヲ主張シ得ルモ取次行爲ノ相手方其他ノ第三者ニ對シテハ運送取扱
人ヨリ其債權ノ移轉ヲ受クルニ非サレハ直ニ自己ノ債權トシテ之ヲ行
使スルコトヲ得ス

三七
二五

三六
四二

三九
四九

四〇
六九

第八章 運送營業

第一節 物品運送

○貨物引換證ニ運送賃ヲ記載セサルヘカラサル必要アル場合ニ於テハ商
法第三百三十三條第二項ノ規定ニ依リ要件トシテ之ヲ記載スヘキハ勿

論ニシテ若シ其記載ヲ欠クトキ即チ運送賃先拂トノミ漠然記載シ運送人ト所持人トノ間權義ノ所在ヲ明確ナラシメサル如キ場合ニハ其效力ヲ喪フコトアルヘキモ常ニ其記載ヲ必要トスルモノニ非ス

○數人相繼キテ運送ヲ爲スニ當リ荷物カ其到達地ニ達セスシテ荷送人ニ損害ヲ生シ運送人ノ一人カ之ヲ賠償シタル場合ノ求償ニ於テ求償者ニ對シ此者ヨリ後ニ運送ニ從事シタル運送人等ニ連帶責任アリトノ事ハ舊商法及ヒ新商法共ニ之ヲ認メサルト同シク商法施行以前ノ慣例ニ於テモ亦認メラレサル所ナリ

○如上ノ場合ニ於テ損害ヲ賠償シタル運送人ノ一人ハ不法行為ヲ爲シタル運送人ニ對シ求償權アルノ外其行為者タラサル他ノ運送人ニ對シテ全部ノ請求權ナシ

○數人相次テ運送ヲ爲ス場合ニ於テハ第一運送人ト荷送人トノ間ニ締結シタル運送契約ハ第二以下ノ運送人ニ對シテモ當然其效力ヲ生スルモノトス故ニ其運送ヲ引受ケタル第二以下ノ運送人ハ該運送契約ノ條項ニ從ヒ直接ニ荷送人又ハ荷受人ニ對シ運送賃支拂ノ請求其他運送人ノ權利ヲ行使スルコトヲ得

○運送取扱人又ハ運送人カ荷主ヨリ貨物ノ運送ヲ委託セラレタルトキハ

其受取ハ勿論到達地ニ於テ指定ノ荷受人ニ之ヲ引渡ス迄ハ保管其他運送ニ關シテ十分ノ注意ヲ加ヘ運送品ニ滅失毀損等ヲ生セサラシムヘキ責任ヲ有ス從テ運送品ニ滅失毀損等ヲ來シタル場合ニ在テハ運送取扱人又ハ運送人ニ於テ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明シタルトキニ限り荷主ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルルモノトス

(同左旨)

運送者ハ運送貨物ノ滅失又ハ毀損等ニ付テハ充分ナル注意ヲ爲スヘキ責任ヲ有スルモノナルカ故ニ該貨物カ自レノ過失ニ非スシテ滅失シタルトセハ其事由ヲ證明セサルヘカラス

○荷受人カ運送契約ニ從ハサルカ又ハ貨物引換證ト引換ニ引渡ヲ請求セサル以上ハ運送人ハ運送品ノ引渡ヲ拒絶シ得ルモノニシテ又之ヲ拒絶スヘキコトハ荷送人若クハ貨物引換證ノ所持人ニ對スル運送人ノ責任ナリトス

○運送人カ契約上ノ場所以外ノ地ニ荷物ヲ送付シタルカ爲メ荷受人ニ之ヲ到達セシムルコト能ハサル以上ハ商法第三百三十七條ニ所謂運送品ノ滅失ニ該當スルヲ以テ之ニ因リ荷送人ノ被フリタル損害ハ運送人ニ於テ賠償ヲ爲スヘキ責任アリトス

○貨物引換證ニ記載スヘキ要件トシテ規定セラレタル事項ハ必要アル場

三五〇
八

三五
九

三五
九

三七
七

三七
二五

三五
四

三七
三九

三七
七

合ニ於テハ縱令其一項タリトモ之ヲ具備セサレハ該證券ハ效力ヲ有セサルモノトス是故ニ貨物引換證ニ記載スヘキ運送貨支拂濟ノ場合ハ格別其未拂ナル場合ニ於テハ必スシモ其數額ヲ明示スルコトヲ要セスト雖モ之ヲ算定スルニ足ルヘキ標準ヲ知り得ル程度ニ記載セサルヘカラス

○荷送人カ運送貨ノ前拂ヲ爲シタルトキハ縱令貨物引換證ニ之ヲ掲ケサルモ其要件ヲ缺キタルモノニ非ス

○最初ノ運送人ニ次テ運送ノ委託ヲ受ケタル者カ其義務ヲ履行セサルトキハ直接ニ荷送人ニ對シテ損害賠償ノ責任ヲ負フモノトス

○運送人カ荷爲替附ノ荷物ニ對シ荷送人ノ請求ニ因リ荷物引換證ヲ交付スルニ當テハ商法第三百三十三條ノ要式ヲ具備シタル書面ヲ作成セサルヘカラス從テ其要件ヲ欠如シタル書面ハ引換證タルノ效ナキモノトス

○運送株式會社カ發布スル貨物引換證ニハ其代表者ニ於テ署名スルコトヲ要ス故ニ株式會社ノ記名アルノミニシテ其代表者ノ署名ナキモノハ引換證タルノ效力ヲ有セス

○債務者カ運送貨物ノ取扱ニ關シ將來負擔スルコトアルヘキ債務ヲ確保

三七

七三

三七

八五二

三元

九五〇

三元

九九九

三元

九九九

スル爲メ運送人ニ保證金ヲ納付シタル場合ニハ其貨物取扱ニ關スル契約終了後運送人ニ對シテ債務ヲ負擔スルコトナキ事實確定セサレハ之カ返還ヲ請求シ得サルモノトス從テ債權者ハ縱令此債權ヲ差押ヘ且轉付命令ヲ受クルモ運送人ニ對シテ直ニ保證金ノ支拂ヲ要ムルコトヲ得ス

三元

一五三

○運送人カ運送品ヲ荷受人ニ引渡シ運送ヲ結了スルニハ一ニ運送契約ノ旨趣ニ服從セサルヘカラス故ニ該契約ニシテ運送品カ到達地ニ達シタル後ト雖モ荷受人ニ引渡スヘキ指圖アルマテ其地ノ運送店ニ之ヲ留置スル旨趣ニ出テタルトキハ運送人ハ引渡ノ指圖アルマテ運送品ヲ保管スヘキ義務ヲ負フモノトス

四〇

四七

第二節 旅客運送

○不法行爲ヲ原因トシテ運送人ニ對シ損害ノ賠償ヲ請求スル場合ニハ商法第三百五十條ヲ適用スヘキモノニ非ス

三六

六元

第九章 寄託

第二節 倉庫營業

(刑) ○倉庫營業者カ贓品ヲ預リ適法ノ預證券ヲ發行シタル場合ニ其預證券カ

刑事被告人ノ手ヲ離レサル前即チ第三者ニ讓渡セラレサル以前ニ於テハ裁判所ハ私訴被告人タル刑事被告人ヲシテ預證券ヲ提出セシメ之ト引替ニ被害者ニ物品ヲ引渡サシムヘキモノトス

○債務者カ商法上ノ預證券等ニ裏書ヲ爲シ之ヲ讓渡シタルトキハ縱令其讓渡ハ虚偽ナルニモセヨ其裏書ヲ取消スニ非サレハ債權者ニ於テ之ヲ處分スルヲ得サルニ付キ其裏書ハ所謂詐害行爲ニシテ民法第四百二十四條ニ依リ之カ取消ヲ求メ得ヘキモノトス

○商法第三百五十八條以下ノ規定ニ基ク質入證券ハ其證券自體ニ於テ同法第三百五十九條ノ要件ヲ具備セサルヘカラス故ニ他ノ事物ヲ以テ其要件ヲ證明シ若クハ他ノ比例ヲ探テ其要件ヲ推定スルカ如キハ性質上之ヲ許サス

第十章 保險

○會員中結婚、出産又ハ就學兒童アル場合ニ他ノ會員ヨリ若干ノ金圓ヲ醸出セシメ其幾分ヲ之ニ給與シテ殘額ヲ利得セントスル會社事業ハ保險行爲ニ類似セル一ノ條件附法律行爲ト稱シ得ヘキモノ之ヲ以テ直ニ保險行爲ト云フヲ得ス

三六	三七	三九	三三
四七五	三六	七	三七

第一節 損害保險

○商法第四百二十七條ニ所謂生死トハ死亡ト生存トノ二者ヲ云フモノニシテ出生ヲ包含スルモノニ非ス又妊婦ハ其胎兒又ハ自己ノ身體ニ就キ金錢上ノ利益ヲ有スルモノト言フコトヲ得サレハ出生ヲ條件トシテ多數ノ契約者ヨリ報酬ヲ醸出セシメ會社ヨリハ之ニ對シテ保護料ヲ支拂ヒ其差額ヲ利得セントスル會社事業ハ生命保險ニモ非ス損害保險ニモ非サルナリ

第一款 總則

○家屋ノ買主ハ未タ其登記ヲ爲ササルモ既ニ自己ノ所有タル上ハ火災ニ因テ生スルコトアルヘキ損害ハ即チ自己ノ損害ナルカ故ニ之ヲ填補スル爲メ其家屋ヲ被保險物ト爲シ以テ適法ニ火災保險契約ヲ取結ヒ得ヘキモノトス

第二節 生命保險

○商法第四百二十七條ニ所謂生死トハ死亡ト生存トノ二者ヲ云フモノニシテ出生ヲ包含スルモノニ非ス又妊婦ハ其胎兒又ハ自己ノ身體ニ就キ金錢上ノ利益ヲ有スルモノト言フコトヲ得サレハ出生ヲ條件トシテ多數ノ契約者ヨリ報酬ヲ醸出セシメ會社ヨリハ之ニ對シテ保護料ヲ支拂

三五	三七	三九
七	一	

ヒ其差額ヲ利得セントスル會社事業ハ生命保險ニモ非ス損害保險ニモ非サルナリ

○商法第四百二十八條第四項ノ規定ハ保險契約者カ被保險者ト別人ナル場合ハ勿論其同人ナル場合ニ於テモ亦之ヲ適用スヘキモノトス

○被保險者ノ病症ハ直接生命ニ危險ヲ及ホスヘキ惡性ノ原因ヨリ來ルモノト否トヲ論セス苟モ生命ノ危險ヲ測定スルニ多少ノ關係アルヘキヲ以テ其中ニ就キ緊要ノ關係ヲ有スルモノハ即チ重要事項トシテ契約ノ際之ヲ保險者ニ告知スヘキモノトス而シテ或事項カ果シテ生命ノ危險測定ニ緊要ノ關係アルヤ否ヤハ事實承審官ノ專決スヘキ所ナレトモ之ヲ一定ノ病症ニ限ルヘキモノニ非ス

○被保險者カ以前他ノ生命保險業者ニ申込ヲ爲シ醫師ノ診查ヲ受ケタルヤ否ヤノ事實ハ保險契約ヲ締結スルヤ否ヤノ決意ニ影響ヲ及ホスヘキモノナレハ商法第四百二十九條ニ所謂重要ナル事實ニ該當スルモノトス

○保險者カ診查醫ヲ機關トシテ保險契約ヲ締結シタル場合ニハ被保險者ノ健康状態ニ付キ其診查醫カ知了セル事實ハ保險者ニ於テモ亦之ヲ知リ得ヘキ状態ニ在ルモノトス

三	三	三九	四〇	四〇
七	二四二	八〇六	四四二	四八三
三四				

○商法第四百二十九條ハ被保險者ノ生命ニ關スル危險測定ノ爲メ重要ナル事實又ハ事項ノ申告義務ヲ保險契約者ニ負擔セシメタルモノトス從テ其危險測定ニ關係ヲ有セサル職業ヲ詐リタルカ如キハ同條ノ所謂重要ナル事實又ハ事項ニ該當セス

○保險契約者カ保險料ヲ繼續シテ支拂フヘキ資力ヲ有スルヤ否ヤノ事實ハ之ヲ保險者ニ告知スルノ義務ナキモノトス

○被保險者ニ人違アルカ又ハ詐欺ノ申込ヲ爲シタルトキハ民法總則ノ規定ニ依リ其契約無効ニ歸シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得ルモノトス從テ商法第四百二十九條ハ此場合ニ適用スヘキモノニ非ス

○生命保險契約ノ拒絕ハ保險業者カ被保險者ノ生命ニ關スル危險ヲ測定シ不利益ト認メタル場合ニ存スルヲ普通トス從テ被保險者カ以前他ノ保險業者ヨリ契約ノ申込ヲ拒絕セラレタル事實ハ商法第四百二十九條ノ所謂重要ナル事實ニ該當セス

○被保險者カ以前他ノ生命保險業者ニ契約ノ申込ヲ爲シタル事實又ハ同一契約ノ申込ヲ爲シ承諾ヲ受ケタル事實ハ被保險者ノ生命ニ付キ危險測定ニ何等ノ關係ナケレハ商法第四百二十九條ノ所謂重要ナル事實ニ包含セス

四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
九三九	九三九	九三九	九三九	九三九

- 商法第四百二十九條ニ所謂重要ナル事實又ハ事項トハ生命保險契約ノ性質上危險測定ノ爲メニ重要ナルモノヲ指稱シ契約當事者ノ意思如何ハ問フ所ニ非ス
- 商法第四百二十九條ハ強制的規定ニ非サルヲ以テ之ニ異ナル別段ノ意思表示ヲ爲スコトヲ妨ケス而シテ其意思表示ノ内容ハ當事者ノ任意ニ決定シ得ヘキモノナルハ重要事實タルヘキ既往病歴ヲ重要ナラサルモノトシ又ハ之ヲ重要ナルモノトスル場合ニ於テモ其告知ヲ爲ササル結果ニ付キ該規定ニ異ナル意思ヲ表示シ保險者ノ選擇ニ從ヒテ契約ノ效力ヲ定ムルコトヲ得

第四編 手形

第一章 總則

- 手形ノ支拂地ニ支拂人カ營業所住所及ヒ居所ヲ有セサル場合ニ於テ商法第四百四十二條ノ手續ヲ爲サシテ當然支拂請求ノ手續ヲ爲シタルモノト看做シタルハ違法ナリ
- 手形ヲ取得セシ原因カ消滅シタル場合ニ於テハ其取得者ハ手形取戻ノ請求ニ應セサルヘカラス

三	三	四	四
一〇	八		
一一	四	一〇五	九九

- 拒絕證書カ拒絕者ノ營業所又ハ住所以外ニ於テ作成セラレタルモノナルヤ否ヤヲ爭フトキハ被拒絕者ニ於テ其場所ハ拒絕者ノ營業所又ハ住所ナルコトヲ證明スルノ責任アルモノトス
- 執達吏カ當該官署若クハ公署ニ問合ヲ爲サシテ振出人ノ住所ナリト判斷シタル事項ハ裁判所ヲ羈束スル效力ナシ
- 支拂ノ場所ヲ記載シタル手形ニ付テハ該場所ニ於テ其呈示及ヒ拒絕證書ノ作成ヲ爲スコトヲ得ルモノトス
- 舊商法ノ施行中滿期日ノ到來シタル約束手形ニ關スル時效期間ノ計算ニ付テハ民法第四百十條ノ規定ヲ適用スヘキモノナルハ滿期日ヲ算入スヘキモノニ非ス
- 東京又ハ大阪ト稱スルトキハ一團ヲ成ス所ノ地域ナル東京市又ハ大阪府ヲ指シセル固有名稱ニシテ幾團ノ地域ヲ包括セル東京府又ハ大阪府ヲ指シセル名稱ニ非ス
- 手形ハ賣買取引ハ勿論金錢貸借其他種種ノ原因ニ基キ振出スコトヲ得ヘキモノナルハ金錢貸借ノ原因ニ基キ手形ヲ振出シタル事實アリトスルモ直ニ外觀ノ爲メニノミ手形ヲ振出シタルモノト謂フコトヲ得サレハ其直接ノ當事者間ニ於テモ之カ爲メニ手形上ノ權利關係カ發生セサ

三	三	四	四
一〇	八	一〇五	九九
一一	四	一〇五	九九

ルモノト爲ササルヘカラサルノ理由ナシ
 ○手形ノ振出地トハ市町村ノ如キ獨立シタル最小ノ行政區畫ヲ謂フモノ
 ナレハ手形ニ振出地タル市町村ヲ記載スレハ足ルモノニシテ郡縣ノ如
 キハ之ヲ記載スルコトヲ要スルモノニ非ス

(同三三)

法律ニ於テ振出地ト稱スル地域ハ市町村若クハ北海道(沖繩)ノ區ノ如キ行政區劃中獨立シタ
 ル最小地域ノ謂ナリトス

○二三ノ縣下ニ同一名稱ノ市町村アル場合ニ於テ其市町村ヲ振出地トシ
 テ記載スルトキハ果シテ何レノ縣下ノ市町村ヲ指示スルヤ手形面ニ於
 テハ知ルコト能ハサルモ之ヲ以テ手形ノ要件タル振出地ノ記載ナキモ
 ノト爲スコトヲ得ス

○改正商法ハ從來慣用ノ捺印主義ヲ捨テ專ラ署名ノミニ重キヲ置クカ故
 ニ同法中署名ヲ以テ證券成立ノ條件ト爲シタル規定ニ於ケル署名トハ
 自署ノ義ニシテ單ニ記名ノミヲ以テ足レリトスルノ意義ニ非サル法意
 ナリト解釋セサルヘカラス

○手形ノ振出地トハ其振出行爲ヲ爲ス地ヲ指稱シ而シテ手形ノ振出行爲
 トハ手形ヲ受取人ニ交付スル行爲ノミヲ謂フニ非スシテ手形作成ノ行

三五	六	一〇一
三五	六	一〇一
三四	九	二四
三五	九	五九

爲ヲモ指稱スルモノトス

(同三三)

手形ノ振出行爲ハ振出人カ受取人ニ手形ヲ交付スル行爲ノミヲ指稱スルニ非スシテ手形ニ其
 要件ヲ記載シ之ニ署名スル行爲ヲモ包含スルモノトス

○手形ノ交付地ハ勿論其作成ノ地ヲモ振出地ト爲スコトヲ得ヘキモ手形
 ノ振出行爲ニ全ク關係ナキ地ヲ以テ振出地ト爲スコトヲ得サルモノト
 ス

○雇人カ約束手形ヲ振出シタル後受取人ヨリ其手形金額支拂ノ請求ヲ受
 ケタル場合ニ於テ該手形ハ主人ノ代理トシテ振出シ受取人ハ其事實ヲ
 知悉シ乍ラ之ヲ受取リタルモノナリトノ抗辯ハ當事者間ニ生セシ直接
 ノ事由ナルヲ以テ商法第四百四十條但書ノ規定ニ從ヒ振出人ヨリ受取
 人ニ對シ直接ニ對抗シ得ヘキモノトス

○手形債務ノ履行ハ手形ニ署名シタル者ニ對シテノミ之ヲ強要シ得ルモ
 ノトス

○手形上ニ使用セラレタル文言カ地方ノ慣習上如何ナル意義ヲ有スルヤ
 ニ付テハ當事者ニ於テ鑑定又ハ其他ノ方法ニ依リ之ヲ釋明シ得ルモノ
 トス

三五	九	七
三五	六	七
三五	九	七
三六	八	〇〇
三七	一	九
三七	二	九

○手形上ノ權利ハ法律ニ特別ナル規定ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外手形券面ニ記載シタル事項ニ非サレハ之ヲ主張シ得サルモノニシテ別箇ノ證書ニ依リ之カ補足ヲ爲スコトヲ許サスト雖モ此等手形上ノ權利ヲ發生セサル別箇ノ證書存在シタレハトテ之カ爲メニ其手形ヲシテ無効タラシムヘキモノニ非ス

(刑) ○手形ヲ偽造シタル者ハ善意ノ取得者ニ對シ手形上ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス故ニ偽造手形ヲ受領シタリトテ未タ損害ヲ被ムリタルモノト云フヘカラス

○取引所外ニ於ケル定期取引ハ其既ニ結了シタルト否トヲ問ハス又注文者カ之ヲ知ルト否トヲ論セス全ク不法ニシテ當然無効タルヘキモノトス故ニ斯ノ如キ取引ヲ原因トシテ手形ヲ授受スルモ其直接ノ當事者間ニ在リテハ手形上ノ權利關係ヲ生スルコトナシ

○手形ノ債權關係ハ一ニ其振出當時ノ文言ニ依リ定マルヘキモノニシテ後日ニ至リ其不足ヲ補充シ誤謬ヲ訂正スルモ之カ爲メニ既往ニ遡リテ手形ノ缺點ヲ追完シ得ヘキモノニ非スト雖モ其補正カ當事者間任意ニ行ハレタル場合ニ於テハ補正ノ當時更ニ新ナル振出行爲アリシモノト認ムルニ妨ナシ

○手形上ノ責任ハ一ニ其手形ノ文言ニ從ヒ之ヲ定ムヘキモノニシテ他ノ立證方法ニ依リ其文言ノ意義ヲ變更シ又ハ補充スルコトヲ許サス

(同義語)

手形署名者ノ責任ハ手形ノ文言ニ從ヒ之ヲ定ムヘキモノニシテ他ノ立證方法ニ依リ其文言ノ意義ヲ變更シ又ハ補充スルコトヲ許サス

○手形カ外觀上法定ノ要件ヲ具備スルトキハ手形トシテ形式上有效ナレトモ若シ其實質ニ於テ手形行爲ノ成立ヲ妨クヘキ瑕疵アルトキハ其手形行爲ハ無効ニ歸スヘキモノトス

○商法第四百三十八條ノ規定ハ手形ニ署名シタル者ハ其文言ニ從ヒ責任ヲ負フヘキモノナルカ故ニ手形當事者中偶々無能力ノ故ヲ以テ其債務ヲ取消スモノアルモ之カ爲メ他ノ署名者ノ債務ニ影響ヲ及ホササルコトヲ示シタルモノニシテ全然意思能力ヲ有セサル無能力者ノ手形行爲ヲ以テ有效ナリトスルノ法意ニ非ス

○手形債務者カ裏書人ニ對シ相殺ニ適シタル債權ヲ有スル事實ハ裏書人ニ對抗シ得ヘキ事由ニシテ之ヲ被裏書人ニ對抗シ得ルニハ必スシモ裏書人ニ對シテ相殺ノ意思表示ヲ爲シタルコトヲ要セス

○手形ノ變造ニシテ單ニ或文言ヲ添加シタルニ止マリ既存ノ文言ヲ變改

三	三	三	三
三	三	三	三
三	三	三	三
三	三	三	三

三	三	三	三
三	三	三	三
三	三	三	三
三	三	三	三

シタルモノニ非サル場合ニハ變造ニ係ル部分ヲ除却セハ變造前ノ文言ハ依然存在スルヲ以テ手形上ノ權利關係ニ何等ノ影響ヲ及ホサス從テ其前ニ署名シタル者ハ以前ノ文言ニ從ヒ手形上ノ債務ヲ負擔スヘキハ當然ナリ

○手形振出人ハ手形ノ振出ニ依リ現實自己ヲ利シタルト否トニ拘ハラズ手形ノ文言ニ因リ券面記載ノ金額ヲ支拂フヘキ義務ヲ負擔スルモ此債務ヲ免レタル振出人ハ常ニ手形面記載ノ金員ヲ利得シタルモノト速斷スルコトヲ得ス

○商法第四百三十八條ハ手形振出ノ當時無能力者タリシ者カ其取消權ノ存續中手形ヨリ生シタル債務ヲ取消シタルトキト雖モ他ノ手形上ノ權利義務ニ何等ノ影響ヲ及ホササルコトヲ定メタルモノニシテ無能力者自ラ手形ヲ振出シタル場合ニ未タ行爲能力ヲ得サリシ時ニ在ラサレハ其振出行爲ヲ取消シ得サル旨ヲ定メタルモノニ非ス

○商法第四百三十八條ニ所謂他ノ手形上ノ權利義務トハ手形行爲ヲ取消シタル無能力者以外ノ者ノ權利義務ヲ指稱セルモノトス從テ無能力者ニ對スル手形所持人ノ支拂請求權ノ如キハ之ニ包含セス

○約束手形ノ振出人ハ被裏書人ニ對シ其裏書讓受ノ眞實ナラサルコトヲ

三九

七九

三九

三九二

三九

七九

三九

七九

爭ヒ得ヘキハ勿論ナレハ裁判所ハ手形裏書ノ眞正ナルヤ否ヤノ争點ヲ判斷セサルヘカラス

○一覽拂ノ手形ニ裏書シタル者ハ爾後該手形カ滿期日アルモノニ變造セラレタル場合ト雖モ一覽拂手形ノ裏書人トシテ責任ヲ負フニ止マリ其變造シタル文言ニ從ヒテ責任ヲ負フヘキモノニ非ス

○手形債務者ハ手形ノ眞實ナル所持人ニ對シテノミ債務ヲ辨濟スル責任ヲ負フモノナレハ手形金ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ其請求者ノ眞實ナル所持人ニ非サルコトヲ争ヒ得ヘキハ當然ナリ

○振出人カ額面ノ金員ヲ受取ルコトヲ條件トシテ手形ヲ振出シタルトキハ手形金請求者ニ對シ未タ其金員ヲ受取ラサルコトヲ争ヒ得ルモノトス

○商法第四百四十四條ニ所謂振出人ノ受ケタル利益トハ其現實ニ受ケタル利益ヲ指稱シ手形債務者カ支拂ニ代ヘテ更ニ手形ヲ振出シタル事實ノ如キハ此ニ包含セス

○手形ニ瑕疵アルモ既ニ其使用ヲ終リタルトキハ之カ無効ヲ主張スルコトヲ得ス

○商法施行以後當事者カ爲替手形ノ名稱ヲ以テ發行シタル證券ハ縱令荷

三九

九七五

三九

二〇三

三九

二四八

三九

一四八

四〇

二〇

四〇

三三

爲替ノ方法ニ供セラレタル場合ト雖モ其手形關係ニ付テハ同法ニ規定セル手形ノ法則ヲ適用スルコトヲ要ス

四〇 三五〇

○代理人トシテ手形ニ署名スル者カ本人トノ代理關係ヲ表示スルニハ一定ノ文字ヲ記載スヘキ特別ノ方式アルニ非サルヲ以テ本人ノ爲メニ手形行爲ヲ爲スコトヲ認識シ得ル程度ニ記載スレハ足ルモノトス

四〇 三五九

○如上ノ場合ニ於テ代理人カ手形面ニ本人ヲ表示スルニハ其氏名又ハ商號ヲ記載スヘキ旨ノ規定ナケレハ本人其人ヲ認識シ得ル程度ニ記載スルヲ以テ足レリトス

四〇 三五九

○手形上ノ債務ヲ負擔スル爲メ紙面ニ署名シ他人ニ手形ノ要件ヲ補充セシムル意思ヲ以テ之ヲ交付シタルトキハ署名者ノ行爲ハ其交付ノ當時既ニ完成シ手形行爲トシテ有效ナルモノトス從テ書面交付ノ後手形要件補充ノ當時ニ至ルマテノ間ニ於テ署名者死亡シ又ハ無能力ト爲ル等ノ事故生スルモ原則トシテ其署名ノ效力ニ影響ヲ及ホスコトナシ

四〇 六〇八

第二章 爲替手形

○荷爲替契約ハ荷送人ト銀行トノ間ニ於テ一種ノ消費貸借關係ヲ生スルモノニシテ商法施行以前ヨリ存在シタル行爲ナリトス從テ荷爲替手形

ハ必スシモ商法所定ノ爲替手形タルコトヲ要セス

第一節 振出

○支拂擔當者ナルモノハ支拂地カ支拂人ノ住所地ト異ナル場合ニ於テノミ定ムヘキモノトス

三四 二二二

○商法ハ手形ノ裏書又ハ手形債務ノ保證ヲ爲ス場合ニ補箋ヲ使用スルコトヲ認許シタルモ支拂地又ハ支拂場所ヲ記載スル爲メニハ之ヲ使用スルコトヲ認許セス

三五 九〇三

○商法カ補箋ヲ使用スルコトヲ認許セサル場合ニ補箋ニ記載シタル事項ハ手形上ノ效力ヲ生セス

三五 九〇三

○商法ハ二人以上共同シテ手形行爲ヲ爲スコトヲ禁止セス故ニ數人カ一ノ手形ヲ振出スモ其效力ノ妨ト爲ルコトナシ

三七 一五七

(同法)

手形ニ振出人數名アルモ其效力ノ妨トナラス

三四 一三

○手形中滿期日ヲ表示スヘキ場所ニ年號ノミヲ記載シ月日ノ記載ナキトキハ一覽拂ノモノト認ムルヲ相當トス

三七 一五八

○手形ノ支拂場所ノ表示方法ニ付テハ商法中別段ノ規定ナケレハ荷モ普通ノ方法タル以上ハ如何ナル名稱ヲ以テ之ヲ表示スルモ妨ナシ

三六 八

○株式會社某銀行ト云フカ如キ名稱ハ一定ノ法人ヲ表示スル爲メニ用キ
ラレ又其營業所ノ表示トシテ用キラルルヲ通常トス故ニ振出人ハ斯ル
名稱ヲ以テ手形ノ支拂場所ヲ表示スルコトヲ得ヘシ

第二節 裏書

○手形ノ所持人ニ於テ擅ニ裏書讓渡ヲ抹消シタル上之ヲ償還義務者ニ返
還スルモ法律上償還ノ義務ヲ盡シタル效力ヲ生セス隨テ償還義務者カ
其手形ヲ握手スルモ爲替法上所持人ノ地位ヲ有セサルモノトス

○手形ニ裏書人又ハ被裏書人トシテ商事會社ノ支店ヲ記載シタルモノハ
該支店ニ於テ商行為ヲ爲ス所ノ法人ヲ指示シタルニ外ナラサルモノト
ス

(同主旨)

商事會社ハ其本店若クハ支店ニ於ケル商行為ノ人格ナルヲ以テ手形ノ裏書ヲ會社支店宛ト爲
シタル場合ニ於テ其裏書讓受人ハ法人タル會社ナリトス
手形ノ裏書ニ某株式會社支店ヲ裏書讓受人ト爲シタル場合ニハ某株式會社ヲ以テ裏書讓受人
ト爲シタルモノト看做スヘキモノトス

○本店ト支店トノ間ニ於ケル手形ノ裏書ハ同一人間ニ爲シタル裏書ニシ
テ手形上何等ノ效力ナク其裏書ハ始メヨリ記載ナキモノト同一ナリト

三六	三六	三六	三六	三六
三五	三五	三五	三五	三五
三四	三四	三四	三四	三四
三三	三三	三三	三三	三三
三二	三二	三二	三二	三二
三一	三一	三一	三一	三一
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
二九	二九	二九	二九	二九
二八	二八	二八	二八	二八
二七	二七	二七	二七	二七
二六	二六	二六	二六	二六
二五	二五	二五	二五	二五
二四	二四	二四	二四	二四
二三	二三	二三	二三	二三
二二	二二	二二	二二	二二
二一	二一	二一	二一	二一
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
一九	一九	一九	一九	一九
一八	一八	一八	一八	一八
一七	一七	一七	一七	一七
一六	一六	一六	一六	一六
一五	一五	一五	一五	一五
一四	一四	一四	一四	一四
一三	一三	一三	一三	一三
一二	一二	一二	一二	一二
一一	一一	一一	一一	一一
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
九	九	九	九	九
八	八	八	八	八
七	七	七	七	七
六	六	六	六	六
五	五	五	五	五
四	四	四	四	四
三	三	三	三	三
二	二	二	二	二
一	一	一	一	一

ス

○手形ノ裏書ヲ爲スニ付キ之ニ附箋シテ裏書人カ署名シタルハ商法第四
百五十七條ニ所謂補箋ニ外ナラサレハ裏書ノ方式ニ背反スル所ナシ

○商法第四百五十七條ニ規定セル二種ノ裏書ハ孰レモ指圖式手形ニ付キ
之ヲ爲スコトヲ得ヘキハ勿論記名式ノ手形ニ付キテモ之ヲ爲スコトヲ
得ヘキハ商法ノ解釋上毫モ疑ヲ容レズ

○手形券面ヲ補フ紙片即チ補箋ヲ使用スルコトヲ得ヘキ場合ハ商法カ手
形券面ニ記載セシムルコトノ事實上困難ナル場合ヲ豫想シ特ニ之ヲ使
用スルコトヲ認許シタル場合ニ限ルモノトス

○商法ハ手形ノ裏書又ハ手形債務ノ保證ヲ爲ス場合ニ補箋ヲ使用スルコ
トヲ認許シタルモ支拂地又ハ支拂場所ヲ記載スル爲メニハ之ヲ使用ス
ルコトヲ認許セス

○荷爲替ニ於ケル爲替手形ハ流通證券トシテ發行スルモノニ非ス從テ受
取人ナル銀行カ他ノ銀行ニ裏書ヲ爲スコトアルモ其旨趣タル手形記載
ノ金額取立ヲ委任スルヲ以テ通例トシ權利ノ移轉ヲ目的トスルモノニ
非ス

○裏書ニ因ル手形債權ノ讓渡ハ當事者カ裏書ノ記載ヲ爲スノミヲ以テ足

三六	三六	三六	三六	三六
三五	三五	三五	三五	三五
三四	三四	三四	三四	三四
三三	三三	三三	三三	三三
三二	三二	三二	三二	三二
三一	三一	三一	三一	三一
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
二九	二九	二九	二九	二九
二八	二八	二八	二八	二八
二七	二七	二七	二七	二七
二六	二六	二六	二六	二六
二五	二五	二五	二五	二五
二四	二四	二四	二四	二四
二三	二三	二三	二三	二三
二二	二二	二二	二二	二二
二一	二一	二一	二一	二一
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
一九	一九	一九	一九	一九
一八	一八	一八	一八	一八
一七	一七	一七	一七	一七
一六	一六	一六	一六	一六
一五	一五	一五	一五	一五
一四	一四	一四	一四	一四
一三	一三	一三	一三	一三
一二	一二	一二	一二	一二
一一	一一	一一	一一	一一
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
九	九	九	九	九
八	八	八	八	八
七	七	七	七	七
六	六	六	六	六
五	五	五	五	五
四	四	四	四	四
三	三	三	三	三
二	二	二	二	二
一	一	一	一	一

- レリトセス其手形ヲ被裏書人ニ交付シテ始メテ完成スルモノトス
- 手形ノ裏書ニシテ被裏書人ノ指定ナキ場合ニ於テハ苟モ裏書人ノ署名アルトキハ年月日ノ記載アルト否トニ拘ハラズ適法ノ裏書ナリトス
- 手形ハ裏書禁止ノ記載アル場合ヲ除ク外當然裏書ニ依リテ譲渡シ得ヘキモノナレハ手形金請求訴訟ノ提起ハ毫モ裏書ノ妨トナルモノニ非ス
- 差押債権者カ轉付命令ノ效力ニ因リ取得シタル手形ニ基キ振出人ニ對シテ支拂ヲ請求スル場合ニ在リテハ裏書ヲ要スルモノニ非ス
- 手形ノ所持人カ支拂拒絶證書作成期間經過ノ後裏書ヲ爲シタルトキハ手形債務者ハ手形ニ記載ナキ事項ト雖モ裏書人ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由ハ總テ之ヲ被裏書人ニ對抗シ得ルモノトス
- 裏書ハ獨立ナル手形行爲ニシテ他ノ手形行爲ト分離シ有效ニ成立スルコトヲ得從テ一旦有效ニ成立セル裏書ハ原手形ノ振出人ノ署名偽造ナルガ爲メニ其效力ヲ失フヘキモノニ非ス
- 手形ノ成立前其受取人タルヘキ者カ豫メ手形用紙ニ裏書ヲ爲シタル場合ト雖モ爾後振出人ニ於テ該手形成立ニ必要ナル事項ノ記入及ヒ手形ノ交付ヲ爲シ振出行爲完成スルトキハ其裏書ハ之ト同時ニ效力ヲ發生スルモノトス

三六	三七	三八	三九	四〇	四一
七四	七五	七六	七七	七八	七九

- 銀行取締役カ其權限内ニ於テ銀行ノ爲メニスルコトヲ表示シ署名ノ上手形ノ裏書ヲ爲シタルトキハ該手形行爲ハ直接ニ銀行ニ對シテ其效力ヲ生スルモノトス而シテ取締役ノ眞意カ果シテ銀行ノ利益ヲ計ルニ在リシヤ將タ其地位ヲ濫用シテ不正ニ自己ノ利益ヲ圖ラントスルニ在リシヤハ之ヲ問フノ要ナシ
- 銀行取締役カ其地位ヲ濫用シ不正ニ利益ヲ獲得セント企テ手形ニ裏書シタル所爲ニ付キ文書偽造罪トシテ處罰ヲ受ケ其裏書ノ部分ヲ沒收セラレタル場合ト雖モ該處分ハ手形所持人ノ權利ニ何等ノ消長ヲ來スコトナシ
- 手形行爲ヲ爲ス者カ其手形ニ記載スル氏名又ハ商號ハ必ス公簿上ノモノニ限ルヘキ理由ナケレハ氏名若クハ商號ノ形體ヲ具フルモノニシテ本人ノ慣用ニ依リ知人又ハ隣侑間其稱呼ナルコトヲ知了セル場合ニハ所謂通稱ハ勿論雅號ト雖モ亦手形方式上ノ氏名若クハ商號タルニ妨ナキモノトス
- 手形債權ノ譲渡ノ爲メニスル裏書ト取立ノ爲メニスル裏書トハ其目的ヲ同ウセス從テ取立ノ爲メニスル裏書ヲ表面上譲渡ノ爲メニスルカ如ク假裝スルコトハ事實上必スシモ之ヲ爲シ得サルモノニ非ス

三九	四〇	四一	四二
四七五	四七六	四七七	四七八